

御名 御璽

辨濟提供規則

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レル辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ
 第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ調書ヲ作り其調書ニハ提供物金錢ナルトキハ其種類員數ヲ記シ特定物ナルトキハ他物ニ換ユルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ定量物ナルトキハ其種類員數ヲ記ス可シ
 第三條 右ノ調書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ準用ス
 第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金十二錢其他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受クルモノトス

第三章 財産取得編

○明治二十三年三月法律第二十八號ノ内
 ○明治二十三年十月法律第九十八號ノ内
 民法財産取得編目錄

總則

第一章 先占 三百七十九丁
 第二章 添附 全丁
 第一節 不動產上ノ添附 全丁
 第二節 動產上ノ添附 三百八十一丁
 第三章 買賣 三百八十三丁
 第一節 買賣ノ通則 全丁

第一款 買賣ノ性質及ヒ成立
 第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力
 第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第二節 買賣契約ノ効力
 第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險
 第二款 賣主ノ義務
 第一款 引渡ノ義務
 第二款 追索擔保ノ義務
 第三款 買主ノ義務

第三節 買賣ノ解除及ヒ銷除
 第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除
 第二款 受戻權能ノ行使
 第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル買賣廢却訴權
 第四節 不分物ノ競賣
 第四章 交換 全丁
 第五章 和解 四百一丁
 第六章 會社 四百二丁

第一節 會社ノ性質及ヒ設立 全丁
 第二節 社員ノ權利及ヒ義務 四百三丁
 第三節 會社ノ解散 四百八丁
 第四節 會社ノ清算及ヒ分割 四百九丁
 第七章 射倖契約 四百十一丁

○第二編民法○第三章財産取得編目錄

三百八十三丁
 三百八十五丁
 三百八十六丁
 三百八十七丁
 全丁
 全丁
 三百八十九丁
 三百九十三丁
 三百九十五丁
 全丁
 全丁
 三百九十八丁
 四百丁
 四百一丁
 四百二丁
 全丁
 四百三丁
 四百八丁
 四百九丁
 四百十一丁
 三百七十五

第一節 博戲及賭事	三百七十六
第二節 終身年金權	四百一十一
第一款 終身年金權ノ設定	全
第二款 終身年金權ノ契約ノ効力	四百一十三
第三款 終身年金權ノ消滅	四百一十四
第八章 消費借借及ヒ無期年金權	四百一十五
第一節 消費借借	全
第二節 無期年金權ノ契約	四百一十七
第九章 使用借借	四百一十八
第一節 使用借借ノ性質	全
第二節 使用借借ヨリ生シ又ハ其借借ニ際シテ生スル義務	四百一十九
第十章 寄託及ヒ保管	四百二十
第一節 寄託	全
第一款 任意寄託	全
第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託	四百二十二
第二節 保管	四百二十三
第十一章 代理	四百二十四
第一節 代理ノ性質	全
第二節 代理人ノ義務	四百二十五
第三節 委任者ノ義務	四百二十七
第四節 代理ノ終了	四百二十八
第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約	四百二十九

第一節 雇傭契約	四百二十九
第二節 習業契約	四百三十一
第三節 仕事請負契約	四百三十二
第十三章 和積	四百三十五
總則	全
第一節 家督和積	全
第一款 家督和積ノ通則	全
第二款 家督和積人ノ順位	四百三十六
第三款 隱居家督和積ノ特別規則	四百三十七
第二節 遺產和積	四百三十八
第三節 國ニ屬スル和積	全
第四節 和積ノ受附及ヒ拋棄	又四百三十八
第一款 單純ノ受附	全
第二款 限定ノ受附	四百三十九
第三款 拋棄	四百四十一
第四款 和積人ノ囑使セル和積財產ノ處分	全
第十四章 贈與及ヒ遺贈	四百四十二
總則	全
第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力	四百四十三
第二節 贈與	全
第一款 贈與ノ方式	全
第二款 贈與ノ廢罷	四百四十四
○第三編民法○第三章三財產取得編目錄	三百七十七

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例
第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第二款 遺言ノ特別方式

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分

第四款 遺言ノ効力及ヒ執行

第五款 遺言ノ廢罷及ヒ失効

第五節 包括ノ贈與及ハ遺贈ニ基ク不分明財産ノ分割

第一款 分割

第二款 分割ノ効力及ヒ擔保

第三款 分割ノ銷除

第十五章 夫婦財産契約

第一節 總則

第二節 法定ノ制

四百七十八

四百四十五丁

全丁

全丁

四百四十六丁

四百四十七丁

四百四十八丁

四百四十九丁

全丁

四百五十一丁

四百五十二丁

全丁

四百五十三丁

全丁

全丁

總則

第一條 物上及ヒ對人ノ權利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルコトヲ得

第一章 先占

第二條 先占ハ無主ノ動産物ヲ己レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所有權ヲ取得スル方法ナリ

第三條 狩獵、捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス
取時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ

第四條 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ證スル責ニ任ス

第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス

埋藏物カ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ

第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三ヶ年間ニ非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス

此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知リタル後一ヶ年間ニ之ヲ短縮ス

然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ時効ヲ適用ス

第二章 添附

第七條 動産ト不動産トヲ同ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ從ヒテ取得ス

第一節 不動産上ノ添附

第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附著セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費コテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス
右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時効ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス
植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ

第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其取去ヲ強要スルコトヲ得ス然レトモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一年内ニ其草木ヲ拔取リ且之ヲ返還スル強要ヲ受ク尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス
右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一今年ヲ經過シタルトキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ取拂フ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス河川ノ寄洲、中洲、干瀉ノ所有權又ハ水路ノ變換ニ因リ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ惡意ノ占有者アリシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ得

生スル浸沒地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干瀉ニ付テハ財産編第二十三條ノ規定ニ從フ

第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引セラレ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ匿シテ一週日間ニ之ヲ要求セザレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス
群ヲ爲シテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコトヲ得
飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一ヶ月間其回復ヲ爲スコトヲ得

第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ不動産カ所有者ノ意ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ減價ヲ受ケヌシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルコトヲ得但損害アルトキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス
附合ノ爲メニセル物ノ變換ハ之ヲ毀損ト看做ス

第二節 動産上ノ添附

第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ著シキ毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レテ利益タル限度ニ應ジ賠償ヲ負擔ス

或ル物ノ便益、粧飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ査定ニ委ス

第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離ヲ爲ス可カラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ財産編第三百七十條及ヒ第三百八十五條ノ規定ニ從フ

條ニ依リテ其額ヲ定ム

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル物ノ所有者ノ利益ノ限度ニ應シテノ其損失ノ賠償ヲ受ク

第十七條

不都合ナシニハ物ヲ分離スルコトヲ得サル有同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十八條

前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス

第十九條

附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スル責ニ任セズ添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十條

或人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作りタルトキハ物料ノ所有者ハ手問貸ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條

附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以テ成ルトキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑アルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得且優

先權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條

前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且條理ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ輪點ヲ審定ス

第二十三條

第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動產又ハ不動產ノ所有者ニ屬ス

右動產又ハ不動產ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス

所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若シハ受ケサル第三者ノ所爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ定メタル時效ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 買賣

第一節 買賣ノ通則

第一款 買賣ノ性質及ヒ成立

第二十四條

買賣ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代金ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ

買賣契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且義務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從フ

第二十五條

買賣ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス然レトモ當事者ハ買賣ノ成立ヲ各自ノ證據ニ供スル公正証書又ハ私署證書ノ調製ノ條件ニ繫ラシムルコトヲ得

第二十六條

買賣又ハ買受ノ一方ノミノ豫約アルトキハ要約者カ財產編第三百八條ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ締約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條件ヲ以テ契

○第二編民法○第三章財產取得編

約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 締約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ賣買カ成立シタリトノ判決ヲ爲ス
不動產權ノ賣買ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス

賣渡ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其登記ハ賣主ノ承繼人ニ對シ既往ニ
遡リテ効力ヲ生ス

第二十八條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シテ
契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ賣買ノ豫約カ即時ノ賣買ノ效ヲ有スルモノト判決
シ又期間ノ定アルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用セラルモノト判決スルコトヲ得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後賣渡及ヒ買受ノ契約ヲ取結フ義務又ハ單
ニ證書ヲ作ル義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ授受シタルトキハ契約ヲ取
結フコト又ハ證書ヲ作ルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニ
シテ還償ス

第三十條 即時ノ賣買ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲ル但買
主ノ與ヘタル手附カ金錢ナルトキハ其他ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ外合意ニテ
此性質ヲ明示スルコトヲ要ス

契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス
第三十一條 試驗ニテ爲ス賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ
之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス
第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ己レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ期限ヲ定メ
サルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サシテ賣渡物ノ引渡ヲ受ケ

タルトキハ買主ハ承諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十三條 賣買ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安キ契約ニ定ムルコトヲ要ス
又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委ネ或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ
評價ニ委ヌルコトヲ得

右評價カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルトキハ其評價ニ異議ヲ爲スコトヲ得但異
議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知リタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詐欺アルトキハ財産編第三百十二條及ヒ第五百四十四條
ノ規定ヲ適用ス

當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルコトヲ得然レトモ第三者ハ元本
ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣キ權限ヲ第三者ニ與ヘ
タルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 賣買契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段ノ定ヲ爲シタルトキ
ハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ不動産ト不動産トノ間ハス賣買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物
辨濟ヲ爲スコトヲ得

右代物辨濟ハ相當ノ疏明ヲ爲セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有效且
完全ナラス

又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非
サレハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相續
○第三編民法○第三卷財產取得編
三百八十五

人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其訴權ハ財產編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ
第三十七條 法律上、裁判上若シハ合意上ノ管理人ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ル
モ賣渡ノ任ヲ受ケタル財產ニ付キ協議上又ハ競買上ノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ競買ヲ處理シ又ハ指揮スルコトヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除訴權ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ爭ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管
轄ニ屬ス可キモノ、取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之ヲ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ爭フ相手方、其雙方ノ相續人及ヒ承繼人ニ非
サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ爭フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息トヲ辨
償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處分ヲ
禁シタル物ヲ目的トスルトキハ其賣買ハ無効ナリ

此賣買ノ無効ハ抗辯ニ依ルモ訴ニ依ルモ當事者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得

當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルコトヲ隱秘シタルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス

第四十二條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者雙方ニ於テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ援用スルコト
ヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全部滅失シタルトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此

滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知ラサル過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠償ヲ妨
ケス

物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラサリントキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ
用方ニ不十分ナルコトヲ證シテ賣買ヲ解除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保持スルコ
トヲ得但此二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス

賣買解除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知リタル時ヨリ六個月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此時ヨ
リ二個年ヲ過シレハ之ヲ受理セス

第二節 賣買契約ノ効力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ其物ノ危險ニ付テハ財產編第三百三十一條、
第三百三十二條、第三百三十五條及ヒ第四百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動產ナルトキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗スル
ニハ財產編第三百四十八條以下ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

財產編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ有體動產及ヒ債權ノ賣買ニ之
ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡ス義務、引渡ニ至ルマ
テ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨礙、追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任ス但
其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲サ、リントキハ財產編第三百三十三條第六項及ヒ第七項ノ

○第三編民法○第三卷財產取得編

三百八十七

規定ニ從フ
然レトモ買主カ代金辨濟ニ付キ合意上ノ期間ヲ得サリシトキハ賣主ハ其辨濟ヲ受クルマテ賣渡
物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキト雖モ買主カ賣買後ニ破産シ若クハ無資力ト爲リ
又ハ賣買前ニ係ル無資力ヲ隠秘シタルトキハ尙ホ引渡ヲ遅延スルコトヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡スコトヲ要ス
然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ賣主又ハ買主ハ約シタル數量ヨリ多ク引渡
シ又ハ取得スル責ニ任ス

第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル場合
ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足アルトキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタルトキ
ト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス
現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルトキハ買主ハ割合ヲ以テ代價補足ノ要求ニ服ス

第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ惡
意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シタルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクトモ二十分一ナルト
キニ非サレハ代價減少ノ要求ニ服セス
面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記ハ惡意ナル賣主ノ責任ヲ減セス

超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過カ二十分一ニ及ヘルトキニ非サレハ代價補足ノ要求ニ服セス
第五十一條 建物ノ存スルト否トハ問ハズ數箇ノ土地ヲ一箇ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ
唯一ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地不足ニアルト
キハ其坪ノ總數ニ從ハズ價額ニ從ヒテ相殺ス
此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルトキハ割合ヲ以テ代價ヲ増加シ又ハ之ヲ減少ス
此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル各部分ノ面積ヲ指示シタル場合ニモ之ヲ適用ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付キ權利ヲ有スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償ヲ要
求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積カ其用方ニ必要ナルコトヲ證シテ契約ノ解除ヲモ請求ス
ルコトヲ得但面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタル賣買ハ此限ニ在ラス
超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償スルコトヲ要スルトキハ單絶ニ契約ヲ
解除スルコトヲ得

第五十三條 上ノ規則ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量カ買主ニ於テ容易且即時ニ調
査スルコトヲ得サル日用品及ヒ不動産ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正、損害賠償又ハ契約解除ノ訴權ハ不動産ニ付テハ一
箇年ノ期間ニ付テハ一箇月ノ期間ニ之ヲ行フコトヲ要ス

右期間ノ經過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買主ニ在テハ引渡ノ日ヨリ始マル
第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質ニ存スルトキハ財産編第三百十條ノ
規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ擔保ノ事ニ付キ何等ノ特別ナル合意モ有ラサ
シトキハ買主ハ未ダ追奪ノ恐アルニ至ラサルトキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得又買主
カ契約ノ當時其物ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リ賣主カ之ヲ知ラサリシトキト雖モ亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシトキハ賣買ノ無効及ヒ追奪擔保ノ效果ハ買主ニ其猶ホ負擔スル代
金辨濟ノ義務ヲ免カレンメ又ハ其既ニ辨濟シタル代金ヲ取戻スコトヲ許スル在ルノミ
買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルトキト雖モ有取戻ニ於テ代金ノ減少ヲ受クルコト無シ但價格
ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ又ハ自己ノ利益ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス
如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨濟シタル代金ヲ取戻シタルトキハ物ノ占有ヲ賣主ニ返還スル
コトヲ要ス

第五十八條

三百九十

第一 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ノ辨償ヲ受ル

第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用ニシテ所有者ヨリ其辨償ヲ受クルコトヲ得サルモ

第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事ニ因ルモ亦同シ

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルコトヲ要スル果實

然レトモ買主ハ果實ニ換ヘテ之ニ對當スル時期間ノ賣買代金ノ法律上ノ利息ヲ受クルコト

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對スル答辯ノ費用及ヒ擔保請求ノ費用等總テノ損害

賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得

第五十九條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ財產編第三百八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫見スル

コトヲ得ヘカリシ限度ニ非サレハ前條ノ第二號第三號及ヒ末項ニ定メタル賠償ヲ負擔セズ

第六十條 善意ナル買主ハ契約後ニ賣渡物ノ他人ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ買主ヨリ代金

ヲ提供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受クルニ當リ賣買ノ無効ヲ申立テ且抗辯ノ方法ニ依リテ擔

保ノ定方ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但買主カ追索ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋棄スル旨ヲ明白ニ陳

述シタルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ買主ハ買主カ即時ニ擔保訴權ヲ行フヤ又ハ己レト

立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滞ニ付スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ買主ハ其受取リタル代金ト共ニ右評價ノ金額ヲ提供シテ供託シタルトキハ繼

令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セズ

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財產編第四百七十八條ニ從ヒテ行使シタル買主ハ再ヒ本條ノ

辭與セル權能ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ口後其物ノ所有者ト爲リタルトキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾スルヤ

擔保訴權ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルコトヲ何時ニテモ催告スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲リタル眞所有者ニ屬ス

第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買主カ

此部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣狹ニ因リ

テ有益ナルコトヲ證スルトキハ全部追索ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル

コトヲ得

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スル

コトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラス買主ハ

損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有ス

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ此ニ對當スル買

受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ル

第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタル働方役ノ追索アリタ

ルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲ヲ以テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財產ノ一分ニ存スル

用益權、賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第六十三條ノ規定ヲ適用ス財產ノ全部ニ

存スル用益權又ハ賃借權ニシテ其經過ス可キ殘餘時期カ建物ニ付テハ一个年土地ニ付テハ二个

年ヲ超エサルモノニ關シテモ亦同シ

賣買ノ財產ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權ノ繼續時期カ建物ニ付テハ一个年土地ニ付テハ二

个年ヲ超エ可キトキハ買主ハ尙ホ自己ニ殘存セル權利ノ不十分ナルヲ證スルコトヲ要セスシテ

前條ニ從ヒ賣買ヲ解除スルコトヲ得

第六十六條 契約ニ於テ述ヘタルト否トヲ問ハス賣渡シタル土地ニ先取特權又ハ抵當權ノ負擔ア

ル

○第三編民法○第三章財產取得編

三百九十一

リテ買主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル爲メニ必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ買主ノ債權者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラレタルトキハ買主ハ買主ニ對シテ第五十八條及ヒ第五十九條ノ規定ニ從ヒテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第六十七條 差押ヘタル財產ノ競落人カ追奪ヲ受ケタルトキハ被差押人ニ對シテ代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナルニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

競落人ハ差押人カ差押ノ際ニ其財產ノ債務者ニ屬セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債務者カ其財產ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ隱蔽シタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又

第六十八條 債權ノ買主ハ當然自己ノ債權ノ存立及ヒ其有効ノ擔保ノ責ニ任ス又買主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ締約シタルニ非サレハ其擔保ノ責ニ任セス

有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ買主ハ債權カ既ニ満期ト爲リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保ノ明約ト

未タ満期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ擔保シタルトキハ其擔保ハ満期ヨリ一今年又無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十今年ニテ絶止ス

第六十九條 物權ト人權トヲ問ハス等ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ爭アルコトヲ知リタルトキハ其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノミニシテ讓渡シタル權利ノ真ノ成立ヲ擔保セス

裁判上ト裁判外トヲ問ハス本權ニ關スル明白ノ爭ノ目的タル權利ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス讓渡人ハ其主張ノ虛構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス

第七十條 會社ニ於ケル自己ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其賣買契約ニ示セル權利ノ廣狹ニ付テノミ擔保ノ責ニ任ス會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算濟ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ボスコト無シ

賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルトキト雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ買主ハ代金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危險アルコトヲ了知シタルトキハ買主ハ此返還ヲ負擔セス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還スル責ヲ免カル然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨礙又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルコトヲ得ス

七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一分ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張スルトキハ賣渡物ニ關スル行為カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記シ有リト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ買主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ買主カ賣買ノ前ニ此行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十三條 財産編第三百九十九條及ヒ第四百條ハ擔保ノ爲メニスル賣主ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

第三款 買主ノ義務第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨濟スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意

引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルトキハ代金ノ辨濟ヲモ略ニ日後ニ延フルモノト推定ス
買主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルモハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス
代金辨濟ノ恩惠期限ハ引渡ノ爲メ買主亦之ヲ享有ス
第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルトキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動
産、債權、等ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス
引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲
ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡
ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス
反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セズ

第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨碍ヲ受ケ又ハ妨碍ヲ受ケル恐アル正當ノ事由ヲ有スルト
キハ買主カ其妨碍若クハ危險ヲ止マシムルマテ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メ
ノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得
此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ得ルトキハ買主無効ノ判決ヲ求メ
及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ買主ハ解除ノ方式ヲ
行フタル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ解除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ買主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル解除ノ權利ヲ保存スル爲
メノ公示ヲ爲ササリシトキハ當事者雙方ノ名ヲ以テ買主ヲシテ猶保ナク代金ヲ供託セシムルコ
トヲ得但其他代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ
引取ルコトヲ得ス

第八十條 動産物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トナ問ハス引渡ヲ受ケル權利ヲ有スル時ニ於テ
其引渡ヲ受ケルコトヲ拒ミタルトキハ買主ハ財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒ
テ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得
然レトモ日用品其他速ニ取損スヘキ物ニ付テハ買主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキ
ハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 買買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一部ノ履行ヲ
缺キタルトキハ他ノ一方ハ財産編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ
解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得ス
然レトモ此解除ハ履行ヲ缺キタル當事者ヲ遲滞ニ付シタルモ猶ホ履行セサルトキニ非サレハ當
然其效力ヲ生セズ

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ノ
負擔又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ買主ヨリ轉得者ニ對
シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス但債權擔保編第八十二條ノ規定ヲ妨ケス

第八十三條 辨濟期限ノ定アル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ辨濟ヲ缺キタル爲メ
ノ買主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害シテ之ヲ行フコトヲ得ス
辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ買主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除スルコトヲ得然レトモ善意
ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 買主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ部分

○第三編民法○第三章財產取得編

トキ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テハ其賣買ヲ解除ス可キコトヲ要約スルヲ得
右期間ハ不動産ニ付テハ五ヶ年、動産ニ付テハ二ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要
約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス
一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限内ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス
然レトモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テハ第二十六條及ヒ第二十七
條ノ規定ニ從フ

賣買後ニ於テ爲シ又ハ別贈書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ
買主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲メ定メタル期間ノ半以上ニ
及ヘルトキハ有効ニ受戻ノ權能ヲ要約スルコトヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻權能ノ行
使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産
ニ賣主ニ復セシム但賃借權ニシテ殘期ノ一ヶ年ヲ超ユサルモノハ此限ニ在ラス
動産物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動産物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フ
コトヲ得ス

第八十六條 買主ノ債權者ハ買主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得
然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ曉シ且財産編第三百二十九條ニ從ヒテ受戻
權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ買主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得
買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨ
リ己レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコト
ヲ得

第八十七條 買主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシ
メタルトキハ其權利ノ效力ハ賣主又ハ其債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ生ゼス

買主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ
得然レトモ讓渡前ニ賣主カ他人ニ對シテ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨礙スルコトヲ得
ス但其擔保權ヲ失フコト無シ

第八十八條 買主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣買代價及ヒ契約費用ノ外尙
ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ要ス
買主カ右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ猶豫ナク之ヲ供託スルコトヲ要ス
買主ハ物ノ改更費用ヲモ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償ニ付テハ賣主ニ猶豫ヲ許
スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受ケルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス
第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分明ノ部分ヲ受戻約款ニテ賣リタル場合ニ於テ買主カ他
ノ共有者ヨリ促カサレタル競買ニ因リテ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ前條ニ揭ケタル金額ニ
競買ノ代金ヲ加ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス又買主ハ之ニ故
障ヲ述フルコトヲ得ス

買主カ自ラ競買ヲ促シタルトキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ爲スコトヲ得又買
主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

第九十條 孰レヨリ競買ヲ促カシタル中間ハス買主ニ非サル共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル
場合ニ於テ賣主ハ競買ニ召喚セラレサリシトキハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ競落人ニ對シテ
受戻ノ權利ヲ有シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルトキ賣主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ賣主ハ孰レヨリ
分割ヲ促カシタル中間ハス他ノ所有者ニ歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシ
テ買主ニ歸シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得但買主ノ供與シ又ハ受取リタル補足代金ヲ賣主買
主ノ間互ニ計算スルコトヲ妨ケス

○第二編民法○第三章財産取得編
三百九十七

買主が分割を召喚せられたるに賣主は選擇を以て或は其分割を認諾し買主は對して前項ニ示シタル權利を行使し或は第八十八條ニ掲ケタル金額を買主に辨償し共有者は對して再分割を促カスコトを得

第九十二條 不分割の共有者が一箇の契約及び唯一の代償にて其物を受戻す約款を以て賣渡シタルトキハ買主ハ一分を付キ受戻す受戻スル責任ナシ又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

之ニ反シテ數人ノ共有者各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ爲スコトヲ得但第八十九條及第九十一條ノ規定ハ之ニ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十三條 數人ノ買主が一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻す約款にて取得シタルトキ買主各買主ノ間ニ分割ヲ爲ササル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スコトヲ得

既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣ニ因リテ各自ニ歸シタル部分ノミニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴訟權
第九十四條 動産ト不動産トノ間ハ賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラズ又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ辨償代金ト契約費用トヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却訴訟權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルカ隠スルコト能ハス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代償ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第九十六條 買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代償ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失ヒタル利益ニ付テノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ買主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐欺ヲ以テ隠レシタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第九十八條 賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタルコト其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生ジタルコト及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコトハ人證、鑑定其他ノ法律上ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス

第九十九條 賣買廢却、代償減少及ヒ損害賠償ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スコトヲ要ス
第一 不動産ニ付テハ六ヶ月
第二 動産ニ付テハ三ヶ月
第三 動産ニ付テハ一ヶ月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス
然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短縮ス但し其殘期カ此半ヲ超ルコトキニ限ル

買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間ニ隠レタル瑕疵ヲ覺知スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ其期間ノ満了後ニ於テモ訴ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗力ノ止ミタル時ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間ト爲ス

第一百條 隠レタル瑕疵ニ基キタル代償減少ノ訴訟ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償ニテ讓渡シタルモ之ヲ失ハズ但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又ハ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラルルノ恐アルトキニ限ル

第一百一條 賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ全部又ハ半以上滅失シタルトキハ賣買廢却訴訟

○第三編民法○第三章財産取得編
三百九十九

權ヲ行フコトヲ得ス

滅失部分ノ多少ニ拘ハラス代價減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シテ存在ス

如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隠レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ滅失ノ責ニ任ス

第百二條 合式ノ強制賣却ハ賣買廢却訴權ヲモ代價減少訴權ヲモ生セズ

第百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付テハ特別法ヲ以テ其賣買上ノ效果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ適用ス

第百四條 不分物ノ競買

財產ノ協議賣却又ハ競買ヲ爲シ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代價ヲ配當ス

第百五條 共有者カ其一人若シハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競買ヲ爲スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若シハ無能力者アルトキハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ不分物ノ競買ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル競買方式ニ從フコトヲ要ス

共同競買人ノ各自ハ常ニ競買ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ參與ハ當然且必要ナリトス

第百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競買又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シ規定シタル效力ヲ生ス

第百七條 競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ效力ヲ生ス

第四章 交換

第百七條 交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ

諾約セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スル契約ナリ

相互ノ權利ノ價額均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス

第百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ對スル妨礙及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ其選擇ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノヲ取戻ス

大コトヲ得但執レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得

但財産編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ權原ヲ登記アリタルトキニ限ル

第百九條 賣買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス

交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ストキハ贈與ニ

禁制シ又ハ之ヲ制限スル規則ニ從フ

當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ要約シタルトキハ第二十七條ニ依リ賣買ノ豫約ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第百十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ生シタル爭ヲ落著セシメ又ハ生スル

コト有ル可キ爭ヲ豫防スル契約ナリ

和解ノ成立、有効、効力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一般ノ規則ニ從フ

第百十一條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但其錯誤カ相手方ノ詐欺ニ起因スルトキハ此限ニ在ラス

○第三編民法○第三卷財産取得編

第四百十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行為ニ依リ承諾シタルコトヲ理由トシテ之ヲ銷除スル
コトヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ偽造ヲ知ラス又ハ其行為ヲ法律
ニ於テ無効ナラシムル所ノ事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第四百十三條 定マリタル争コ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書ニ因リテ當事者ノ一方カ争
ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且争フ可カラサル權利ヲ
有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得

確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ争ノ落著シタル場合ニ於テ其判決又ハ契
約ヲ知ラスシテ和解ヲ爲シタルトキモ亦同シ
然レトモ和解カ従前ノ原因ヨリ生スルコト有ル可キ總テノ争ヲ落著セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ
目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證書ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證書
カ相手方ノ所爲ニ因リテ控留セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十四條 有効ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ豫見シタ
ル争ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ効力ヲ生ス此場
合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ従前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但當事者雙方ニ更改
ヲ爲ス意思アリシトキハ此限ニ在ラス

之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ歸納シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ争ノ目的タラサ
リシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有價合意ノ規
則ニ從フ

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第四百十五條 會社ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ收ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲
メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ歸納

スル契約ナリ

第四百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十七條 社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ
以テスルコトヲ得

第四百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得
此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從
ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思
アリト推定ス

第四百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノ
ハ會社ニ之ヲ適用ス

第四百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第四百二十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示コト他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタ
ルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諸約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入レサルトキ
ハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ
金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第四百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ許約シタル社員カ其諸約ヲ飲キタルトキハ其社員ハ他ノ社
員ノ選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ飲キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償
シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用非テ得タル利益ヲ分與スル責ニ任ス

第四百二十三條 動産ト不動産トヲ間ハス特定物ノ所有權ヲ出資ト爲スコトヲ許約シタル社員ハ會
社ニ對シテ其動産ト不動産トヲ間ハス特定物ノ所有權ヲ出資ト爲スコトヲ許約シタル社員ハ會

○第三編民法○第三章財產取得編

社ニ對シ買主ト同シ其物ノ妨礙、追索又ハ面積、數量ノ不足及ヒ隠レタル瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス

又社員カ物ノ收益權ノミチ山資ト爲スコトヲ諾約シタルトキハ貸貸人ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第二百二十四條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ業務擔當人ヲ撰任シタルトキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ諭ユルコトヲ得ス

權限ノ定マラサル業務擔當人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行爲ヲ爲スニ止マル

又業務擔當人ハ會社ノ目的中ノ重要ナル行爲ニ付テハ共同ニテノミチ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行爲ヲ中止シ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十五條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ撰任セサル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ撰任セサル間ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行爲ヲ其條件ニ從ヒテ爲ス權ヲ有ス

第二百二十六條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ニ撰任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルトキ又ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルトキニ非サレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルコトヲ得ス

會社設立以後ノ契約ヲ以テ撰任シタル業務擔當人ハ之ヲ撰任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セズシテ之ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十七條 業務擔當人ヲ撰任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭任又ハ解任アリテ此等ノ事件ノ爲メニ會社ノ解散セサルトキハ總社員ノ過半数ヲ以テ其補闕者ヲ撰任ス

第二百二十八條 右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル總テノ處分ハ亦社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

定款ニ反スル行爲又ハ定款外ノ行爲ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス

第二百二十九條 第三者カ會社ト業務擔當社員ノ一人トニ對シテ同性質ノ債務ヲ負擔シタルトキ其

第三者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金額又ハ有價物ヲ此社員ニ擔保スルニ於テハ其社員ハ會社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債權ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得ス但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正當ノ利益ナシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルトキハ社員ハ其辨濟ノ額内ヨリ右ノ割合ニ應スル部分ヲ會社ニ分與スル責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有効ナル充當ヲ爲ササルトキハ財産編第四百七十二條ニ從ヒテ法律上ノ充當ノ規則ヲ適用ス

第二百三十條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス社員ニシテ會社ノ債務者ヨリ會社ニ對スル債務ノ一分ヲ受取リタル者ハ場合ノ如何ニ拘ハラズ會社ニ其利益ヲ得セシムルコトヲ要ス但自己ノ持分トシテ受取取書ヲ與ヘタルトキト雖モ亦同シ

第二百三十一條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過失又ハ懈怠ニ因リテ會社ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

此損害ハ社員カ會社營業ノ他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシメタル利益ト相殺スルコトヲ得ス但此事件ノ互ニ連絡シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十二條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ撰任セサルカ爲メ業務ヲ取扱フ社員ハ自己ノ業務ニ於ケルト同一ノ注意ヲ加ヘサルトキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セス

第二百三十三條 各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得ル金額ナキトキハ會社ノ所屬物ニ關スル必要及ヒ保持ノ費用ヲ自己ノ權利ノ割合ニ應ジテ分擔スル責ニ任ス

第二百三十四條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ會社ヲシテ自己ノ出資外ニ會社ノ爲メ有益ニ立替ヘタル金額ヲ返還セシメ又ハ會社ノ利益ノ爲メ善意ニテ負擔シタル義務ヲ認諾セシメ

又ハ會社ノ營業ノ爲メ自己ノ財産ニ受ケタル避ケルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得

第二百三十五條 會社營業ノ爲メ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

之ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メ會社資本中ヨリ引出シタル金額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其利息ヲ負擔シ尙ホ損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

第百三十六條 社員ハ會社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル各自ノ持分ヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ隨意ニ定ムルコトヲ得但第百三十八條ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第百三十七條 社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ合意スルコトヲ得

然レトモ利益ノミヲ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ合意シタリトノ推定ヲ受ク
如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ控除シ會社ノ貸方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ配當ス可キ利益ト看做サス又右貸方ヲ竭シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス然レトモ會社ノ存立中ニ詐害ナクシテ既ニ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ之ヲ變更セズ

第百二十八條 會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ歸ス可キ約款ハ無効ナリ

技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免カレシム可キ約款モ亦同シ
會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第百四十一條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第百二十九條 社員ハ自己ノ選任セシ又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルコトヲ得
仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ適法ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル條件ヲ應

行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルトキコト非サレハ之ヲ改定スルコトヲ得ス

右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ其定方ヲ知リタルヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十條 會社契約ヲ以テ持分ノ定方ヲ仲裁人ニ委任ス可キコトヲ定メタル場合ニ於テ少ナクトモ社員ノ過半數カ仲裁人ヲ選任スルコトニ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ其選任ヲ爲ス

選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサルニ當リ社員カ其收選ニ付キ一致セサルトキモ亦同シ

第百四十一條 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト爲リタルトキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應ジテ之ヲ配當ス

社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財産ト出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額ノ外尙ホ其財産ノ價額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

第百四十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ賣入シ又ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス但會社契約ヲ以テ社員ニ此權利ヲ認許シタルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ會社カ社員ノ讓渡サント欲スル持分ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持分ヲ讓渡サントスル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ拋棄スルカニ付キ之ヲ遲滯ニ付スルコトヲ要ス

第百四十三條 業務擔當人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有效ニ負擔シタル義務ハ會社カ法人ヲ成セルトキハ各社員ノ一身上ノ債權者ニ先クテ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保ス
會社資本ノ不十分ナル場合又ハ訴追債權者ニ其資本ヲ示ササル場合ニ於テハ總社員ハ連帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ法人ヲ成ササルトキモ亦同シ

一 右ノ場合ニ於テ各社員間ノ決算ハ第三百二十六條乃至第四百一十一條ニ規定シタル貸方及ヒ借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百節 會社ノ解散

第四百十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ當然解散ス

第一 會社契約ヲ以テ指定シタル期間ノ滿了又ハ解除條件ノ成就

第二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

第三 會社資本ノ全部又ハ半額以上ノ損失

第四 社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ收益ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ爲スノ不能

第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治産、破産又ハ顯然ノ無資力但第四百十七條ノ規定ヲ妨ケス

第四百十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルコトヲ得

第一 如何ナル場合ヲ問ハス社員ノ一致ノ意思

第二 會社ニ明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ惡意ニ非ス又不和合ノ時期ニ非スシテ解散ノ請求ヲ爲ストキハ社員一人ノ意思

第三 會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ社員ノ一人ノ義務不履行ニ基キタル解除ノ訴又ハ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求

第四百十六條 社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニテ其期間ヲ伸長スルコトヲ得

默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人ヲモ故障ヲ爲サスシテ會社營業ノ繼續シテ事實ヨリ生スルコトヲ得此場合ニ於テ會社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意思ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得

第四百十七條 社員ハ第四百十四條第五號ニ掲ケタル原因ニ由リテ會社ヲ解散セス且職員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得

又社員ハ死亡シタル社員ノ相続人又ハ無能力ト爲リタル社員ト共ニ會社ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ和積人又ハ無能力者ノ合式ノ代人ノ新ナル承諾ヲ要ス

第四百十八條 會社ノ解散シタルトキハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ清算ヲ請求スルコトヲ得

清算ハ分割前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ一分ノ分割ヲ先ニスルコトヲ請求シタルトキハ此限ニ在ラス

又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スコトニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十九條 清算ハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 著手シタル業務ノ成就

第二 會社ノ債務ノ辨濟及ヒ其債權ノ取立

第三 各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算

第四百二十條 分割ス可キ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第四百二十一條 會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ナキトキハ清算ハ或ハ總社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ委任シタル一人若シハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ選任シタル三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ選任ス

第四百二十二條 清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス速ニ毀損又ハ滅盡ス可キ物ヲ讓渡スコトヲ要ス

滿期ト爲リタル債務ノ辨濟ノ爲メ必要ナルトキハ其他ノ動産ヲ讓渡スコトヲ得

不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非サレハ之ヲ抵當トシ又ハ讓渡スコトヲ得ス

前項ノ讓渡ハ競賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但協議上ノ讓渡ヲ許シタル場合ハ此限ニ在ラス就レノ場合ニ於テモ社員ノ過半数ヲ以テ決スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スコトヲ得
清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲裁ハ第三者ト通謀シタル能欺ノ爲メ
ニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

第百五十二條 清算ニ於ケル總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レリトス

此議決ハ總計算ニ付キ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得
認可ヲ得サル計算ニシテ仕直スコトヲ得ヘキモノナルトキハ清算人其費用ヲ以テ之ヲ爲ス若シ
仕直スコトヲ得サルトキハ清算人ハ代理ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ズ
清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル行爲ハ善意ナル第三者ニ對シテ之ヲ
取消スコトヲ得ス

第百五十三條 會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請
求スルコトヲ得但當事者カ財産編第三十九條ニ從ヒ不分ニテ存スルコトヲ會社ノ解散後ニ合意
シタルトキハ此限ニ在ラス

第百五十四條 分割部分ノ定方又ハ其配付ニ付キ當事者ノ一致セサルトキハ財産共通ノ分割ノ爲
メ別ニ定メタル規則ニ從フ

第百五十五條 會社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ歸シタルモノニ關スル其社員ノ權利ハ
會社解散ノ日ニ溯リテ效力ヲ有シ又清算中他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ授與シタル權利ハ
之ヲ解除ス

第百五十六條 分割者ハ分割ニ因リテ取得ス可キ權利ノ上ニ受クルコト有ル可キ妨礙及ヒ追奪ニ
付キ其各自ノ部分ニ應ジテ相互ニ擔保ヲ爲ス
分割者ノ一人カ無資力ナルトキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ被擔保人ヲ併セテ他ノ共同
分割者ノ間ニ之ヲ分ツ

第七章 射倖契約

總則

第百五十七條 射倖契約トハ當事者ノ雙方若シハ一方ノ損益ニ付キ其效力カ將來ノ不確定ナル事
件ニ繫ル合意ヲ謂フ

第百五十八條 射倖契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノ有リ
博戲、賭事、終身年金繼其他終身權利ノ設定、陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル射倖ノ
モノナリ

此他成立又ハ效力ヲ停止又ハ解除ノ偶成ノ條件ニ繫ラシムル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル射倖ノ
モノナリ

第百五十九條 陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一節 博戲及ヒ賭事

第百六十條 博戲ハ博戲者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體軀運動ヲ目的トスルニ非サ
レハ其義務履行ノ爲メ訴權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體軀運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接ニ關係スル農工商業ノ進歩
ノ爲メニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ附約シタル金額又ハ有價物カ事情ニ照シテ過度ナリト見ユルトキハ裁
判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得シテ全ク其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

第百六十一條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ自然義務ヲモ生セズ且其債務ノ追認更改又ハ保證
ハ總テ無効ナリ

然レトモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能カ者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ取戻スコトヲ許サス但勝者ニ於テ
詐欺又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラス

第百六十二條 官許ヲ得サル官博ハ訴權ナキ博戲及ヒ賭事ト同視ス

商品又ハ公ノ證券ノ授機ノ定期買買ニ付テモ初ヨリ當事者カ諾約シタル金額又ハ有價物ノ引渡及ヒ辨濟ヲ實行スルニ意ナシ單ニ相場昂低ノ差額ヲ計算スルノミチ目的トシタルコトヲ被告ノ證スルトキモ亦同シ

第百六十三條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ無効ノ抗辨ヲ申立テサルトキハ判事ハ職權ヲ以テ其無効ヲ言渡スコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博識富講又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原因タルコトヲ明言セシトキニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第百六十四條 終身年金權ハ動産若シハ不動産ナル元本ノ讓渡ノ報酬又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有價ニテ之ヲ設定スルコトヲ得
又贈與又ハ遺贈ヲ以テ無價ニテ之ヲ設定スルコトヲ得
又終身年金權ハ有價又ハ無價ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之ヲ設定スルコトヲ得

第百六十五條 終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利益ノ爲メ之ヲ要約スルコトヲ得
此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有價契約ノ規則ニ從ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從フト雖モ贈與ノ方式ニ從フコトヲ要セス

第百六十六條 終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身時期シ又ハ第三者ノ終身時期シテ之ヲ設定スルコトヲ得
此末ノ場合ニ於テ契約カ有價ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾ヲ必要トス然レトモ此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス

第百六十七條 終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ終身時期シテ之ヲ設定スルコトヲ得
此場合ニ於テハ財産編第百條ノ利益權ニ關スル規定ヲ適用ス

第百六十八條 有價ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲メ終身時期セラレタル人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ死亡シタルトキハ當事者雙方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ
右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ後ニ罹レル疾病ノ爲メ六十日內ニ死亡シタルトキハ其契約ハ當然之ヲ解除ス

第百六十九條 無價ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノト定ムルコトヲ得
右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
發料トシテ無價ニテ設定シタル終身年金權ハ當然讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲メ贈與財産ノ上ニ留存シタル終身年金權及ヒ支拂時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第百七十條 終身年金權ノ讓渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミチ要約シタルトキト雖モ二事共ニ存立ス

第二款 終身年金權ノ契約ノ效力

第百七十一條 債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身時期セラレタル人ノ生存中ハ其年金權ノ年金ヲ支拂フコトヲ要シ且買戻ヲ爲スコトヲ得ス但買戻ニ付キ特別ノ合意アルトキハ此限ニ在ラズ
第百七十二條 年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲スコトキト雖モ債權者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

然レトモ年金ヲ前拂ス可キトキハ債務者ハ既ニ支拂時期ノ始マリタル全一期分ヲ負擔ス
第百七十三條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメ其賣却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得但他ノ債權者ノ競取ヲ拒ムコトヲ得ス

終身年金權ヲ無償ニテ設定シ又ハ贈與若シハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルトキモ亦右ト同一ニ處辨ス

第三百七十四條 終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身時期セラレタル人カ支拂ノ時期ニ生存セシコトヲ債權者ヨリ生存認證書ヲ以テ證セサルトキハ其年金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

第三款 終身年金權ノ消滅
第三百七十五條 有償ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ諾約シタル擔保ヲ供セス又ハ供シタル擔保ヲ減少スルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得但既ニ取得シタル年金ヲ返還スル責ナシ

贈與又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト同一ノ權利ヲ有ス
右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身時期セラレタル人カ確定判決前ニ死亡シタルトキハ之ヲ宣告セス

第三百七十六條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ終身年金權ニ之ヲ適用ス
終身年金權ハ此他尙ホ更改、合意上ノ免除、混同、時效及ヒ要約シタル受戻ニ因リテ消滅ス
然レトモ終身年金權カ第六十九條及ヒ第七十條ニ從ヒ法律又ハ人爲ニ依リテ讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サルモノナルトキハ其年金權ハ時效ニ罹ラス

如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期後五個年ニシテ時效ニ罹ル
第三百七十七條 終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身時期セラレタル人ノ死亡ニ因リテ消滅ス但第三百六十八條ノ規定ヲ妨ケス

然レトモ終身時期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正ノ原因ニ由リテ死亡シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有償ニテ又ハ贈與若シハ遺贈ノ負擔トシテ設定シタルトキハ其契約又ハ惠與ハ之ヲ解除ス且債務者ハ既ニ支拂ヒタル年金ヲ取戻サスシテ其取得シタル財産ヲ返還スルコト

ヲ要ス

右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈與シ又ハ遺贈シタルトキハ年金ノ支拂ハ裁判所カ終身時期セラレタル人ノ生命ノ繼續期ト推測スル期間之ヲ繼續セシム

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第三百七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

第三百七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メカリシトキハ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

返還ノ場所ノ定マテカリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所又利息附ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

第三百八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ借主ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ價額ヲ負擔ス

第三百八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ利息附ニシテ且借主カ善意ナリシトキハ貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス

然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有效ナリ

- 第一 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルトキ
- 第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトキ
- 第三 眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

第三百八十二條 貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル隠レタル瑕疵アリテ借主爲メニ損害ヲ受ケタルトキト雖モ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルトキハ此限ニ在ラス

此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セカリシ隠レタル瑕疵ト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス

四百十六

此他買賣廢却訴權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルコトヲ得

然レトモ貸主カ財產編第四百六十五條ノ節セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ要約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

第百八十四條 貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

第百八十五條 金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借

用物ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ辨濟ヲ約スルコトヲ得

第百八十六條 利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

借主ヨリ利息ヲ辨濟ス可キノ合意アリテ其額ノ定ナキトキハ其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨濟シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ス

第百八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルコトヲ得但法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

法律ノ制限ヲ超ユル顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超ユテ爲シタル辨濟ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得

債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ不正當ノ利息ヲ隠蔽シタルトキハ債權者ハ其不正當ノ利息ヲ辨濟スルコトヲ要セス若シ辨濟シタルトキハ之ヲ

取戻スコトヲ得

第百八十八條 貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ其利息ヲ受取り又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十九條 十ヶ年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十ヶ年後ハ常ニ辨濟ヲ爲ス權能ヲ有ス

然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ辨濟ス可キトキハ其取越辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十條 第百八十六條乃至第百八十九條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生スル義務ヲ除ク外金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上、法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

第二節 無期年金權ノ契約

第百九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ

此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

第百九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取リタル元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

然レトモ借主ハ十ヶ年ヲ超ユル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲ササルヲ約スルコトヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス

若シ之ヲ超ユルトキハ十ヶ年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ合意アラサルトキハ全部タルコトヲ要ス

債務者ハ六ヶ月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ債權者ニ豫告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲ササルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ強要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十三條 債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付遲滞ヲ受ケタル後引續キ二個年同年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク
此末ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割辨濟ヲ許與スルコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若クハ條件トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス
右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以テ之ヲ爲シ又元本ノ評定ナキトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス
日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ辨濟ハ特別ノ合意アルコト非サレハ前十年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以テ之ヲ爲ス

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質
第九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ黙示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ
此貸借ハ本來無償ナリ

第九十六條 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セズ單ニ貸主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス
借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セズ但相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還期限ノ期間ヲ受ク

ルコトヲ妨ケス

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

第九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用テ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルコトヲ得ヘキトキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危險ヲ受クルニ際シ自己ノ物ノミヲ救護シタルトキモ亦意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス

第九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ貸主ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス
第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシトキハ亦同シ但第二百三條第二項ノ規定ヲ妨ケス
返還ノ時期ヲ定メ且物ノ使用カ繼續ス可キモノナルトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルトキト雖モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付キ合式ニ故障ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第二百二條 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自連帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス

第二百三條 貸主ハ明示又ハ黙示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル要用ノ生シタルトキハ貸主ハ裁判所ニ請求シテ期

限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ辨償スル責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メ借主ノ受ケタル損害ニ付テハ第百八十二條第一項ノ規定ヲ適用ス

第二百五條 借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ルマテ借用物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ看守シ要求次第直チニ原物ヲ返還スル契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日、場所及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守及ヒ保存ニ付キ利害ノ關係アル人又ハ其代理人人之ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ニ付テハ公訴ヲ妨ケス

第二百十條 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲スルヲ要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受寄者ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス但此未ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第百九十八條ノ規定ヲ適用ス

第二百十一條 受寄物返還ノ遲滞ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

第二百十二條 寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ隱秘シタルトキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルコトヲ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得ス若シ之ヲ漏泄シタル爲メ損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第二百十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルコトヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又ハ默示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス

第二百十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリントキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若シハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滞ニ付セラル、コト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テハ公訴ヲ妨ケス

第二百五條 受寄者ノ和積人カ受寄物ナルコトヲ知ラスシテ其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其和積人ハ此ニ因リテ得タル利益ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責ニ任ス

右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

○第三編民法○第三章財產取得編

第二百十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二百十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メカリシトキハ受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所
ニ於テ之ヲ返還ス但寄託者ヲ詐害スル意思アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス
第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルコトヲ證スルコトヲ得ルトキ
第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ
第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ
第四 受寄者カ受寄物ノ盗品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知りタルトキ但此場合ニ於テ受

寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立會ノ上
ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過シルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨
ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄
者ノ受ケタル損害トヲ賠償スルコトヲ要ス
右賠償ノ皆濟ヲ受ケルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託
第二百二十條 寄託者カ火災、洪水、難船、地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ
已ムテ得ス寄託ヲ爲ストキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ

急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ事情ヨリ生スル事實ノ推定ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得
此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ攜帶シタル手荷物ノ受託ニ付テ
ハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス
舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦其運送ヲ任セラルル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト

看做ス
然レトモ本條ノ受寄者ハ有償合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 保管
第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ
保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ
第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ當事者ノ承諾アルコトヲ
要ス

裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選
定スルコトヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルコトヲ得
第二百二十四條 合意上ト裁判上トトキ間ハス保管人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ保管人
ハ善良ナル管理人ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フル責任ニ任ス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第九十九條ニ從ヒテ保管物ヲ貸貸スルコトヲ得然レト
モ合意上ノ保管人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ貸貸スルコトヲ得ス

裁判上又ハ合意上ノ保管人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回收スル爲メ占有訴權ヲ行フコトヲ得
保管人ノ占有ハ爭訟ニ於テ確定ニ勝テ得タル當事者ヲ利ス

第二百二十六條 保管ニ付シタル物ハ勝テ得タル當事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス
然レトモ保管人ハ自己ノ責任ヲ免カル、爲メ當事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ求ムルコトヲ得

第二百二十七條 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ保管ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ
第二百二十八條 差押物ニ於ケル裁判上ノ保管及ヒ債務者カ辨濟ニ提供シテ債權者ノ受取ルコト
ヲ阻ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

○第三編民法○第三卷財産取得編
四百二十三

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百二十九條 代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フコトヲ他ノ一方ニ委任スル契約ナリ

代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フトキハ其契約ハ仲買契約ナリ
仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十條 代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ受諾スルコトヲ得

第二百三十一條 代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ默示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十二條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ
總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理ノ行爲ノミヲ包含ス
代理力或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルトキハ其代理ハ部理ナリ

第二百三十三條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルトヲ問ハス其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ヲ暗ニ包含ス
然レトモ元本ヲ節約スル委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任ヲ包含セス

元本ヲ節約スル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含セス
訴訟ヲ爲ス委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲ス委任ヲ包含セス
和解ヲ爲ス委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

仲裁人ヲ選任スル委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲシテ其爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

第二百三十四條 代理ハ無能力者ニモ有效ニ之ヲ委任スルコトヲ得然レトモ其代理人ハ委任者ニ對シテハ無能力者ノ制限アル責任ノミヲ負擔ス

第二百三十五條 代理人ハ其管理行爲ノ全部又ハ一分ニ付キ他人ヲシテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得但此ヲ明示ニテ禁止セサルトキ又ハ事件ノ性質ニ因リテ專ラ代理人ノミニ委任シタリト看做ス可カラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自己ノ管理ニ於ケル如ク其復代人ノ管理ノ責任ヲ負ス

委任者カ復代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其指定ニ從フコト能ハサル場合ニ於テモ他人ヲ選任スルコトヲ得ス代理人カ其指定ニ從ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ代理人ハ其復代人ノ無能又ハ不誠實ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ復代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ任セス

委任者ノ禁止シタルニ拘ハラス復代人ヲ選任シ又ハ其承諾セサル人ヲ選任シタル場合ニ於テハ代理人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責ニ任ス但此復代人ノ選任ヲ爲ササレハ其損害ノ生シサル可カリシトキニ限ル

第二百三十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者ハ復代人ニ對シ其管理ニ關スル訴權ヲ直接ニ行フコトヲ得又之ニ對シ直接ニ責任ヲ負擔ス

同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理人ノ名ヲ以テスル間接訴權トノ間ニ選擇權ヲ有ス然レトモ直接訴權ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做ス

第二百三十七條 代理人ノ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ自己ノ了知シタル委任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就スル責ニ任ス此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス

全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナルニ非サレハ代理人ハ一分ノ履行ヲ爲ス責ナシ且之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十八條 指定ノ代價ニテ物ヲ買入ルル委任ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テスルコト非サレハ之ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入ノ認諾ヲ委任者ニ要求スルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代價ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

○第三編民法○第三卷財產取得編
第四百二十五

物ヲ賣却スル委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルトキハ代理人ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ認諾セシムルコトヲ得
第二百二十九條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルコトニ付テハ善良ナル管理人タルノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲ストキ

第二 代理人カ自ら求メテ代理ヲ爲シタルニ非サルトキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタルトキ

第四 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫期セカリシ利益ヲ得セシメタルトキ

第二百四十條 代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ證據書類ヲ添ヘテ其計算ヲ爲ス責ニ任ス其終了前ト雖モ委任者ノ之ヲ求メタルトキハ亦同シ

第二百四十一條 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ關シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有價物ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要ス又委任者カ正當ニ受取ルコトヲ得ス又ハ代理人ニ受取ルコトヲ託セカリシ金額若クハ有價物ト雖モ之ヲ受取リタルトキハ亦同シ然レトモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ受取ル可キ金額ヲ控除ス

代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ忘リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ滅失セシメタル金額若クハ有價物ノ假額ヲ前數條ニ依リテ負擔スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス

第二百四十二條 委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ利益ニ用サタル代理人ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ負擔ス其他損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

計算殘餘ノ金額ニ付テハ代理人ハ其過剰ニ付セラレタル日ヨリ利息ヲ負擔ス

第二百四十三條 一箇ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルトキハ唯一ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルト各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルトモ同ハス各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノ其責ニ任シ連帶

ヲ要約シタルトキ又ハ過失ノ連合ナルトキニ非サレハ其間ニ連帶ヲ成サス

第二百四十四條 代理人カ委任者ノ爲メ委任者ノ名ヲ以テ第三者ト爲シタル行爲ノ履行ニ付テハ代理人ハ其第三者ニ對シテ責ニ任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第三者ニ對シテ已レノ有セサル權限ヲ有スルモノノ如ク示シタルトキハ此限ニ在ラス

第三節 委任者ノ義務

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス

第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ辨償及ヒ其支出シタル日以來ノ法律上ノ利息ノ辨償

第二 合意シタル謝金ノ辨償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ特ニ謝金ヲ諾約スル理由ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ解脱又ハ其賠償

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スコトヲ約セサルトキハ其責ニ任セス然レトモ委任者ヨリ必要ナル資金ヲ供スルコトヲ拒絕シ又ハ廻延セシコトノ證據ナキニ於テハ支出ヲ約セサル爲メ代理ノ履行ヲ遅延スルコトヲ得ス

第二百四十七條 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレハ委任者之ヲ負擔セス但一分ツツ辨償ス可キコトヲ諾約シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ歸セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應シテ委任者之ヲ負擔ス

第二百四十八條 委任者カ義務ヲ辨償スルニ至ルマテ代理人ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レル原因タル物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第二百四十九條

四百二十八

數人カ唯一ノ證書又ハ各別ノ證書ヲ以テ共同事件ノ爲メ代理ヲ委任シタルトキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ上ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十條

委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシ第三者ニ對シテ負擔シタル義務ノ責ニ任ス

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シタル事柄ニ付テモ亦其責ニ任ス

第一 委任者カ明示又ハ默示ニテ代理人ノ行爲ヲ認諾シタルトキ

第二 委任者カ代理人ノ行爲ニ因リテ利益ヲ得タルトキ但其利益ノ限度ニ從フ

第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル正當ノ理由ヲ有シタルトキ

第四節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス

第一 委任者ノ爲シタル廢罷

第二 代理人ノ爲シタル拋棄

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若クハ禁治産

第四 委任者カ代理ヲ委任シ又ハ代理人カ之ヲ受諾セシ原因タル資格ノ絶止

第二百五十二條 委任者ノモ利益ノ爲メニ委任セシ代理ノ廢罷ハ謝金ヲ諾約シタルトキト雖モ委任者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 廢罷ハ將來ニ向ヒテノモ有效ナリ且其廢罷前ニ有效ニ爲シタル事柄ヲ害セス

第二百五十四條 數人ノ委任者アルトキハ其中ノ一人ノ爲シタル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス

第二百五十五條 代理ノ廢罷ハ默示タルコトヲ得默示ノ廢罷ハ同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ委任者ノ管理ノ回復其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ

第二百五十六條

代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當又ハ已ムヲ得サル原因ニ基キタルトキハ此限ニ在ラス

代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十七條 代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルトキ代理人ヨリ出テタルトキ問ハス當事者カ其告知ヲ受ケタルカ又ハ確實ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要ス

第二百五十八條 委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻シタルトキト雖モ懈怠ナシニ代理ノ終了ヲ知ラスシテ代理人ト約束シタル第三者ニハ代理終了ノ原因ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百五十九條 代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一ニ由リテ終了セシトキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタル利益ヲ自ラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ處理スルコトヲ要ス

此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキハ委任者ノ廢罷ニ因レルトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ス

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二百六十條 雇傭人、番頭、手代、職工其他ノ雇傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ雇傭人、番頭、手代ニ付テハ五小年職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一年

○第二編民法○第三卷財産取得編

四百二十九

年ヲ超ユルコトヲ得ス但習業契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス
既ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニテ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲
ス權能ヲ妨ケス

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ
又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且巳ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス
如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契
約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セ
シムルコトヲ得

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ
貸銀ノ取越過額ヲ返還ス

第二百六十五條 上ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭
契約ニ之ヲ適用ス

第二百六十六條 醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒
ニ諮詢シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、
訴訟人又ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諮詢ヲ得タル後其世話ヲ受クル責ニ任セス
然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ
裁判上ニテ要求スルコトヲ得
此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諮詢シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒絕シタル
者ハ其拒絕ヨリ此等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス
之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諮詢シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絕シタル者ハ因リテ加
ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第二節 習業契約

第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗ト
ヲ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スルヲ約スルコトヲ得
未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習
業契約ヲ取結フコトヲ得ス

第二百六十八條 合式ニ保佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時
期ヲ超ユルコトヲ得ス但習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ延長スルコトヲ妨
ケス

第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ヲ定ム

第二百七十條 師匠又ハ親方ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補充スルコトヲ得
トヲ要ス但反對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル
師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學ブコトヲ得セシムル爲メ必要ナル時間
ヲ與ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供
スルコトヲ要ス

第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他ノ不可抗ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞
務ヲ供スルコト能ハサルトキハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限滿了後ニ於
テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス
○第二編民法○第三卷財產取得編

第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡

第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役

第三 師匠、親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑

第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ満了

第二百七十四條 左ノ原因アルトキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルコトヲ得

第一 相互ノ義務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由ルトキモ亦同シ

第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル取扱

第三 習業者ノ平常ノ不品行

第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠、親方又ハ習業者ノ犯罪

第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方ノ轉居

本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ尙

ホ其損害ヲ賠償ス可キノ旨渡ヲ受ク前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三節 仕事請負契約

第二百七十五條 工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ爲スノ合意ハ注文者ヨリ主タル材料ヲ供スルトキハ仕事ノ請負ナリ若シ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナリ

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其物ノ滅失セシトキハ材料ノ滅失ハ其材料ノ屬スル者之ヲ負擔シ請負人ハ仕事賃ヲ損失ス

當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタルカ又ハ引渡若クハ受取ニ付キ遲滞ニ在ルトキハ其一方ノ材料及ヒ仕事賃ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一ナル毀損カ物ニ其價額ノ半以上ヲ失ハシムルトキハ之ヲ全部ノ滅失ト同視ス又其減價カ半以下ニ在ルトキハ財産編第四百四十六條、第四百十九條第三項及ヒ第四百二十條ノ規定ヲ適用ス

注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ滅失又ハ毀損ノ後存在スル材料ノ部分ノ増價シタル限度ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百七十七條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ實行セサル可キトキト雖モ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルテ合意スルコトヲ得

此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコトノ遲滞ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危險ノ責ヲ免カス

仕事ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタリト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付遲滞ノ以前ニ滅失シタルトキハ注文者ハ既成ノ仕事ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スコトヲ得ス

第二百七十八條 注文者カ異議ヲ留メヌシテ工作物ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隠レタル瑕疵ヲ發見スルトキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スル權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル動産又ハ不動産ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ三ヶ月ニテ消滅ス

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

第二百七十九條 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタルトキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ス但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トチ區別セズ

右責任ハ左ノ時期ノ間繼續ス

第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二個年

第二 木造ノ建物ニ付テハ三個年

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土藏ニ付テハ十個年

第二百八十條 右ノ責任ニ基キタル賠償訴權ハ左ノ時期ヲ以テ時効ニ罹ル

第一 物ノ全部ノ滅失ノ場合ニ於テハ其滅失ノ時ヨリ一個年

第二 物ノ一分ノ滅失又ハ重大ノ毀損ノ場合ニ於テハ請負人ノ責ニ任ス可キ期間ノ満了ノ時ヨリ六個月

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其變更

ヲ口實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

請負人中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負人中ノ區分アル建築ヲ廢セシトキハ此

規定ヲ適用セズ此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルハ裁判所原代價ノ増減ヲ定ム

請負人ハ經畫又ハ變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル

責任ヲ免カサルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カサルコトヲ得タルトキハ此限ニ

在ラス

第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトハ其注文者ハ常ニ自己ノ

意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ貸銀及ヒ準備

ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟

スル義務ヲ負擔ス

第二百八十三條 他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シ

タルト契約ヲ解除シタルトハ其間ハ請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ

金額ノ皆濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置權ハ動産物ノミニ之ヲ適用ス

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負

人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請

負人又ハ其相續人ニ辨濟スル責ニ任ス

第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ法

文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦己レシ雇ヒタル者カ賃銀ヲ辨濟セサルトキハ注文者ニ對シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第十三章 相續

總則

第二百八十六條 相續ニ二種アリ家督相續及ヒ遺產相續是ナリ

第一節 家督相續

第二百八十七條 家督相續トハ戶主ノ死亡又ハ隱居ニ因ル相續ヲ謂フ

第一款 家督相續ノ通則

第二百八十八條 家督相續ヲ爲スハ一家一人ニ限ル

何人ト雖モ二家以上ノ家督相續ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りテ其家ニ在ル者ハ實家其他ノ家ノ家督相續

ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十條 一人ニシテ數家ノ家督相續人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタル者ハ其中ノ一ヲ選

擇スルコトヲ得

第二百九十一條 推定家督相續人ハ他家ノ家督相續人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタルモ其指定

又ハ選定ハ無効トス

第二百九十二條 被相続人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者ハ相續ヨ

リ除斥セラレ但過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

第二百九十三條 相續除斥ノ訴權ハ被相続人ノ明示ノ宥免ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 家督相續人ハ姓氏、系統、貴號及ヒ一切ノ財産ヲ相續シテ戸主ト爲ル

系譜、世襲財産、祭具、墓地、商號及ヒ商標ハ家督相續ノ特權ヲ組成ス

第二款 家督相續人ノ順位

第二百九十五條 法律ニ於テ家督相續人ト爲ル可キ者ノ順位ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 被相續人ノ家族タル昇屬親中親等ノ最モ近キ者

第二 昇屬親中同親等ノ男子ト女子ト有ルトキハ男子

第三 男子數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子ト有ルキハ嫡出子

第四 女子ノ數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子ト有ルトキハ

嫡出子

然レトモ右ノ規定ニ從ヒテ家督相續人タル可キ者カ被相續人ニ先ダチテ死亡シ又ハ第二百九十

七條ニ掲ケタル原因ニ由リテ廢除セラレタル場合ニ於テ其者ニ昇屬親アルトキハ其昇屬親ハ法

定ノ順位ニ依リテ家督相續人ト爲ル

第二百九十六條 被相續人ハ正當ノ原因アルニ非サレハ法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ

得ス

第二百九十七條 法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ得ヘキ正當ノ原因ハ左ノ如シ

第一 失踪ノ宣言

第二 重禁錮一年以上ノ處刑

第三 重罪ニ因レル處刑

第四 家督ヲ執ルニ堪ヘサル不治ノ疾病

第五 祖父母、父母ニ對スル罪ノ處刑

第六 重罪ニ因レル處刑

第二百九十八條 推定家督相續人ノ廢除ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ身分取扱更ニ申述シテ之ヲ

爲スコトヲ得

申述ニ基ク家督相續人ノ廢除ハ被相續人之ヲ取消スコトヲ得

廢除ノ取消ハ身分取扱更ニ申述シテ之ヲ爲ス

第二百九十九條 法定ノ家督相續人アルトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ス但此

規定ニ違ヒタル指定ト雖モ被相續人ノ死亡ノ日ニ法定ノ家督相續人アラサルトキハ有效トス

第三百條 家督相續人ノ指定ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第三百一條 法定又ハ指定ノ家督相續人アラサル場合ニ於テ其家ニ死亡者ノ父アルトキハ父、父

アラサルトキハ母ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 兄弟

第二 姉妹

第三 兄弟姉妹ノ昇屬親中親等ノ最モ近キ男子若シ男子アラズ又ハ拋棄シタルトキハ女子

第三百二條 前條ノ場合ニ於テ父母アラサルトキハ家督相續人選定ノ權利ハ親族會ニ屬ス但親族

會ハ前條ニ定メタル選定ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

第三百三條 第三百一條ノ規定ニ從ヒ選定ス可キ家督相續人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキ

ハ其家ニ在ル昇屬親中親等ノ最モ近キ者任意ニ家督相續人ヲ爲スコトヲ得

第三百四條 前條ノ家督相續人アラサルトキハ配偶者家督相續人ヲ爲スコトヲ得

第三百五條 親族會ハ前條條ニ記載シタル相續人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキニ非サレハ

他人ヲ選定スルコトヲ得ス

第三款 隱居家督相續ノ特別規則

第三百六條 隱居ヲ爲スニハ左ノ條件ノ具備スルコトヲ要ス

第一 滿六十年以上ナルコト

第二 任意ニ出タルコト

第三 成年ニシテ且實際家政ヲ執ルノ能力アル家督相續人カ單純ノ受諾ヲ爲シタルコト

第四 配偶者ノ承諾シタルコト

第三百七條 隠居者カ重病其他ノ原因ノ爲メニ實際家政ヲ執ル能ハサルトキ又ハ分家ノ戶主カ本家ヲ承繼スルノ必要アルトキハ本人ノ申立ニ因リ區裁判所ハ年齡ノ條件ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百八條 隠居者ノ配偶者、親族及ヒ檢事ハ左ノ原因ノ一ニ基キ隠居届出ノ日ヨリ六十日內ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第一 第三百六條第一號乃至第三號ノ條件ニ違ヒタル事實
第二 家督相續ヲ爲ス者カ推定家督相續人ニ非サル事實
又隠居カ任意ニ出テサリシ場合ニ於テハ隠居者モ亦故障ヲ申立ツルコトヲ得

第三百九條 隠居カ第三百六條第四號ノ條件ニ違ヒタル事實アルトキハ隠居者ノ配偶者ニ限り故障ヲ申立ツルコトヲ得
又隠居者カ債權者ヲ詐害スルノ意思ヲ以テ隠居ヲ爲サントスルトキハ債權者ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得

前條ノ期間ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百十條 隠居ヲ爲ストキハ當事者ヨリ其旨ヲ身分取扱更ニ届出ツ可シ

第三百十一條 隠居家督相續ハ届出前ノ利害關係人ニ對シテハ第三百八條ニ定メタル期間滿限ノ日ヨリ又故障アリタルトキハ其故障ノ棄却確定シタル日ヨリ死亡ニ因ル相續ト同一ノ効力ヲ生ス但隠居者ノ終身ヲ限度トスル權利及ヒ義務ヲ消滅セシメス

第二節 遺産相續

第三百十二條 遺産相續トハ家族ノ死亡ニ因ル相續ヲ謂フ

第三百十三條 家族ノ遺産ハ其家族ト家ヲ同フスル身屬親之ヲ相續シ身屬親ナキトキハ配偶者之ヲ相續シ配偶者ナキトキハ戶主之ヲ相續ス

第三百十四條 身屬親カ遺産ヲ相續スル場合ニ於テハ第二百九十五條ノ規定ヲ適用ス
第三節 國ニ屬スル相續

第三百十五條 相續人アテサル財産ハ當然國ニ屬ス

國ハ限定ノ受贈ヲ以テ相續ス

第三百十六條 國ニ屬ス可キ相續財産ハ其領收ヲ爲スニ至ルマテ相續人曠飲ノ財産ヲ管理スル如ク之ヲ管理ス

第四節 相續ノ受贈及ヒ拋棄

第三百十七條 相續人ハ相續ニ付キ單純若クハ限定ノ受贈ヲ爲シ又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス又隠居家督相續人ハ限定ノ受贈ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十八條 隠居家督相續ヲ除ク外相續人ハ相續財産ヲ調査スル爲メ相續ノ日ヨリ三ヶ月ノ期間ヲ有ス但裁判所ハ情況ニ因リ更ニ三ヶ月內ノ延期ヲ許スコトヲ得

受贈又ハ拋棄ヲ決定スル爲メ一ヶ月ノ期間ヲ有ス此期間ハ調査期間滿限ノ日又ハ其前ニ實際ノ調査ヲ終了シタル日ヨリ之ヲ算ス

第三百十九條 相續人ハ調査又ハ決定ノ期間內相續財産ニ關スル一切ノ訴訟手續ヲ停止セシムルコトヲ得

第三百二十條 相續財産ニ關スル訴訟ニ要セシ費用ハ法律上ノ期間內ニ係ルモノト裁判所ノ許シタル延期內ニ係ルモノトトシ問ハス總テ相續財産ノ負擔トス但相續人ノ所爲又ハ過失ニ因リテ要セシ費用ハ此限ニ在ラズ

第三百二十一條 相續財産中ニ損敗シ易ク又ハ保存スルニ著シキ費用ヲ要スル物品アルトキハ調査又ハ決定ノ期間內ト雖モ區裁判所ノ認可ヲ得テ其物品ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但日用品ハ裁判所ノ認可ヲ經スシテ之ヲ處分スルコトヲ得

第一款 單純ノ受贈

第三百二十二條 相續人カ被相續人ノ財産ニ關シ明示又ハ默示ニテ其代表者ト爲ルノ意思ヲ顯ハストキハ單純ノ受贈トス

○第二編民法○第三卷財産取得編

第三百二十三條

四百四十

左ノ如キ場合ニ於テハ賦示ノ受諾アリトス
第一 相續財産ノ一箇又ハ數箇ニ付キ他人ノ爲メニ所有權ヲ讓渡シ又ハ其他ノ物權ヲ設
定シタルトキ但財産編第九十九條以下ノ制限ニ從ヒタル貸借權ノ設定ハ此限ニ在ラス
第二 相續人カ第三百十八條ノ期間内ニ限定受諾又ハ拋棄ヲ爲ササルトキ
右ノ外尙ホ第三百二十七條第二號ノ場合ハ單純ノ受諾ヲ成ス

第三百二十四條

受諾ハ左ノ原因ノ一アルニ非サレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ス
第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ受諾シタルトキ
第二 詐欺ノ爲メニ受諾シタルトキ
第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ受諾シタルトキ
第四 受諾ノ時成立セルコトヲ知ラサル債務ノ爲メ破産又ハ無資力ト爲ルニ至ル可キトキ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル銷除訴權ノ期間及ヒ條件ニ從フ

第二款

限定ノ受諾

第三百二十五條 相續人カ相續財産ノ限度マテニ非サレハ債務ノ辨償ノ責ニ任セサルトキハ限定ノ受諾トス

第三百二十六條

相續人ニシテ限定ノ受諾ヲ爲スノ意思ヲ有スル者ハ第三百十八條ノ期間内ニ調査シタル財産ノ目錄ヲ相續地ノ區裁判所ニ差出タシ其申述ヲ爲シ裁判所ハ別段ニ備ヘタル張簿ニ之ヲ記載ス可シ

第三百二十七條

左ノ場合ニ於テハ相續人ハ限定受諾ヲ爲スノ權利ヲ失フ

第一

單純ノ受諾ヲ爲シタルトキ

第二 相續財産ヲ私取シ若クハ隱匿シ又ハ惡意ヲ以テ財産調査目錄中ニ相續財産ノ幾分ヲ記載セサルトキ

第三百二十八條 限定受諾者ハ其特有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理シ債權者

及ヒ受遺者ニ其計算ヲ爲ス可シ但此計算ハ債務及ヒ遺贈ノ辨償ノ爲メ相續財産ヲ拂盡シタル後

一個月内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第三百二十九條

限定受諾者ハ動産ト不動産ト之間ハ總テ相續財産ノ賣却ヲ要スルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣コ付ス可シ

第三百三十條

限定受諾者ハ適法ニ賣却シタル財産ノ各箇ニ付テ得タル代價ヲ混同セズ各箇ニ付テ優先權ヲ有スル債權者ニ順次ニ辨償ス可シ

第三百三十一條

相續ノ負擔スル債務又ハ遺贈ノ辨償ヲ差押ヘ又ハ其辨償ニ付キ異議ヲ述フル債權者又ハ受遺者アルトキハ限定受諾者ハ裁判ヲ以テ定メタル順次及ヒ方法ニ從フニ非サレハ其辨償ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十二條

前條ノ差押又ハ異議アリタルトキハ債權者又ハ受遺者ノ要求ニ從ヒテ辨償ヲ爲ス辨償ノ爲メニ相續財産ヲ拂盡シタル後ト雖モ第三百二十八條ニ規定シタル計算ヲ完了セサル前ニ要求ヲ爲ス債權者又ハ受遺者ハ左ノ區別ニ從ヒ既ニ辨償ヲ得タル債權者及ヒ受遺者ニ對シテ

第三百三十三條

相續人カ計算ノ完了ヲ遅延シタル場合ニ於テハ債權者中未タ辨償ヲ得サル者ヨリ既ニ辨償ヲ得タル受遺者及ヒ債權者ニ求償スルコトヲ得ヘキ額ヲ直チニ相續人ノ特有財産ニ

第三百三十四條

相續財産ヲ拂盡シ計算ヲ完了シタル後ニ要求ヲ爲ス債權者ハ單純ニ辨償ヲ得タル受遺者ニ對スルニ非サレハ求償權ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十五條

前三條ノ求償權ハ三ヶ年間之ヲ行フコトヲ得但此期間ハ計算ノ完了前ニ係ルトキハ初メ相續人ニ要求シタル日又完了後ニ係ルトキハ其完了ノ日ヨリ之ヲ算ス

第三款

拋棄

第三百三十六條 相續財産ヲ拂盡シ計算ヲ完了シタル後ニ要求ヲ爲ス債權者ハ單純ニ辨償ヲ得タル受遺者ニ對スルニ非サレハ求償權ヲ行フコトヲ得ス

第三款 拋棄

○第三編民法○第三卷附錄取得編

第三百二十六條 相續ヲ拋棄セントスル相續人ハ相續地ノ區裁判所ニ其旨ヲ申述シ裁判所ハ別段ニ備ヘタル帳簿ニ之ヲ記載スヘシ

第三百二十七條 拋棄シタル相續ハ他ニ受諾シタル相續人アラサル間ハ拋棄者更ニ之ヲ受諾スルコトヲ得然レトモ此受諾ハ第三百十八條ノ期間内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但相續財産ニ付キ第三百者ノ有効ニ得タル權利ヲ害スルコト無シ

第三百二十八條 相續ヲ拋棄シタル者ハ他ニ受諾シタル相續人アリト雖モ左ノ場合ニ於テハ其拋棄ヲ銷除スルコトヲ得

第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ拋棄シタルトキ

第二 詐欺ノ爲メニ拋棄シタルトキ

第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ拋棄シタルトキ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル期間及ヒ條件ニ從フ

第三百二十九條 債權者ヲ詐害スル意思ニ出テタル拋棄ハ財産編第三百四十一條以下ニ定メタル區別及ヒ期間ニ從ヒ債權者自己ノ利益ノ爲メ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百四十條 適法ニ受諾シ又ハ受諾者ト推定セラレタル者ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十一條 相續ニ包含スル物ヲ私取シ又ハ隱匿シタル相續人ハ其相續ヲ拋棄スル權利ヲ失フ

第三百四十二條 相續人ノ噴飲セル相續財産ノ處分

第三百四十三條 相續地ノ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ相續財産ノ管理人ヲ命ス可シ

第三百四十四條 管理人ハ利害關係人ヲ召喚シテ相續財産ヲ調査シ其目錄ヲ作り財産ノ形狀ヲ檢點セシム可シ

管理人ハ此手續ヲ終了シタル後相續ニ屬スル權利ヲ行使シ之ヲ請求シ又其相續ニ對スル請求ニ答辯ス可シ

金銭ハ相續財産中ニ存スルモノト其實却ヨリ得タルモノトサ間ハ其供託所ニ之ヲ供託ス可シ

相續ノ負擔スル債務ハ區裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ辨濟スルコトヲ得ス

第三百四十五條 限定受諾者ノ義務及ヒ責任ニ關シ第三百二十八條以下ニ定メタル規則ハ管理人ニ之ヲ適用ス

第三百四十六條 管理人ハ計算ヲ完了シテ尙ホ相續財産ノ存スルニ於テハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付シ其得タル金額ヲ供託所ニ供託ス可シ

管理人ハ其領收證ヲ區裁判所ニ差出シ區裁判所ハ之ヲ保存ス可シ

第三百四十七條 相續人現出スルトキハ其相續人ハ區裁判所ヨリ供託所ノ領收證及ヒ相續人タル身分ノ證明書ヲ得テ之ヲ供託所ニ提出シ供託金額ヲ領收ス可シ

第三百四十八條 相續人アラサルニ確實ニ至リタルハ國ハ特別法ニ從ヒ供託金額ヲ領收ス可シ

第十四章 贈與及ヒ遺贈

第三百四十九條 贈與トハ當事者ノ一方カ無償ニテ他ノ一方ニ自己ノ財産ヲ移轉スル要式ノ合意ヲ附フ

第三百五十條 贈與ハ單純、有期又ハ條件附ナルコト有リ

贈與ハ法律ノ認メタル原因アルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス

第三百五十一條 贈與者ハ贈與物ノ妨礙及ヒ追跡ヲ擔保セズ但其贈與以後ニ係ル贈與者ノ所爲ヨリ生シタル妨礙及ヒ追跡ハ此限ニ在ラス

第三百五十二條 遺贈トハ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ無償ニテ自己ノ財産ヲ遺言ニ因リテ死亡ノ時ニ移轉スル行爲ヲ謂フ

遺贈ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百五十三條 遺言書中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ之ヲ記セサルモノト看做ス

贈與書中ニ不能又ハ不法ノ條件アルトキハ其贈與ヲ無効ト爲ス

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力

○第二編民法○第三章 財產取得編

第三百五十四條

法律上特ニ無能力者ト定メタル者ヲ除ク外何人ニ限ラズ贈與及ヒ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力ヲ有ス

第三百五十五條

左ニ掲クル者ハ贈與ヲ爲ス能力ヲ有セズ

第一 贈與ヲ爲ス時ニ於テ衷心シタル者

第二 禁治産者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ル者

第四 未成年者但夫婦財產契約ノ爲メ法律ノ特ニ許ス場合ハ例外トス

第三百五十六條

准禁治産者ハ財產讓渡ノ爲メ法律ノ要スル方式ニ從フニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ズ

第三百五十七條

左ニ掲クル者ハ遺贈ヲ爲ス能力ヲ有セズ

第一 遺贈ヲ爲ス時ニ於テ衷心シタル者

第二 民事上ノ禁治産者

第三百五十八條

贈與ハ分家ノ爲メニスルモノト其他ノ原因ノ爲メニスルモノトヲ問ハズ普通ノ合意ノ成立ニ必要ナル條件ヲ具備スル外尙ホ公正證書ヲ以テスルニ非サレハ成立セズ

第三百五十九條

贈與ハ贈與者ノ現有ノ財産ノミヲ包含ス若シ將來ノ財産ヲ包含シタルトキハ其財産ニ付テハ贈與ハ無効トス

第三百六十條

贈與ノ性質又ハ附約ニ因リテ受贈者カ贈與者ノ債務ヲ辨濟スル義務ヲ負ヒタルトキハ其義務ハ贈與ノ時既ニ存在シタル債務ニ非サレハ包含セズ

第三百六十一條

贈與者ハ自己ノ利益ニ於テスルニ非サレハ自己ニ先クテ受贈者ノ死亡スルトキ其贈與ヲ解除ス可キ條件ヲ要約スルコトヲ得ズ

第三百六十二條

前條第一項ノ規定ニ從ヒテ有効ニ要約シタル解除條件ノ成就ハ受贈者ノ相續人ニ對スルト第三者ニ對スルトヲ問ハズ普通ノ合意ニ於テ要約シタル解除條件ト同一ノ効力ヲ生ス然レトモ受贈者ノ婚ハ解除ニ拘ハラズ左ノ二個ノ條件具備スルトキハ贈與財産ニ付キ法律上ノ抵當權ヲ保有ス

第一 贈與カ夫婦財產契約ヲ以テ夫ノ爲メ爲サレタルモノナルトキ

第二 贈與財産ノ外ナル夫ノ財産ヲ以テ婦ノ特有財産ノ返還ヲ擔保スルニ足ラサルトキ

第三百六十三條

贈與ハ合意ヲ無効ト爲ス普通ノ原因ノ外尙ホ贈與者ノ要約シタル條件ノ不履行ノ爲メ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百六十四條

條件ノ不履行ニ基ク贈與ノ廢罷ハ贈與者又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百六十五條

條件ノ不履行ニ基キ贈與ヲ廢罷シタル場合ニ於テハ受贈者ニ對スルト第三者ニ對スルトヲ問ハズ未必條件ノ成就ニ因リテ合意ヲ解除シタルトキト同一ノ効力ヲ生ス

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例

第三百六十六條

未成年ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ人ノ許諾及ヒ立會ヲ得且夫婦財產契約ヲ以テスルニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ズ

第三百六十七條

夫婦間ノ贈與ハ何等ノ約款アルニ拘ラズ婚姻中贈與者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百六十八條

遺言ハ遺言者ノ自筆ノ證書ハ公正證書又ハ秘密ノ方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

遺言ハ遺言者ノ自筆ノ證書ハ公正證書又ハ秘密ノ方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二款 遺贈

遺言ハ遺言者ノ自筆ノ證書ハ公正證書又ハ秘密ノ方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ二人以上ノ人ハ一箇ノ證書ヲ以テ遺言ヲ爲スコトヲ得ス
第三百六十九條 自筆ノ遺言書ハ遺言者カ其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セズ

第三百七十條 公正證書ニ依ル遺言ハ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ於テ遺言者カ遺言ノ旨趣ヲ口授シ公證人之ヲ筆記シ朗讀シタル後遺言者及ヒ證人各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セズ

然レトモ氏名ヲ自書スル能ハサル者アルトキハ其理由ヲ證書ニ記載スルヲ以テ足ル
第三百七十一條 秘密ノ方式ニ依ル遺言書ハ遺言者ノ自書シタルト他人ノ之ヲ書シタルトキ問ハス左ノ諸件ヲ具備スルニ非サレハ其効ヲ有セズ

第一 遺言者カ氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト
第二 遺言書ヲ封シテ遺言者カ之ニ封印シタルコト
第三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書タル旨ヲ陳述シタルコト

第四 公證人カ遺言者ノ陳述ト之ヲ聽キタル日附トヲ封紙ニ記シテ遺言者及ヒ證人ト共ニ各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト但此場合ニ於テ氏名ヲ自書スル能ハサル證人アルトキハ公證人其事由ヲ封紙ニ記スルヲ以テ足ル

公證人ハ遺言者ノ死亡ノ後其相續人ノ立會ノ上ニ非サレハ開封セサル旨ヲ記シタル領收書ヲ遺言者又ハ其指定シタル證人中ノ一人ニ授付ス可シ

第三百七十二條 秘密ノ方式ニ依ル遺言トシテ有效ナル爲メ前條ニ定メタル條件ニ缺クルモノ有リト雖モ其全文、日附及ヒ氏名共ニ遺言者ノ自書ニ係ルトキハ自筆ノ遺言書トシテ有效トス
第三百七十三條 受遺者、遺言ニ立會フ公證人ノ筆生其他普通ノ無能力者ハ證人ト爲ルヲ得ズ

第二款 遺言ノ特別方式
第三百七十四條 軍人及ヒ軍屬ニシテ遠征中ニ在ル者又ハ内地ト雖モ交戦中若クハ合圍中ニ在ル者ハ將校一人證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十五條 遠征中、交戦中又ハ合圍中ニ在ル軍人及ヒ軍屬ニシテ疾病又ハ傷痕ノ爲メ病院ニ在ル者ハ其院ノ醫官及ヒ事務官ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十六條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル地方ニ在ル者ハ其疾病中ナルト否トキ問ハス警察官一人及ヒ證人一人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十七條 航海中ニ在ル者ハ軍艦ニ在テハ將校一人其他ノ船舶ニ在テハ事務員一人及ヒ證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十八條 海上ニテ遺言書ヲ作リタルトキハ其旨ヲ航海日誌ニ記載ス可シ
第三百七十九條 本款ノ規定ニ從ヒテ作リタル遺言書ニハ遺言者、代書者及ヒ立會人各其氏名ヲ自書シテ捺印ス可シ

氏名ヲ自書シ又ハ捺印スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ遺言書ニ記載スルヲ以テ足ル
第三百八十條 外國ニ在ル日本人ハ第三百六十九條ニ定メタル自筆ノ方式ニ依リ又ハ其他ニ用ユル公正ノ方式ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三百八十一條 外國ニ於テ作リタル遺言書ハ遺言者ノ日本國內ニ有テル住所ノ區裁判所ノ簿冊ニ之ヲ登錄シ若シ住所ノ知レサルトキハ最終居所ノ區裁判所ノ簿冊ニ之ヲ登錄シタル後ニ非サレハ日本國內ニ在ル財産ニ付キ其遺言ヲ執行スルコトヲ得ズ

又其遺言書ニ日本國內ニ在ル不動産ノ處分ヲ包含スルトキハ其不動産所在地ノ區裁判所ニ登記ヲ求メタル後ニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第三百八十二條 日本ニ在ル外國人ハ日本ノ法律ニ從ヒ又ハ其本國ノ法律ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分
第三百八十三條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ト相續人ニ貯存ス可キ財産トノ部分ヲ定ムルコトハ家督相續ノ特權ヲ組成スルモノヲ控除ス
第三百八十四條 法定家督相續人アルトキハ被相續人ハ相續財産ノ半額マテニ非サレハ他人ノ爲

○第二編民法○第三編財產取得編

遺贈ヲ爲スコトヲ得ス

家族ノ遺産ヲ相續スル身屬親アルトキモ亦同シ
第三百八十五條 利益權ノ如キ其存立時間ノ不確實ナル權利ハ相續ノ時ニ於ケル債額ヲ査定シテ
遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ定ム

其權利ノ債額カ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スルトキハ相續人ハ或ハ被相續人ノ遺贈ヲ履
行シ或ハ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ノ完全ナル所有權ヲ與ヘテ其權利ヲ受戻スコトヲ得

第三百八十六條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スル遺贈ハ之ヲ其部分マテニ減殺ス
第三百八十七條 減殺ス可キ分量ハ相續ノ時ニ現存スル總テノ財産ノ評價額ヨリ被相續人ノ債務
額ヲ控除シタル剩餘額ニ付キ之ヲ算定ス

第三百八十八條 遺贈ノ幾分ヲ減殺シテ貯存ス可キ財産ノ分量ヲ組成ス可キトキハ包括ノ遺贈ト
特定ノ遺贈トト問ハス其債額ノ割合ヲ以テ總テノ遺贈ヲ減殺ス可シ

第三百八十九條 總テノ贈與ニシテ贈與者ノ死亡ノ後執行ス可キモノハ遺贈ト其効力ヲ同ツス
第四款 遺言ノ効力及ヒ執行

第三百九十條 單純又ハ有期ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ受遺者ノ知ルト否トト問ハス包括ノ
遺贈ニ付テハ其包含スル財産及ヒ債務ヲ受遺者ニ移轉シ特定ノ遺贈ニ付テハ其遺贈物ノ權利ヲ
受遺者ニ移轉ス然レトモ有期ノ遺贈ハ満期ニ至ルマテ其執行ヲ止ム

停止又ハ解除ノ條件附ニ於ケル遺贈ノ効力ハ合意ノ事項ニ關シテ規定シタル如ク其條件ノ成就
如何ニ從フ

遺贈ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權ハ財産編第三百二十二條ノ規定ニ從ヒテ移轉ス
如何ナル場合ニ於テモ受遺者ハ遺贈ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百九十一條 遺言者カ不分ノ權利ヲ有スル物ヲ遺贈シタルトキハ受遺者ハ遺言者ト同一ナル
權利ヲ取得ス

第三百九十二條 受遺者ハ遺贈物ノ引渡ヲ要求シタル時ヨリ後ニ非サレハ遺贈物ノ果實ヲ收受ス

ル權利ヲ有セス但期限ノ到來シ又ハ未必條件ノ成就シタルコトヲ要ス
然レトモ左ノ三箇ノ場合ニ於テハ受遺者ハ遺言者ノ死亡、満期又ハ條件成就ノ時ヨリ要求ヲ待
タズシテ直チニ果實ヲ收受スル權利ヲ有ス

第一 遺言者カ果實ヲ收受スル權利ヲ明示シタルトキ
第二 遺贈カ養料ノ性質ヲ有スルトキ
第三 相續人カ惡意ヲ以テ遺言ヲ隠蔽シタルトキ

第三百九十三條 遺贈物ハ其遺贈ノ單純ナルトキハ當然ノ附從物ト共ニ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ
ル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ其遺贈ノ有期又ハ未必條件附ナルトキハ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘ
キ時ニ於ケル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ

相續人カ遺贈物ニ加ヘタル改良又ハ毀損ハ相續人ト受遺者トノ間相互ニ賠償ヲ請求スル權利ヲ
生ス

解除ノ未必條件ヲ以テ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テ其條件ノ成就シタルトキハ受遺者又ハ其相續
人ヨリ遺贈物ノ現狀ニテ返還ス可シ但人爲ニ因ル改良又ハ毀損ニ付キ雙方ノ間ニ於ケル相互ノ
賠償ヲ妨ケス

第三百九十四條 遺言者カ遺言ノ後ニ取得シタル土地又ハ建物ハ遺贈ノ不動産ニ接著シ又ハ其不
動産ノ利用ヲ改良スル爲メニ供ヘタルモノト雖モ其不動産ノ受遺者ヲ利セス

第三百九十五條 遺言書ハ公正證書ヲ除ク外相續地ノ區裁判所ノ檢認ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ
執行スルコトヲ得ス

封印アル遺言書ハ區裁判所ニ於テスルニ非サレハ開封スルコトヲ得ス
前二項ノ規定ニ違フ者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第三百九十六條 遺言ノ執行及ヒ遺贈物ノ引渡ニ關スル費用ハ相續財産ヲ負擔トス但貯存財産ニ
負擔セシムルコトヲ得ス

○第二編民法○第三卷財産取得編

四百四十九

第三百九十七條

不動産物權ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ後受遺者カ其遺贈ヲ知リタル時ヨリ三十日
内ニ之ヲ登記シタルコト非サレハ遺言者ノ死亡ノ日ニ遡リテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百九十八條

遺言者ハ合意又ハ遺言ヲ以テ遺贈ノ執行ヲ一人又ハ數人ニ委託スルコトヲ得
遺言執行者ハ代理人ノ普通義務ニ服ス

第三百九十九條

遺言ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得廢罷ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲ス
コトヲ得

第四百條

遺言者カ遺言ノ方式ニ從ヒ遺言ノ全部又ハ一分ヲ廢罷スル意思ヲ證書ニ記載シタルト
キハ其廢罷ハ明示ノモノトス

第四百一條

後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ニ包含スル特定物ヲ處分シタルトキハ其物ニ付テハ前ノ遺
言ヲ默示ニテ廢罷シタルモノトス

第四百二條

遺言者カ生存中遺言ニ包含スル特定物ヲ有償又ハ無償ニテ處分シタルトキモ亦同シ

第四百三條

廢罷ニ歸シタル遺言ハ前條ノ處分ノ無効ト爲ルトキト雖モ有効ニ復セズ

第四百四條

遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ
廢罷ヲ請求スルコトヲ得

第四百五條

遺言ハ方式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フ
第一 受遺者カ遺言者ヨリ先ニ死亡シタルトキ

第四百六條

停止條件附ノ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ
廢罷又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做ス但遺
言者カ明示ヲ以テ其部分ヲ利得ス可キ旨ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百七條

遺言ハ方式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フ
第一 受遺者カ遺言者ヨリ先ニ死亡シタルトキ

第四百八條

遺言者カ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ
廢罷又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做ス但遺
言者カ明示ヲ以テ其部分ヲ利得ス可キ旨ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九條

遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ
廢罷ヲ請求スルコトヲ得

第一款 分割

第四百七條

不動産物權ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ後受遺者カ其遺贈ヲ知リタル時ヨリ三十日
内ニ之ヲ登記シタルコト非サレハ遺言者ノ死亡ノ日ニ遡リテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百八條

遺言者ハ合意又ハ遺言ヲ以テ遺贈ノ執行ヲ一人又ハ數人ニ委託スルコトヲ得
遺言執行者ハ代理人ノ普通義務ニ服ス

第四百九條

遺言ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得廢罷ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲ス
コトヲ得

第四百條

遺言者カ遺言ノ方式ニ從ヒ遺言ノ全部又ハ一分ヲ廢罷スル意思ヲ證書ニ記載シタルト
キハ其廢罷ハ明示ノモノトス

第四百一條

後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ニ包含スル特定物ヲ處分シタルトキハ其物ニ付テハ前ノ遺
言ヲ默示ニテ廢罷シタルモノトス

第四百二條

遺言者カ生存中遺言ニ包含スル特定物ヲ有償又ハ無償ニテ處分シタルトキモ亦同シ

第四百三條

廢罷ニ歸シタル遺言ハ前條ノ處分ノ無効ト爲ルトキト雖モ有効ニ復セズ

第四百四條

遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ
廢罷ヲ請求スルコトヲ得

第四百五條

停止條件附ノ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ
廢罷又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做ス但遺
言者カ明示ヲ以テ其部分ヲ利得ス可キ旨ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六條

遺言ハ方式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フ
第一 受遺者カ遺言者ヨリ先ニ死亡シタルトキ

第四百七條

遺言者カ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ
廢罷又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做ス但遺
言者カ明示ヲ以テ其部分ヲ利得ス可キ旨ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百八條

遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ
廢罷ヲ請求スルコトヲ得

第四百九條

遺言ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得廢罷ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲ス
コトヲ得

第四百條

遺言者カ遺言ノ方式ニ從ヒ遺言ノ全部又ハ一分ヲ廢罷スル意思ヲ證書ニ記載シタルト
キハ其廢罷ハ明示ノモノトス

○第三編民法○第三章財產取得編

利益ニ於テノモノトス

四百五十三

第四百十四條 分割ノ際利益ノ相反スル無能力者又ハ不在者ノ數人アルトキハ其各自ノ爲メ臨時保佐人又ハ管理人ヲ指定ス可シ

第四百十五條 分割ノ結了シタルトキ各所有者ハ其價收シタル物ノ證書ヲ保有ス
所有者ノ總體又ハ數人ニ分割シタル一箇ノ物ノ證書ハ其最大ノ部分ヲ價收シタル者之ヲ保有ス
最大ノ部分ヲ價收シタル者ナキトキハ各所有者ノ協議ヲ以テ其保有者ヲ定ム若シ協議ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

第四百十六條 所有權ノ證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ求メニ應ジテ之ヲ使用セシム可シ
何レノ場合ニ於テモ證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ求メニ應ジテ之ヲ使用セシム可シ

第二款 分割ノ效力及ヒ擔保

第四百十七條 分割ノ效力ニ付テハ第五百五十五條ノ規定ヲ適用ス

第四百十八條 各所有者ハ分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨礙及ヒ追奪ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任ス
但別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラズ

第三款 分割ノ銷除

第四百二十條 分割ハ財產編第二百四條以下ニ定メタル區別ニ從ヒ不成立又ハ無効タル外尙ホ所
有者ノ一人カ其價收シタル部分ニ付キ四分一以上ノ欲損ヲ被フリタルトキハ其欲損ノ爲メ之ヲ
銷除スルコトヲ得

第四百二十一條 分割銷除ノ訴權ハ財產編第五百四十四條以下ニ定メタル時效及ヒ認諾ニ因リテ
消滅ス
欲損ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒテ之ヲ爲ス可シ

第十五章 夫婦財產契約

第一節 總則

第四百二十二條 夫婦財產契約ハ婚姻ノ儀式前ニ之ヲ爲シ及ヒ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムル
ニ非サレハ成立セズ

婚姻ノ儀式後ハ契約ヲ變更スルコトヲ得ス

第四百二十三條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ尊屬親又ハ後見人ノ立
會ニテ財產契約ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ財產ノ關係ハ法定ノ制ニ從フ

第四百二十五條 日本ニ於テ財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタル外國人ハ夫タル者ノ本國ニ行
ハルル普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做ス

第二節 法定ノ制

第四百二十六條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ現ニ所有シ又ハ將來ニ所有ス可キ特有財產
ヨリ婚姻中ニ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ婚姻中ニ得タル所得ハ婚姻中ノ費用分擔ノ爲
メニ之ヲ配偶者ニ供出シタルモノト看做ス

第四百二十七條 夫又ハ戶主タル婦カ配偶者ノ特有財產ニ付テ有スル權利ハ用益者ノ權利ニ同シ
又配偶者ノ特有財產ニ關シテ收益ヲ爲ス夫又ハ戶主タル婦ハ用益者ノ負擔スル修繕其他收益ヲ
以テ辨濟ス可キ義務ヲ負フ

第四百二十八條 夫ハ婦ノ特有財產入夫ハ戶主タル婦ノ財產ヲ管理ス

第四百二十九條 夫又ハ入夫ハ婦又ハ戶主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婦ノ特有財產又ハ戶主
タル婦ノ財產ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但人事編第二百二十九條及ヒ第二百七
十五條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

第四百三十條 入夫ハ戶主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婚姻中ノ所得ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ

○第二編民法○第三章財產取得編

四百五十三

供スルコトヲ得ス但其特有財産ヨリ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ得タル所得ハ此限ニ在
ヲス

第四百三十一條 夫カ婦ノ特有財産ニ付キ入夫カ戸主タル婦ノ財産ニ付キ其承諾ヲ得テ爲ス
 貸借ニ關シテハ財産編第百十九條以下ノ規定ヲ適用ス
 第四百三十二條 管理ノ失常ニ因リ夫又ハ入夫カ婦ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ヲ危險ニ置
 シトキハ婦又ハ戸主タル婦ハ自ラ其財産ヲ管理セント請求スルコトヲ得
 第四百三十三條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ負ヘル債務及ヒ婚姻中ニ生スル債務ニ付テ
 ハ債權者ハ婦又ハ入夫ノ特有財産ニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得
 第四百三十四條 婦ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務カ家事管理ノ爲メニ生
 シタルコトヲ證スルコトニ限リ夫ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得
 入夫ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務ノ財産管理ノ爲メコ生シタルコトヲ
 證スルコトニ限リ戸主タル婦ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得
 第四百三十五條 婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證セサル財産ハ總テ夫又ハ戸主タル婦ニ屬ス
 ルモノト看做ス

○第四章 債權擔保編

○明治廿三年三月法律第二十八號ノ内
民法債權擔保編目錄

總則

第一部 對人擔保

第一章 保證

第一節 保證ノ目的及ヒ性質

第一款 保證ノ効力

第二款 保證人債權者間ノ保證ノ効力

第三款 共同保證人間ノ保證ノ効力

第三節 保證ノ消滅

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶

總則

第一節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第二款 債務者間ノ連帶ノ効力

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第四款 全部義務

第二節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

○第二編民法○第四章債權擔保編○目錄

第四百五十九丁	全
全	全
四百六十丁	全
四百六十二丁	全
四百六十四丁	全
四百六十六丁	全
四百六十七丁	全
四百六十八丁	全
全	全
全	全
全	全
四百六十九丁	全
四百七十一丁	全
四百七十二丁	全
全	全
全	全
四百五十五	全

第二款 債權者間ノ連帶ノ効力
 第三款 債權者間ノ連帶ノ終了
 第三章 任意ノ不可分

第二部 物上擔保

第一章 留置權
 第二章 動產質
 第一節 動產質契約ノ性質及ヒ成立
 第二節 動產質契約ノ効力
 第三章 不動產質
 第一節 不動產質ノ目的、性質及ヒ組成
 第二節 不動產質ノ効力
 第四章 先取特權
 總則

第一節 動產及ヒ不動產ニ係ル一般ノ先取特權
 第一款 一般ノ先取特權ノ原因
 第一則 訟事費用ノ先取特權
 第二則 葬式費用ノ先取特權
 第三則 最後疾病費用ノ先取特權
 第四則 雇人給料ノ先取特權
 第五則 日用品供給ノ先取特權
 第二款 一般ノ先取特權ノ効力及ヒ順位
 第二節 動產ニ係ル特別ノ先取特權

四百五十六
 四百七十三丁
 四百七十四丁
 全
 四百七十六丁
 全
 四百七十七丁
 全
 四百七十八丁
 全
 四百八十一丁
 全
 四百八十三丁
 全
 四百八十四丁
 全
 四百八十五丁
 全
 全
 全
 全
 四百八十六丁
 四百八十七丁

第一款 動產ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的
 第一則 不動產質貸人ノ先取特權
 第二款 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權
 第三款 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權
 第四則 動產物保存者ノ先取特權
 第五則 動產物賣主ノ先取特權
 第六則 旅店主人ノ先取特權
 第七則 舟車運送營業人ノ先取特權
 第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權
 第九則 保證金貸主ノ先取特權
 第二款 動產ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位
 第三節 不動產ニ係ル特別ノ先取特權
 第一款 不動產ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的
 第一則 讓渡人ノ先取特權
 第二則 共同分割者ノ先取特權
 第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權
 第四則 金錢貸主ノ先取特權
 第二款 債權者間ニ於ケル不動產ノ特別先取特權ノ効力及ヒ順位
 第三款 第三所持者ニ對スル不動產先取特權ノ効力
 第五章 抵當
 第一節 抵當ノ性質及ヒ目的
 第二節 抵當ノ種類

四百八十七丁
 全
 四百八十九丁
 全
 全
 四百九十丁
 全
 全
 四百九十一丁
 全
 全
 四百九十二丁
 全
 全
 四百九十三丁
 全
 四百九十四丁
 全
 四百九十五丁
 全
 四百九十八丁
 四百九十九丁
 全
 五百一丁
 四百五十七

第一款	法律上ノ抵當	四百五十八
第二款	合意上ノ抵當	五百一
第三款	遺言上ノ抵當	全
第三節	抵當ノ公示	五百三
第一款	登記ノ條件及ヒ期間	全
第二款	登記ノ抹消、減少及ヒ正誤	五百五
第四節	債權者間ノ抵當ノ効力及ヒ順位	五百七
第五節	第三所持者ニ對スル抵當ノ効力	五百九
總則		全
第一款	抵當債務ノ辨濟	五百十
第二款	滌除	全
第三款	財産檢索ノ抗辯	五百十四
第四款	委棄	五百十五
第五款	競賣及ヒ所有權徵收	五百十六
第六節	登記官吏ノ責任	五百十七
第七節	抵當ノ消滅	五百十八

總則

第一條 債務者ノ總財産ハ動産ト不動産ト現在ノモノト將來ノモノトヲ問ハス其債權者ノ共同ノ擔保アリ但法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル物ハ此限ニ在ラズ

債務者ノ財産カ總テノ義務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ其債權ハ債權ノ目的、原因、體様ノ如何ト日附ノ前後トニ抱ハラス其債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ各債權者ニ分與ス但其債權者ノ間ニ優先ノ正當ナル原因アルトキハ此限ニ在ラズ

財産ノ差押、賣却及ヒ其代價ノ順序配當又ハ其分配當ノ方式ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二條 義務履行ノ特別ノ擔保ハ對人ノモノ有リ物上ノモノ有リ

第一	保證
第二	債務者間又ハ債權者間ノ連帶
第三	任意ノ不可分
物上擔保ハ之ヲ左ニ掲ク	
第一	留置權
第二	不動産質權
第三	不動産質權
第四	先取特權
第五	抵當權
第一部	對人擔保
第一章	保證

○第二編民法○第四章債權擔保編

第三條 保證ハ任意ノモノ有リ法律上ノモノ有リ又裁判上ノモノ有リ
下ノ第一節乃至第三節ノ規定ハ右三種ノ保證ニ共通ナリ

第一節 保證ノ目的及ヒ性質

第四條 保證ハ或人カ債務者ノ其義務ヲ履行セサルニ於テハ之ヲ履行スルコトヲ諾約スル契約ナ
リ此約務ハ債務者ノ過失ニ歸ス可キ不履行ノ場合ニ於テハ債權者ニ賠償スル約務ヲ暗ニ包含ス
第五條 保證ハ主ナル義務ノ目的ト異ナルモノヲ目的ト爲ストキハ保證トシテハ無効ナリ
然レトモ保證人ハ主ナル債務者ノ諾約シタル物又ハ所爲ノ對價トシテ不履行ヲ豫見シタル過怠
金額有效ニ諾約スルコトヲ得

第六條 保證人ノ義務ハ主ナル義務ヨリ一層大ナルコトヲ得ス又一層重キ體裁ニ服スルコトヲ得
ス若シ保證人ノ義務カ一層大ナルトキ又ハ一層重キトキハ主ナル義務ノ限度及ヒ體裁ニ之ヲ減
ス

第七條 前條ノ禁止ノ規定ハ債務者ヨリ其主ナル義務ノ爲メ物上擔保ヲ供セサルトキ保證人ヨリ
其從タル義務ノ物上擔保ヲ供スルコトヲ妨ケス又保證人カ主ナル債務者ヨリ一層嚴ナル執行方
法ニ服スルコトヲモ妨ケス

第八條 保證人ハ亦第三者ヲ引受人トシテ已レテ保證セシムルコトヲ得此引受人ニ對シテハ保證人ハ主
ナル債務者ノ地位ヲ有ス
第九條 金額又ハ定マリタル物ニ制限シタル保證ハ其利息ニモ果實ニモ其他ノ附從物ニモ及フコ
ト無シ

然レトモ主ナル義務ノ無限ノ保證ハ城補ノ利息、遲延ノ利息其他此債務ノ天然上、法律上又ハ合
意上ノ附從物ニ及ヒ又主ナル債務者ニ對シテ爲シタル最初ノ訴ノ費用ト其訴ヲ保證人ニ告知シ
タル以後ノ費用トニモ及フ
第九條 總テ有效ナル義務ハ之ヲ保證スルコトヲ得

無能力者ノ取消スコトヲ得ヘキ義務ト雖モ亦有效ニ之ヲ保證スルコトヲ得其義務カ裁判上ニテ
取消サレタル後ト雖モ保證ハ其效力ヲ存ス但保證人カ其保證ノ際債務者ノ無能力ヲ知リタルト
キニ限ル

第十條 何人ニテモ將來ノ債務ヲ保證スルコトヲ得又債權者又ハ債務者ノ方ニ於テ隨意ノ條件ニ
繫ル債務ヲモ保證スルコトヲ得但保證人ニ於テ其債務ノ性質及ヒ廣狹ヲ査定スルコトヲ得ル
キニ限ル

第十一條 何人ニテモ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニテ又ハ其意ニ反シテモ其保證人ト爲ルコ
トヲ得
第十二條 辨濟シタル保證人ノ其債務者ニ對スル求償ハ第二節第二款ニ於テ之ヲ規定ス
第十三條 有效ニ保證人ト爲ルニハ一般ナル債務者ニ對スルトモ問ハス無價ニテ義務ヲ負擔ス
ル能力ヲ有スルコトヲ要ス

然レトモ主ナル契約カ有價ナルトキハ保證人ノ債務者ニ對スル無能力ハ債權者カ之ヲ知リタル
トキニ非サレハ保證人ヨリ債權者ニ其無能力ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 債務ヲ保證スル意思ハ之ヲ明示セサルトキハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス然レト
モ其意思ハ契約者ノ一方ヲ他ノ一方ニ勸メ又ハ其一方ノ現在若クハ將來ノ有資力ヲ確言シタル
事實ノミヨリ之ヲ推測スルコトヲ得ス
第十四條 若シ證書ノ署名者中ノ一人カ共同債務者ナルカ又ハ保證人ナルカニ付キ疑アルトキハ之ヲ保證
人ト看做ス

第十四條 保證人ノ義務ハ其相續人ノ負擔ニ歸シ又債權者ノ相續人ノ利益ニ歸ス但反對ノ要約
ルトキハ此限ニ在ラズ
第十五條 債務者カ保證人ヲ立ツ可キ合意ヲ以テ義務ヲ負ヒタルトキハ其債務者ハ債務ノ性質及
ヒ大小ニ應ジ有資力ノ人ニ非サレハ保證人トシテ之ヲ立ツルコトヲ得ス

四百六十二
若シ右ノ保證人カ無資力ト爲リタルトキハ債務者ハ前項ト同一ノ條件ヲ具備スル他ノ者ヲ立ツルコトヲ要ス

此他保證人ハ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ於テ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定ムルコトヲ要ス

債權者ヨリ人ヲ指定シテ保證人ヲ要約シタルトキハ本條ノ條件ヲ要セス

第十六條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ十分ナル物上擔保ヲ與フルコトヲ得

第十七條 商賈券ノ保證及ヒ仲買人カ委託者ニ對シテ附約シタル擔保ノ特例ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二節 保證ノ效力

第一款 保證人債權者間ノ保證ノ效力

第十八條 債權者ハ債務者ニ義務履行ノ催告ヲ爲シタルモ其效果アラザリシコトノ證據ヲ保證人ニ示サスシテ之ヲ訴追スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ行方知レヌ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ顯然タル無資力ノ形狀ニ在ルトキハ右ノ催告ヲ必要トセス

第十九條 保證人ハ右ノ外下ノ制限及ヒ條件ニ從ヒ債權者カ豫メ債務者ノ財産ヲ檢索シテ之ヲ賣ラシムルコトヲ債權者ニ要求スルコトヲ得

第二十條 保證人ハ明示又ハ默示ニテ財産檢索ノ利益ヲ拋棄シ又ハ主タル債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキハ檢索ノ利益ヲ享ケス

總テノ場合ニ於テ保證人ハ主タル債務ノ基本ヲ爭フ前ニ檢索ノ利益ヲ以テ債權者ニ對抗セザリシトキハ其利益ヲ失フ

第二十一條 檢索ヲ要求スル保證人ハ債務者ノ不動産ニシテ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内

ニ在ルモノヲ債權者ニ指示スルコトヲ要ス

保證人ハ爭ニ係ル不動産ヲモ他ノ債權者ニ優先ニテ抵當ト爲リタル不動産ヲモ訴追債權者ニ抵當ト爲リタル不動産ニシテ第三所持者ノ手ニ存スルモノヲモ指示スルコトヲ得ス

債務者ニ屬スル動産ニ付テハ債務者之ヲ物上擔保トシテ既ニ債權者ニ供シタルトキニ非サレハ保證人其檢索ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十二條 債權者檢索ノ有效ナル對抗ヲ受ケ其檢索ヲ爲スコトヲ怠リテ債務者其後無資力ト爲リタルトキハ保證人ハ債權者ノ檢索ニ因リ得ヘカリシ金額ニ滿ツルマテ其義務ヲ免ケル

第二十三條 一人ノ債務者ノ爲メ數人ノ保證人アルトキハ債務ハ均一ニテ當然其間ニ分タル但不均一ニテ分別スルコトヲ定メ又ハ其保證人カ或ハ債務者ト共ニ或ハ各自ノ間ニ連帶シテ義務ヲ負擔シ若クハ其他ノ方法ニテ分別ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

保證ノ義務カ各別ノ證書ヨリ生スルトキト雖モ分別ノ利益ハ存在ス

第二十四條 保證人ハ檢索ノ利益ヲ用サタルト否ト分別ノ利益ヲ享クルト否トヲ問ハス訴追ヲ受ケタルトキハ第二十九條ニ明示シタル目的ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムル爲メ基本ニ付テ

答辯前ニ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ條件ニ從ヒ延期抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第二十五條 保證人カ基本ニ付テ答辯スルトキハ主タル債務ノ組成又ハ其消滅ヨリ生スル抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

保證人ハ債務ヲ保證スルニ當リ債務者ノ無能力又ハ其承諾ノ瑕疵ヲ知ラザリシトキハ此等ノ事項ヨリ生スル無効ノ理由ヲ以テモ對抗スルコトヲ得

第二十六條 右ノ抗辯ニ付キ債權者ト保證人トノ間ニ有リタル判決ハ債務者ヲ害スルコトヲ得ス然レトモ之ヲ利スルコトヲ得但其判決ノ牽連シタル箇條ハ債務者ニ利ナルモノト不利ナルモノトヲ分ツコトヲ得ス

第二十七條 債務者ニ對シテ時效ヲ中斷シ又ハ債務者ヲ遲滞ニ付スル行爲ハ保證人ニ對シテ同一ノ效力ヲ生ス

四百六十四

保證人ニ對シタル右同一ノ行爲ハ保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキニ非サレハ債務者ニ對シテ效力ヲ生セズ

第二十八條 主タル債務者ノ爲シタル債務ノ自白ハ保證人ヲ害ス
保證人ノ爲シタル自白ハ委任又ハ連帶アル場合ニ非サレハ債務者ヲ害セズ

第二款 保證人債務者間ノ保證ノ效力

第二十九條 債權者ヨリ訴追ヲ受ケタル保證人ハ第二十四條及ヒ財産編第三百九十九條ニ掲ケタル如ク主タル請求ニ對シテ債務者ノ答辯ヲ要ス可キ場合ニ於テハ其答辯ヲ爲サシムル爲メ又債務者ノ敗訴ノ言渡ヲ受ク可キ場合ニ於テハ債務者ニ對シテ次條ニ定メタル賠償ノ言渡ヲ得ル爲メ擔保附帶ノ請求ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得

右擔保附帶ノ請求ハ債務者ノ委任ヲ受ケタル保證人ノミニ屬ス

第三十條 主タル債務者ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務者ニ義務ヲ免カレシメタル保證人ハ債務者ヨリ賠償ヲ受クル爲メ之ニ對シテ擔保訴訟ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタルトキハ其債務者ニ義務ヲ免カレシメ又ハ債務者ノ名ニテ辨濟シタル元利、其擔當シタル費用、立替ヲ爲シタル時ヨリ其利息其他損害アルトキハ其賠償ノ金額ヲ債務者ヨリ償還セシムルコトヲ得又此委任ノ場合ニ於テ保證人ハ其分限ヲ以テ言渡ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對シ直チニ其賠償ヲ受クル爲メ訴ヲ爲スコトヲ得

第二 保證人カ債務者ノ不知ニテ義務ヲ負擔シタルトキハ債務者ノ義務ヲ免カレシメタル日ニ於テ之ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從ヒ右ノ賠償ヲ受ク
若シ保證人カ債務者ノ意ニ反シテ義務ヲ負擔シタルトキハ保證人ノ求償ノ日ニ於テ債務者

ノ爲メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ右ノ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三十一條 連帶又ハ不可分ニテ責任スル人ノ債務者ヨリ保證人ニ委任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其債務者ハ財産取得編第二百四十九條ニ從ヒ保證人ニ對シテ連帶ノ擔保人タリ

第三十二條 債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ怠リタル保證人ハ其債務者カ債權者ニ對抗ス可キ排訴抗辯ヲ有シタルコトヲ證スルトキハ第三十條ニ定メタル求償權ヲ有セズ

若シ債務者カ債權者ニ對抗ス可キ延期抗辯ノミヲ有シタルトキハ右ノ懈怠アル保證人ノ求償ニ對シ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第三十三條 保證人ハ有效ニ辨濟シタルモ債務者ニ其旨ヲ有益ニ通知スルコトヲ怠リ爲メニ債務者カ善意ニテ再ヒ辨濟シ其他有償ニテ自己ノ免責ヲ得タルトキモ亦其求償權ヲ失フ

右ニ反シテ債務者カ自ラ債務ヲ消滅セシメタルコトヲ保證人ニ通知スルコトヲ怠リタルトキハ債務者ハ場合ニ從ヒ其債務ノ消滅後保證人ノ爲シタル辨濟ニ付キ責任アリトノ宣告ヲ受クルコト有リ

孰レノ場合ニ於テモ利害ノ關係アル當事者ハ受取ルコトヲ得サルモノヲ受取リタル債權者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第三十四條 委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタル保證人ハ辨濟ヲ爲ス前又訴追ヲ受クル前ニテモ債務者ヨリ豫メ賠償ヲ受クル爲メ又ハ未定ノ損失ヲ擔保セシムル爲メ左ノ三箇ノ場合ニ於テ之ニ對シ訴ヲ爲スコトヲ得

第一 債務者カ破産シ又ハ無資力ト爲リ且債權者カ清算ノ配當ニ加入セサルトキ

第二 債務ノ満期ノ到リタルトキ

第三 満期ノ不定ナル債務カ其日附ヨリ十年ヲ過キタルトキ

第三十五條 債權者カ完全ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ前條及ヒ第二十九條ニ依リ債務者ヨリ豫メ保證人ニ供ス可キ賠償ハ債務者其債權者ニ對スル自己ノ免責ヲ保スル爲メ債權者ノ名ヲ以テ之ヲ供

○第三編民法○第四章債權擔保編 四百六十五

第三十六條 主たる債務ヲ辨濟シ其他ノ方法ニ因リ義務ヲ消滅セシメタル總テノ保證人ハ己レノ權利ニ基キテ有スル訴權ノ外債務者又ハ第三者ニ對シ債權者ノ有シタル總テノ權利ニ付キ財產編第四百八十二條第一號ニ從ヒテ代位ス但第三十二條及ヒ第三十三條ノ制限ニ從フコトヲ要ス債權者カ債務者ノ不動產ニ付キ先取特權又ハ抵當權ヲ有シ其登記ヲ爲シタルトキハ保證人ハ代位ヲ目的トシテ自己ノ條件附ノ債權ヲ此登記ニ附記スルコトヲ得又讓渡ノ場合ニ於テハ其不動產ヲ所持スル第三者ハ撤除ノ爲メ債權者ノ外保證人ニ對シテモ亦提供ヲ爲スコトヲ要ス債權者カ有益ナル時期ニ於テ右ノ登記ヲ爲サハリシトキハ保證人ハ第四十五條及ヒ財產編第五百十二條ニ從ヒ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 連帶又ハ不可分ナル義務ノ數人ノ債務者アルトキハ保證人ハ其中ノ或ル者ヲ保證シ他ノ者ヲ保證セサルトキト雖モ右ノ代位ニ依リ債務者ノ各自ニ對シテ全部ニ付キ求償スルコトヲ得

第三款 共同保證人間ノ保證ノ效力

第三十八條 一箇ノ債務ニ付キ數人ノ保證人アリテ其中ノ一人カ任意ナルト否トテ問ハス債務ノ全部ヲ辨濟シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對スル求償ニ關シ上ニ記載シタル條件ノ制限及ヒ區別ニ從ヒ或ハ事務管理ノ訴權ニ因リ或ハ債權者ノ訴權ニ因リ他ノ保證人ノ各自ニ對シテ均一部分ニ付キ求償スルコトヲ得

右ノ保證人カ債務ノ全部ヲ辨濟セシメテ自己ノ部分ヨリ多ク辨濟シタルトキハ其超過額ノ爲メノ求償ハ他ノ共同保證人間ニ均一ニ之ヲ分ツ

第三十九條 共同保證人中ニ無資力ト爲リタル者アルトキハ辨濟シタル者ハ其無資力者ノ引受人ニ對シテ求償權ヲ有ス若シ引受人アラサルトキハ無資力者ノ部分ハ債務ヲ辨濟シタル者ヲ加ヘ他ノ有資力ナル共同保證人間ニ之ヲ分ツ

第四十條 前條ニ依リ訴ヲ受ケタル共同保證人ハ未ダ主タル債務者ノ財產ノ檢索アラサルトキハ第二十條以下ニ定メタル規則及ヒ條件ニ從ヒテ豫メ其檢索ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 連帶シテ又ハ不可分ナル債務ノ爲メ義務ヲ負擔シタル數人ノ保證人中全部履行ニ付キ訴ヲ受ケタル者ハ本訴ニ附帶シテ共同保證人ヲ擔保ノ爲メニ召喚シ之ニ對シ同一ノ判決ヲ以テ前數條ニ附サレタル言渡ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十二條 保證人ノ一人ニ對スル時效中斷又ハ付遲滯ノ行爲ハ他ノ保證人ニ對シテ其效ナシ但其義務カ連帶ナルトキハ此限ニ在ラズ

債權者ト保證人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ保證人ヲ利スルコトヲ得然レトモ之ヲ害スルコトヲ得ス

第四十三條 相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人中ニ無資力ト爲リタル者アルトキハ各保證人ノ間ニ第六十七條乃至第六十九條ヲ適用ス但各條ニ記載シタル區別ニ從フ

第三節 保證ノ消滅

第四十四條 保證ハ義務消滅ノ通常ノ原因ニ由リ直接ニ消滅ス

保證ノ更改、免除、相殺及ヒ混同ハ財產編第五百二條、第五百十一條、第五百二十一條及ヒ第五百三十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四十五條 債權者カ故意又ハ懈怠ニテ保證人ノ其代位ニ因リテ取得スルコトヲ得ヘキ擔保ヲ滅シ又ハ害シタルトキハ總テノ保證人ハ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

保證人ノ引受人ハ保證人ノ權利ニ基キ右ノ權利ヲ援用スルコトヲ得

第四十六條 保證ハ主タル義務消滅ノ總テノ原因ニ由リテ間接ニ消滅ス

債權者ト主タル債務者トノ間ニ爲シタル代物辨濟、更改、免除、相殺及ヒ混同ノ保證人ニ對スル效力ハ財產編第四百六十一條、第五百一一條、第五百六條、第五百二十一條及ヒ第五百三十八條ニ

○第三編民法○第四章債權擔保編

於之ヲ規定ス

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第四十七條 法律ノ規定又ハ判決ニ從ヒテ保證人ヲ立ツル貴アル者ハ自ラ保證人ヲ立テント約シタルトキト同シク第十五條及ヒ第十六條ニ定メタル如キ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコトヲ要ス

法律上及ヒ裁判上ノ保證人ヲ承認スル手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 裁判所ハ法律カ裁判執行ノ爲メ保證人ヲ立テシムル權能ヲ付與シタル場合ニ非サレハ此カ爲メ保證人ヲ立ツ可キコトヲ命スルヲ得ス

第四十九條 裁判上ノ保證人及ヒ其引受人ハ財産檢索ノ利益ヲ有スルコトヲ得ス

第五十條 法律上及ヒ裁判上ノ保證人ハ其債務者ニ對スル擔保ノ求償ニ關シテハ常ニ之ヲ債務者ノ代理人ト看做ス

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶

總則

第五十一條 義務ノ目的單數ナルモ主タル當事者トシテ之ニ關係スル人複數ナルトキハ其義務ハ財産編第四百三十八條ニ指示シ且下ノ二節ニ記載スル如ク受方又ハ働方ニテ連帶タルコト有リ

第一節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第五十二條 債務者間ノ連帶即チ受方連帶ハ共同債務者ヲシテ其共通ノ利益ニ於テモ債權者ノ利益ニ於テモ相互ニ代人ヲラシム

此連帶ハ合意、遺言、又ハ法律ノ規定ヨリ生ス

連帶ハ之ヲ推定セズ如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス但不可分ニ關シ第八十八條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第五十三條 數人ノ債務者ノ連帶義務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス

又連帶債務者ハ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責任スルコトヲ得

第二款 債務者間ノ連帶ノ效力

第五十四條 數人ノ連帶債務者ヲ有スル債權者ハ其訴追セント擇ミタル債務者ニ對シ唯一人ノ債務者ニ於ケル如ク且其債務者ヨリ檢索又ハ分別ノ利益ノ抗辯ヲ受ケルコト無ク義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得

又債權者ハ皆濟ヲ受ケルニ至ルマテ同時又ハ順次ニ總債務者ヲ訴追スルコトヲ得

第五十五條 各債務者ハ訴ヲ受ケタルト否トヲ問ハス連帶債務全部ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ債權者ニ強要スルコトヲ得

第五十六條 連帶債務者ニシテ債務ニ於ケル全部又ハ自己ノ部分ヨリ多額ヲ付キ訴ヘテレタル者ハ共同債務者ヲ訴訟ニ召喚シ附帶ノ擔保方法ヲ以テ其債務者ヲシテ答辯又ハ辨濟ヲ擔任セシムル爲メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得但債權者ニ對シテハ訴追ヲ受ケタル債務者ノミ其對手人タル可シ

共同債務者ハ亦其利益保護ノ爲メ任意ニ自費ヲ以テ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第五十七條 連帶債務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル各債務者ハ自己ノ權利ニ基クテ共同債務者ノ權利ニ基クテヲ問ハス義務ノ組成又ハ消滅ヨリ生スル答辯方法ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ債權者ニ對抗スルコトヲ得

右ノ外更改、免除、相殺及ヒ混同ニ關シテハ財産編第五百一條、第五百六條、第五百九條、第五百二十一條及ヒ第五百三十五條ノ規定ニ從フ

第五十八條 債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ基キタル答辯方法ハ其人自身ニ非サレハ之ヲ援用スルコトヲ得然レトモ此答辯方法カ一旦許サレタル上ハ債務ニ於ケル共者ノ部分ニ付

○第二編民法○第四章債權擔保編

キ他ノ債務者ヲ利ス但他ノ債務者カ契約ノ際義務履行ニ付キ其者ノ分擔ヲ豫期スルコト有リタルトキニ限ル

四百七十

第五十九條 前二條ニ規定シタル種種ノ事項ニ付キ債權者ト債務者ト一人トノ間ニ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ノ利害ニ於テ前二條ニ同シキ限度及ヒ區別ヲ以テ其效力ヲ生ス

第六十條 一人ノ債務者ト他ノ債務者トノ間ニ於ケル連帶ノ存在ノミニ關シテ其一人ト債權者トノ間ニ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ヲ害セズ之ヲ利セズ

第六十一條 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付過滯ヲ成ス原因ハ他ノ債務者ニ對シテ同一ノ效力ヲ有ス

債權者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時効ノ進行スルコトヲ妨ケス

第六十二條 義務ノ目的物ノ滅失其他總テ義務履行ノ不能カ連帶債務者ノ一人ノ過失ニ因リ又ハ其付過滯後ニ生スルトキハ他ノ債務者ハ債權者ニ對シ連帶シテ損害賠償又ハ過意約款ノ責ニ任ス但過失アリ又ハ過滯ニ在リシ債務者ニ對スル他ノ債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第六十三條 連帶債務者中ニテ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得セシメタル者ハ他ノ債務者ニ對シ辨濟又ハ免責ノ限度ニ於テ其各自ノ負擔部分ニ付キ自己ノ權利ニ基キテ求償權ヲ有ス

若シ求償中ニハ會社及ヒ代理ノ規則ニ從ヒ辨償金及ヒ必要ナル出捐ノ賠償ノ外辨償以後ノ法律上ノ利息及ヒ避ケルコトヲ得サリシ費用ヲ包含ス

第六十四條 債務ヲ辨濟シタル債務者ハ債權者ノ實際受取リタルモノノ限度ニ於テノミ財產編第四百八十二條第一號ニ從ヒ法律上ノ代位ニ因リテ其債權者ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得

然レトモ其債務者ハ前條ニ記載シタル如ク其共同債務者ノ各自ノ間ニ於テ自己ノ訴ヲ分ツコトヲ要ス

第六十五條 不注意ニテ辨濟シタル保人ニ對シ第三十二條及ヒ第三十三條ニ規定シタル求償ノ失權ハ訴追又ハ辨濟ヲ共同債務者ニ告知スルコトヲ怠リタル連帶債務者ニ對シテ之ヲ適用ス

第六十六條 共同債務者ノ一人カ上ニ指示シタル方法ノ一ニ因リ求償ノ行ハレタル當時ニ於テ無資力ナルトキハ無資力者ノ部分ハ辨濟シタル者ヲモ加ヘテ他ノ資力アル者ノ間ニ割合ニ應シテ之ヲ分ツ但求償者ノ責ニ歸ス可キ懈怠アリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ連帶債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ清算ニ加ハルコトヲ得

此場合ニ於テ辨濟ノ殘額ハ他ノ債務者之ヲ負擔ス但其債務者ノ自己ノ部分外ニ負擔シタルモノニ對スル求償ハ其清算ニ加ハリタル他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第六十八條 債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタル前ニ一分ノ辨濟アリタルトキハ債權者ハ辨濟殘額ノ爲メニ非サレハ其清算ニ加ハルコトヲ得又一分ノ辨濟ヲ爲シタル他ノ債務者ハ第六十三條ニ從ヒ自己ノ受取ル可キモノヲ辨償セシムル爲メ清算ニ加ハルコトヲ得

第六十九條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又ハ其中ノ數人ノ無資力ト爲リタル場合ニ於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコトヲ得

然レトモ債權者カ清算ノ一ニ於テ配當金ヲ受取リタルトキハ他ノ清算ニ於テ其債權ノ全額ニ從ヒ債權者ニ充テタル新配當金ハ以前ノ配當ニ於テ未タ受取ラサルモノノ割合ニ應スルニ非サレハ債權者之ヲ受取ルコトヲ得ス

受取ノ殘額ハ各清算ニ之ヲ返還ス但各清算ノ辨濟シタルモノノ割合ニ從フ

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第七十條 債權者カ總債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄スルトキハ財產編第四百三十八條第一項ニ規定シタル如ク其債務者ノ義務ハ單ニ連合ノモノト爲リテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコト無シ

第七十一條 財產編第五百十條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ債務者ノ一人又ハ數人ニ對シテノミ連帶

○第二編民法○第四章債權擔保編 四百七十一

ノ拋棄アリタルトキハ他ノ債務者ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ニ於テノニ其義務ヲ免カ
連帶ノ免除ヲ得サル債務者中ニ無資力者アルトキハ債權者ハ其無資力ニ付キ連帶ノ免除ヲ得
ル者ノ部分ヲ負擔ス

第七十二條 債權者カ連帶債務者ノ一人ヨリ供シタル擔保ニシテ他ノ債務者ノ辨濟シテ代位スル
コトヲ得ヘキモノノ全部又ハ一分ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルトキハ他ノ債務者ハ其擔保ヲ供
シタル者ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免カレント請求スルコトヲ得
右ノ請求ニ因リテ宣告シタル免責ハ連帶ノ任意免除ト同一ノ效力ヲ有ス

第四款 全部義務

第七十三條 財産編第二百七十八條、第四百九十七條第二項及ヒ其他法律カ數人ノ債務者ノ義務
ヲ其各自ニ對シ全部ノモノト定メタル場合ニ於テハ相互代理ニ付シタル連帶ノ效力ヲ適用スル
コトヲ得ス但其總債務者又ハ其中ノ一人カ債務ノ全部ヲ辨濟スル言渡ヲ受ケタルトキモ亦同シ
然レトモ一人ノ債務者ノ爲シタル辨濟ハ債權者ニ對シ他ノ債務者ヲ免カレシム又辨濟シタル者
ハ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ債權者ニ代位シテ得タル訴權ニ依リテ他ノ債務者ニ對シ其部分ニ
付キ求償權ヲ有ス

第二節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第七十四條 債權者間ノ連帶即チ働方連帶ハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ其債權者ヲシテ互ニ代人
トシシム

此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生ス

第七十五條 數人ノ連帶債權者ニ對スル債務者ノ約務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之
ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス
又債務者ハ數人ノ債權者ニ對シ別異及ヒ不均一ノ體操又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得

第二款 債權者間ノ連帶ノ效力

第七十六條 各連帶債權者ハ唯一人ノ債權者ナル如ク義務全部ノ履行ヲ債務者ニ要求スルコトヲ
得
債權者ノ一人カ訴ヲ起シタルトキハ他ノ各債權者ハ共通ノ利益及ヒ自己ノ利益ノ保護ノ爲メ訴
訟ニ參加スルコトヲ得

第七十七條 債務者ハ債權者ノ一人ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケサル間ハ債務ノ全部ノ辨濟ヲ
受クルコトヲ債權者ノ各自ニ強要スルコトヲ得之ニ反スル場合ニ於テハ訴追者又ハ要求者ニ對
スルニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

若シ同時ニ數人ノ訴追者又ハ要求者アルトキハ債務者ハ其總テノ者ニ對スルニ非サレハ辨濟ヲ
爲スコトヲ得ス

第七十八條 義務組成ノ瑕疵ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ債務ノ全部ニ對シ總債權者ノ
利害ニ於テ其效力ヲ生ス但訴訟ニ其名ヲ出ダササリシ者ニ對シテモ亦同シ

第七十九條 義務消滅ノ原因ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ左ノ區別ニ從フニ非サレハ訴
訟ニ與カラサリシ債權者ニ對シテ其效ナシ

第一 第七十七條ニ定メタル條件ニ從ヒ債權者ノ一人ニ爲シタル辨濟ハ全部ニ付キ總債權者
ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得又財産編第五百二十一條第三項ニ記載シタル如ク債權者ノ一
人ニ對シ債務者ノ有スル和殺ニ付テモ亦同シ但和殺ノ原因カ第七十七條ニ從ヒ債務者ヨリ
其債權者ニ有效ニ辨濟スルコトヲ得ヘキ時期ニ於テ生シタルトキニ限ル

第二 債權者ノ一人ノ行爲ヨリ生シ又ハ其權利ニ基キテ生スル更改、免除及ヒ混同ハ財産編
第五百一條第三項、第五百十五條第一項及ヒ第五百二十五條第二項ニ從ヒ其債權者ノ部分
ニ非サレハ債務ヲ消滅セシメス但此行爲ハ他ノ債權者ノ訴追又ハ要求ノ前ニ在ルコトヲ要
ス

又右同一ノ行為ニ關シ及ヒ辨濟又ハ相殺ニ關スル和解ニ付テモ亦同シ
第八十條 債權者中ノ一人ノ一身ニ限ル債權者ノ抗辯ニ付キ有リタル判決ハ他ノ債權者ヲ害セス
又之ヲ利セヌ又債權者ノ一人カ其連帶ニ於ケル權利ニ付キ債權者ト爲シタル和解ニ付テモ亦同
シ

第八十一條 債權者ノ一人カ債權者ニ對シテ時效ヲ中斷シ又ハ其債權者ヲ連帶ニ付スル行為ハ全
部ニ付キ他ノ債權者ヲ利ス

債權者ノ一人ノ利益ニ於テ法律ノ設定シタル時效ノ停止ハ其部分ニ限リ其一人ノミチ利ス
第八十二條 義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ債權者ノ特別ノ關係及ヒ其相
互ノ部分ニ從ヒ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了
第八十三條 債權者間ノ連帶ハ拋棄ニ因リテ止ム其拋棄ハ明示ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第八十四條 連帶ノ拋棄ハ債權者ノ一人若シハ數人又ハ其總員ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

總債權者ノ側方連帶ノ拋棄ハ第七十條ニ規定シタル如ク受方連帶ノ拋棄カ共同債權者ニ對シテ
生セシムルト同一ノ效力ヲ其債權者間ニ生セシム

若シ債權者ノ一人又ハ數人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ此拋棄ヲ爲シタル者ノ部分ニ
付テノミ訴ヲ爲シ又ハ辨濟ヲ受ケル權利ヲ失フ

第八十五條 連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ナクシテ有效ナリ
然レトモ其拋棄ハ之ヲ債務者ニ告知セシカ又ハ債務者明確ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ上ノ
規定ヲ以テ債務者ニ附シタル辨濟其他ノ行為ニ對シテ債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ス

債務者ハ拋棄ヲ申立ツル利益アルトキハ之ヲ申立ツルコトヲ得又拋棄カ其權利ノ能害ニ於テ爲
サレタルトキハ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三章 任意ノ不可分

第八十六條 財產編第四百四十一條及ヒ第四百四十二條ニ規定シタル不可分ノ外債務ハ尙ホ數人
ノ債務者ノ負擔又ハ數人ノ債權者ノ利益ニ於テ債務履行ノ擔保トシテ任意上不可分タルコトヲ
得但財產編第四百四十三條ニ指示シタル如ク受方又ハ側方ノ連帶ニ併合シ又ハ併合セサルコト
有リ

任意ノ不可分ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得此不可分ハ明示タルコトヲ要ス

第八十七條 債務者ノ負擔ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ側方タル可キコトノ明示アルニ非サ
レハ債權者ノ利益ニ於テ存立セス

又債權者ノ利益ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ受方タル可キコトヲ明示アルニ非サレハ債務
者ノ負擔ニ於テ存立セス

第八十八條 受方ナルト側方ナルトトク問ハス任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ側方ノ連
帶ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限リ債務者又ハ債權者ノ間ニ此連帶ノ效力ヲ生セシム

第八十九條 債務者ノ一人ニ對シテ時效ヲ中斷又ハ停止スル原因ハ總債務ニ付キ他ノ債務者ニ對
シテ中斷又ハ停止ヲ生ス

又債權者ノ一人ノ權利ヨリ生スル時效ノ中斷又ハ其停止ノ原因ハ他ノ債權者ヲ利ス

第九十條 債權カ受方又ハ側方ニテ同時ニ連帶及ヒ不可分ナルトキハ第八十三條及ヒ財產編第五
百十條ニ記載シタル區別ニ從ヒ明示ナルト默示ナルトトク問ハス連帶ノ拋棄ハ亦任意ノ不可分ノ
拋棄ヲ惹起ス但不可分ノ拋棄ハ連帶ヲ存立セシム

第九十一條 財產編第四百四十四條乃至第四百四十九條、第五百一一條第四項、第五百六條第三項、
第五百九條第一項、第五百十三條、第五百十五條第二項、第五百二十一條第四項、第五百二十六條
及ヒ第五百三十七條第二項ノ規定ハ任意ノ不可分ニ之ヲ適用ス

債權者カ不可分ニテ義務ヲ負ヒタル債務者ノ地位ニ因リテ得ルコト有ル可キ擔保ヲ滅失セシメ
又ハ減少セシメタルトキハ其債務者ハ債權者ニ對シテ第七十二條ノ免責ヲ援用スルコトヲ得

○第二編民法○第四章債權擔保編
四百七十五

第二部 物上擔保

第一章 留置權

第九十二條 留置權ハ財産編及ヒ財産取得編ニ於テ特別ニ之ヲ規定シタル場合ノ外債權者カ既ニ正當ノ原因ニ由リテ其債務者ノ動産又ハ不動産ヲ占有シ且其債權カ其物ノ讓渡ニ因リ或ハ其物ノ保存ノ費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル損害賠償ニ因リテ其物ニ關シ又ハ其占有ニ牽連シテ生シタルトキハ其占有シタル物ニ付キ債權者ニ屬ス
委任ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル者ハ必要ノ費用及ヒ保持ノ費用ノ爲メニ非サレハ其管理シタル物ニ付キ留置權ヲ有セズ

第九十三條 債權者カ留置スル權利ヲ有シタル物ノ一分ノミチ留置シタルトキ其部分ハ總債務ヲ擔保スルニ足ルニ於テハ之ヲ擔保ス
之ニ反シテ債權者ハ債務者ヨリ一分ノ辨濟ヲ受ケタリト雖モ全部ノ辨濟ヲ受ケルニ至ルマテ留置權ニ服シタル總テノ物ヲ留置スルコトヲ得

第九十四條 留置權ハ留置物ノ價額ニ付キ債權者ニ先取特權ヲ付與セズ
然レトモ留置物ヨリ天然又ハ法定ノ果實又ハ產出物ノ生スルトキハ留置權者ハ他ノ債權者ニ先クテ之ヲ收取スルコトヲ得但其果實又ハ產出物ハ其債權ノ利息ニ充當シ猶ホ餘分アルトキハ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第九十五條 留置權ハ債務者カ留置物ヲ讓渡シ又他ノ債權者カ之ヲ差押へ及ヒ賣却セシムル妨ト爲ラズ
然レトモ孰レノ場合ニ於テモ取得者ハ留置權者ニ全ク辨濟セズシテ其物ヲ占有スルコトヲ得

第九十六條 右ノ外動産又ハ不動産ノ留置權者ハ次ノ二章ニ規定シタル如ク動産又ハ不動産ノ質取債權者ト同一ノ責任ニ從フ

此他動産質及ヒ不動産質ニ關スル規定ハ此章ノ規定ニ觸レサル限りハ留置權ニ之ヲ適用ス特ニ債權者カ有意ニテ留置權ヲ行フコトヲ怠リ又ハ實際之ヲ行フコトヲ止メタルトキハ其留置權ヲ失フ

第二章 動産質

第一節 動産質契約ノ性質及ヒ成立

第九十七條 動産質ハ債務者カ一箇又ハ數箇ノ動産ヲ特ニ其義務ノ擔保ニ充ツル契約ナリ

第九十八條 動産質契約ハ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ好意ニテ債務者ノ爲メ擔保ヲ供スル第三者ト債權者トノ間ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得
孰レノ場合ニ於テモ動産質ヲ供シタル第三者ハ第三十條及ヒ第三十一條ニ從ヒ保證人ノ如ク債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第九十九條 動産質ハ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ供スルコトヲ得ス
合意上、法律上及ヒ裁判上ノ管理人ニ付テモ亦同シ此等ノ者ハ其權限ヲ除エサルコトヲ要ス
若シ債務ニ關係ナキ第三者ヨリ動産質ヲ供シタルトキハ其第三者ハ第十二條ニ記載シタル如ク無償ニテ物ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一百條 動産質ハ債權及ヒ質物ヲ明カニ指定セル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス
右質物ハ之ヲ他物ニ易フルコトヲ得サル様詳細ニ記載シ且要用アルトキハ之ヲ評價スルコトヲ要ス

若シ質物カ定量物ナルトキハ其種類、數量、尺度ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ要ス
第一百一條 法律ニ從ヒ質人ニ依リテ債權ヲ證スルコトヲ得ル場合ニ於テハ證書ノ調製ヲ要セズ此場合ニ於テハ債權ノ額及ヒ質物ノ相違ナキコト其性質、價額ヲ或ハ併合シ或ハ各別ニ人證ヲ以テ證スルコトヲ得

第四百七十八

第三百二條 動産質ハ質取債權者カ有體ナル質物ヲ現實ニ且繼續シテ占有スルニ非サレハ之ヲ以テ

然レトモ質物ハ當事者雙方カ選定シ又ハ債權者カ自己ノ責任ヲ以テ選定シタル第三者ノ手ニ之

ヲ寄託スルコトヲ得

此規定ハ債權ノ無記名証券ニモ之ヲ適用ス

第三百三條 質物カ債權ノ記名證券ナルトキハ質取債權者ハ其證券ヲ占有スルコトヲ要ス

此他記名證券ノ質ノ設定ニ付テハ債權ノ讓渡ヲ告知スル通常ノ方式ヲ以テ第三債務者ニ其設定

ヲ告知シ又ハ其第三債務者カ任意ニテ之ニ參加スルコトヲ要ス

又財産編第三百四十七條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

右ハ總テ裏書ヲ以テ取引ス可キ商證券又ハ商品ノ質ニ關シ商法ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第四百四條 會社ノ記名ノ株券又ハ債券ヲ質ト爲ストキハ證券ノ交付ノ外會社定款又ハ法律ニ於テ

株券又ハ債券ノ讓渡ノ爲メニ定メタル方式ヲ以テ之ヲ會社ニ告知シ其帳簿ニ之ヲ記入スルコト

ヲ要ス

第四百五條 動産質ハ當事者ノ意思ニ從ヒ働方及ヒ受方ニテ不可分アリ但反對ナル明示ノ合意アル

トキハ此限ニ在ラス

動産質ハ債務者ヨリ債務ノ一分ヲ辨濟シタルトキト雖モ元利及ヒ費用ノ皆濟ニ至ルマテ質物ノ

全部及ヒ各箇ニ於テ存在ス

第四百六條 質取債權者ハ質物ヲ返還スルマテ其看守及ヒ保存ニ付キ善其ナル管理人ノ注意ヲ加フ

ル責アリ

質取債權者ハ債務者ノ承諾ヲ受ケヌシテ質物ヲ貸貸スルコトヲ得ヌ又債務者ノ承諾ヲ受ケタル

トキ又ハ物ノ使用カ其保存ニ必要ナルトキニ非サレハ自ラ之ヲ使用スルコトヲ得ヌ

第四百七條 質取債權者ハ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ自己ノ債權者ニ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ擔

ヲハ轉質ヲ爲サレハ生セサル可キ意外又ハ不可抗ノ危險ニ付テモ亦其責ニ任ス

第四百八條 質物カ果實又ハ產出物ヲ生スルトキハ之ニ關シ質取債權者ハ第九十四條第二項ニ定メ

タル留置權者ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

留置權者シタル債權ニ關シテハ質取債權者ハ其利息ヲ收取シ之ヲ自己ノ債權ニ充當ス然レトモ債

務者ノ特別ナル委任ヲ受ケヌシテ其元本ヲ受取ルコトヲ得ヌ但裏書ヲ以テ取引ス可キ證券ニ關

スルトキハ此限ニ在ラス

第四百九條 質取債權者カ質物保存ノ爲メ必要ノ出費ヲ爲シタルトキハ債權ニ先テ動産質ヲ以テ

其出費ノ辨償ヲ擔保ス

質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ債權者ノ受ケタル損害ノ賠償ニ付テモ亦同シ

第五百十條 質取債權者ハ動産質ノ附キタル主從ノ債務及ヒ前條ノ償金ノ皆濟ニ至ルマテ債務者及

○第二編民法○第四章債權擔保編

質物ノ價額カ債務ヲ超ユル場合ニ於テハ質取債權者ハ債務者ニ其超過額ヲ辨償スルコトヲ要ス
第百十三條 總テ動産質契約ノ約款又ハ債務満期前ノ合意ニシテ債權者ニ其債權ノ全部又ハ一分
ニ付キ辨償ノ爲メ裁判上ノ評價ナシテ流質ヲ許スモノハ當然無効ナリ
本條ノ禁止ヲ犯ス爲メ債務者カ債權者ニ爲シタル受戻約款附ノ賣買其他ノ合意ハ之ヲ無効ト宣
告スルコトヲ得

本條ニ定メタル無効ハ質取債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得スシテ債務者又ハ其承繼人ノミ之
ヲ援用スルコトヲ得

第百十四條 質物カ質取債權者ノ方ニ存スル間ハ其債務ノ免責時効ノ成就ヲ停止ス
第百十五條 質物ノ占有ハ常ニ容假ノ占有ニシテ其占有ノ繼續期ノ如何ニ拘ハラズ又債務カ辨償
其他ノ方法ニテ消滅シタル後ト雖モ質取債權者ハ取得時効ヲ援用スルコトヲ得ス
然レトモ財産編第百八十五條ニ定メタル二者ノ場合ニ於テハ容假シルコトハ止ム

第三章 不動産質

第一節 不動産質ノ目的、性質及ヒ組成

第百十六條 不動産質契約ハ不動産質債權者ニ他ノ總債權者ヨリ先ニ其不動産ノ果實及ヒ入額ヲ
收取スル權利ヲ付與ス
債務ノ満期ニ至レハ債權者ハ抵當權アル債權者ノ權利ヲ行フ
此期限ハ三十个年ヲ超過スルコトヲ得ス之ヲ超ユルトキハ當然三十个年ニ減縮ス
此期限ハ總令之ヲ延フルモ前後通算シテ三十个年ヲ超過スルコトヲ得ス

第百十七條 不動産質ハ債務者ノ爲メ第三者之ヲ設定スルコトヲ得其不動産質ハ債務者ト設定者
トノ間ニ於テハ動産質ノ爲メ第九十八條ニ定メタル效力ヲ生ス

第百十八條 不動産質ハ第百九十七條及ヒ第百九十八條ニ從ヒ抵當ト爲スコトヲ得ヘキ財産ノ上
ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

此他設定者ハ質ト爲ス財産ノ收益權ヲ自ラ有スルコトヲ要ス其質ハ如何ナル場合ニ於テモ其收
益權ノ繼續期間ヲ超過スルコトヲ得ス
不動産質設定ノ爲メニ要スル能力ハ第百九條及ヒ第百十條ニ定メタル抵當設定ノ能力ト同
一ナリ

第百十九條 不動産質カ合意上ノモノナルトキハ其質ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サ
レハ當事者ノ間ニ之ヲ設定スルコトヲ得ス
又不動産質ハ第百二十二條ニ從ヒ遺言上ノ抵當ノ許サルル場合ニ於テハ遺言ヲ以テ之ヲ設定ス
ルコトヲ得

不動産質ハ之ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニ依リ財産編第三百四十八條ニ從ヒテ登記シタル後ニ
非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
右ノ登記ハ抵當ノ順位ヲ保存スル爲メ抵當ノ登記ニ同シキ效力ヲ有ス

第百二十條 不動産質ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニハ其不動産ノ精確ナル指示ノ外元利ノ債權額
ヲ指示スルコトヲ要ス
右ノ指示カ不十分ナル場合ニ於テハ既ニ爲シタル登記ニ補足ノ合意ヲ附記ス然レトモ此附記ハ
其日附後ニ非サレハ效力ヲ生セズ

第百二十一條 質ト爲シタル物權カ利益權、賃借權又ハ永借權ナルトキハ此權利ノ設定證書ニ依
ル登記ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

第百二十二條 質取債權者ハ右ノ外動産質ニ關シ第百二條ニ記載シタル如ク其債權ヲ擔保スル不
動産ヲ現貨ニ占有スルコトヲ要ス

第百二十三條 不動産質ハ動産質ニ關シ第百五條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ
第二節 不動産質ノ效力

第百二十四條 質取債權者ハ質ニ取リタル不動産ヲ財産編第百十九條乃至第百二十二條ニ規定シ

○第三編民法○第四章債權擔保編

ナル制限ニ從ヒ且質契約ノ期間ニ限リ貸貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラズ又質取債權者ハ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限リ動産質ニ付キ第百七條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動産ヲ轉賣ト爲スコトヲ得

第百二十五條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス質取債權者ハ小修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ爲ス責ニ任ス若シ此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債務者之ヲ償還ス

第百二十六條 建物、宅地ノ質ニ付テハ債權者ハ自ラ之ヲ領スルト之ヲ貸貸スルトヲ問ハス其貸賃ヲ自己ノ債權ノ利息ニ充當シ猶ホ超過額アルトキ又ハ債權者無利息ナルトキハ元本ニ充當ス田畑山林ノ質ニ付テハ當事者ノ間ニ於テ果實ト利息トハ計算セズシテ和殺シタリト看做ス但反對ノ合意アルトキ又他ノ債權者ニ對シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ顯著ナル詐害アルトキハ此限ニ在ラス

貸賃又ハ果實ヲ利息ニ充當スルコトハ毎年ノ公課及ヒ保持、栽培ノ費用ヲ控除シタル純益價額ニ付キ之ヲ爲ス

第百二十七條 質取債權者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラズ常ニ己レノ爲メ負擔重キニ過ラルト思慮スル收益權ヲ將來ニ向ヒテ拋棄シ無利息ニテ抵當權ノミヲ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百二十八條 債權者ハ債務ノ皆濟ニ至ルマテ質ニ取リタル不動産ノ占有ヲ留置スルコトヲ得然レトモ質取債權者ハ債務ノ滿期前又ハ滿期後ニ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

又質取債權者ハ滿期後自ラ賣却ヲ申立ツルコトヲ得

右ハ下ニ指示シタル別異ノ效力ヲ生ス

第百二十九條 他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ノ場合ニ於テハ質取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當權ヲ行ヒ且其債權者カ如何ナル先取特權又ハ抵當權アル他ノ債權者ニモ先ンセラレサルトキ及ヒ先ンセラレルモ他ノ債權者カ總テノ代價ヲ取盡サスシテ殘餘アルトキハ取得者ハ質取債權者ノ尙ホ受シ可キモノノ爲メ第百十六條ニ從ヒ質ノ終了ス可キ時期ニ至ルマテ留置權ニ違フ責アリ債務者ノ爲シタル賣却ニシテ先取特權若クハ抵當權アル債權者又ハ質取債權者ノ請求ニ因リテ増價賣買ノ有リタル場合ニ於テモ亦同シ然レトモ質取債權者自ラ賣却ヲ求メタル場合ニ於テハ其收益權及ヒ留置權ハ消滅ス但其賣却ニ付キ明白ニ此權利ヲ留保シ且順位ノ如何ヲ問ハス他ニ先取特權又ハ抵當權アル債權者アラサルトキハ此限ニ在ラス

第四章 先取特權

總則

第百三十一條 先取特權ハ合意ナキモ法律カ或ル債權ノ原因ニ附著セシメタル優先權ナリ但動産質及ヒ不動産質ヨリ生スル先取特權ハ合意上ノモノトス

先取特權ハ法律ノ制限シテ定メタル原因、條件及ヒ目的ニ於ケルニ非サレハ存在セス先取特權カ第三所持者ニ對シテ追及權ヲ付與スル場合及ヒ其權利行使ノ條件モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十二條 先取特權ハ動産質及ヒ不動産質ニ關シ第百五條及ヒ第百二十三條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ

第百三十三條 先取特權ノ負擔アル物カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ毀損シ第三者此カ爲メ債務者ニ賠償ヲ負擔シタルトキハ先取特權アル債權者ハ他ノ債權者ニ先クテ此賠償ニ於ケル債務者ノ

○第三編民法○第四章債權擔保編

權利ヲ行フコトヲ得但先取特權アル債權者ハ辨濟前ニ合式ニ拂渡差押ヲ爲スコトヲ要ス
先取特權シ負擔アル物ヲ賣却シ又ハ貸貸シタル場合及ヒ其物ニ關シ權利ノ行使ノ爲メ債務者ニ
金額又ハ有價物ヲ辨濟ス可キ總テノ場合ニ於テモ亦同シ

第四百三十四條 先取特權ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 債務者ノ總動産及ヒ附隨ニテ其總不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第四百三十五條 一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相互ノ順位ハ本章ノ各節ニ於テ之ヲ規
定ス

不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ共同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先クツ
但法律ニ於テ特別ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラズ

同原因又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第四百三十六條 本法ニ定メタル先取特權ハ商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權
ヲ妨ケス

商法又ハ特別法ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第四百三十七條 動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク但下ニ定メタル制限及ヒ
條件ニ從フ

第一 訟事費用

第二 葬式費用

第三 最後疾病費用

第四 雇人給料

第五 日用品供給

第一則 訟事費用ノ先取特權

第四百三十八條 訟事費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保存スル爲メ或ハ其財産ヲ清算配當ス
ル爲メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ爲セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行爲ニ付キ金錢ノ
立替ヲ爲シタル債權者又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ル可キ債權者ニ屬ス

總債權者ニ有益ナラサリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモノニシテ其費用ノ爲メ利益ヲ得タ
ル債權者ニ對スルニ非サレハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二則 葬式費用ノ先取特權

第四百三十九條 債務者ノ身分ニ應シ且慣習ニ從ヒテ爲シタル葬式費用ハ先取特權アルモノトス
先取特權ハ債務者ノ擔當ニ係ル同居親族ノ葬式費用ニモ亦之ヲ適用ス

此先取特權ハ葬式ニ連續シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ慣習上ノモノタルモ亦同シ

第三則 最後疾病費用ノ先取特權

第四百四十條 最後疾病費用ノ先取特權ハ債務者又ハ前條ニ指定シタル親族ノ死亡前ノ疾病ニ關ス
ル醫師、藥商、看病人其他此ニ類スル費用ヲ包含ス但債務者ノ破産前又ハ無資力前ノ疾病及ヒ其
親族ノ疾病ニ關スル費用モ亦同シ

長病ノ場合ニ於テハ右ノ費用ノ先取特權ハ最後ノ一ノ年ノ費用ニ之ヲ制限ス

第四則 雇人給料ノ先取特權

第四百四十一條 雇人ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居親族ノ雇人ニ屬ス
右ノ先取特權ハ最後ノ一ノ年ノ給料ノミヲ擔保ス

第五則 日用品供給ノ先取特權

○第三編民法○第四章債權擔保

第四百二十二條

日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居ノ親族及ヒ雇人ノ生活ニ必要ナル日用品ノ供給者ニ屬ス

右ノ先取特權ハ最後ノ六ヶ月間ノ供給ノミヲ包含ス

第二款 一般ノ先取特權ノ効力及ヒ順位

第四百二十三條

一般ノ先取特權ハ先取特權アル各債權者カ動産ニ付キ配當ヲ受ケ尙ホ不足アルコト非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ動産代價ノ配當ニ先ヲテ不動産代價ノ配當アルトキハ債權者ハ假ニ條件附ニテ之ニ加入スルコトヲ得但日後動産代價ノ配當加入ニ於テ辨濟ヲ得サル部分ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

動産代價ノ配當ニ有益ナル時期ニ加入スルコトヲ怠リタル債權者ハ動産ニ付キ受ク可カリシモノノ限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

第四百二十四條

一般ノ先取特權ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ第三百二十八條乃至第四百二十二條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒテ配當加入ヲ定ム

右ノ數條ニ掲ケタル同原因ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス

若シ一般ノ先取特權カ動産ニ係ル特別ノ先取特權ト競合スルトキハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先クテ又特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ詐害ナキニ於テハ一般ノ先取特權ニ先クツ

然レトモ一般ノ先取特權ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ先クツ

一般ノ抵當ノ負擔アル總不動産ヲ同時ニ賣却シタル場合ニ於テハ一般ノ先取特權ハ各不動産ノ賣却代價ノ割合ニ應ジテ其總不動産ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ賣却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ賣却ニ付キ全部之ヲ充當シ尙ホ

附隨ニテ次ノ賣却ニ付キ之ヲ充當ス且此先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ一般ノ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動産ノ賣却代價ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百四十五條 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ登記ヲ要セス

第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第四百四十六條 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權ヲ有スル動産質取債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 不動産ノ貸與人

第二 種子及ヒ肥料ノ供給者

第三 農業ノ稼人及ヒ工業ノ職工

第四 動産物ノ保存者

第五 動産物ノ賣主

第六 旅店主人

第七 舟車運送營業人

第八 保證金ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ所爲ニ對スル債權者

第九 右保證金ノ貸主

第一則 不動産質貸人ノ先取特權

第四百四十七條 居室、倉庫、其他ノ建物ノ貸與人ハ賃借人ノ使用又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ動産物カ賃借人ニ屬セスト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス但賃貸人カ賃貸場所ニ此動産物ノ持込ヲ知リタル當時其物ノ賃借人ニ屬セサル事實ヲ知ラス且其事實ヲ豫見スルニ足ル可キ理由アラ

○第二編民法○第四章債權擔保編

貸貸人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又貸借人及ヒ其家族ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉寶石ニ付キ又無記名ナルモ證券ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十八條 貸貸人ハ家賃ノ當期分及ヒ後ノ一期分ノ辨濟ヲ擔保スルニ足ル可キ動産ヲ貸貸シタル場所ニ備フルコトヲ貸借人ニ要求スルコトヲ得貸借人之ヲ爲サス且此家賃ノ前拂又ハ之ニ相當スル其他ノ擔保ヲ供セサルトキハ貸貸人ハ貸貸借ヲ解除スルコトヲ得尙ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

貸貸場所ニ備ヘタル動産ヲ貸貸人ノ許諾ナクシテ取去リタルモ別ニ詐害ナキニ於テハ貸貸人ハ其擔保力不足ト爲リタルトキ且貸借人ニ屬スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムルコトヲ得ス

然レトモ貸貸人ノ權利ヲ詐害シテ爲シタル行爲ニ付テハ貸貸人ハ財産編第三百四十一條以下ニ記載シタル條件及ヒ區別ニ從ヒ第三者ニ對シテ其行爲ヲ廢罷セシムルコトヲ得

右ハ總テ第百三十三條ニ依リテ貸貸人ノ有スル權利ヲ妨ケス
第百四十九條 貸貸借ト永賃借トヲ問ハス田畑山林ノ貸貸人ハ賃借人カ居宅並ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産ニ付キ及ヒ土地ノ利用ニ供シタル動産、農具其他ノ器具ニ付キ上ト同一ノ限度ニ於テ先取特權ヲ有ス

右ノ貸貸人ハ貸貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附著スルト土地ニ保存シ有ルトヲ問ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス

分果貸貸人ハ貸貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物ノ中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ノ上ニ先取特權ヲ行フ
第百五十條 貸借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テ貸貸人ハ貸貸場所ニ備ヘ有スル動産カ讓受人又ハ轉借人ニ屬スルコトヲ知ルト雖モ其先取特權ハ此等ノ物ニ及フ

此場合ニ於テ先取特權ハ第百三十三條ニ從ヒ讓渡又ハ轉貸ノ代價トシテ主タル貸借人ノ受取ル可キ金額ニ及フ但前拂ヲ以テ貸貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

第百五十一條 貸借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ貸貸人ハ土地、建物ノ借賃其他ノ負擔ニ付キ前期、當期及ヒ次期ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セス

此他先取特權ハ貸貸借ヨリ生スル他ノ合意上ノ義務、前期及ヒ當期ニ於テノ貸借人ノ過失又ハ懈怠ノ爲メ貸貸人ノ受シ可キ賠償及ヒ貸貸人カ請求スルコトヲ得ヘキ解除ニ添ヒタル損害賠償ヲ擔保ス

第百五十二條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ノ爲メ貸貸借ノ解除ヲ防止シ及ヒ初ヨリ轉貸又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラス其貸借權ヲ轉貸シ又ハ讓渡スコトヲ得但貸貸借殘期ノ爲メ貸貸人ニ土地、建物ノ借賃其他ノ納額ヲ擔保スルコトヲ要ス

第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權
第百五十三條 所有者、用益者、賃貸人又ハ占有者ニ種子及ヒ肥料ヲ供給シタル者ハ之ヲ用非タル年ノ果實ニ付キ先取特權ヲ有ス

第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權
第百五十四條 雇人ノ外其年ノ耕耘收穫ノ爲メ勞動シタル稼人ハ一介年間ノ給料ノ爲メ其收穫物ニ付キ先取特權ヲ有ス

又工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ先取特權ヲ有ス但其年ノ給料中最後ノ三個月間ノ爲メノミニ限ル

第四則 動産物保存者ノ先取特權
第百五十五條 動産物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債權者ハ第九十二條ニ從ヒ己レニ屬スル留置權ヲ行ハサルトキト雖モ其修繕又ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス

○第三編民法○第四章債權擔保編

右ノ先取特權ハ金額、有價物其他動産物ニ關スル物權又ハ人權ヲ債務者ノ爲メニ追認シ保存シ又ハ實行セシメタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ノ費用ニ之ヲ適用ス

第五則 動産物賣主ノ先取特權

第百五十六條 動産物ノ賣主ハ代價辨濟ノ爲メ期限ヲ許與シタルト否トシ問ハズ其代價及ヒ利息ノ爲メ賣却物ニ付キ先取特權ヲ有ス

若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ讓渡シタル物ノ價額ノ半ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其補足額ノ爲メ交換物ニ付キ存在ス

第百五十七條 先取特權ハ賣却物カ用方ニ因リ又ハ不動産ニ合體スルニ因リテ不動産ト爲リタルトキト雖モ猶ホ買主ノ占有ニ在リ且變形セサル間ハ存續ス但合體ノ場合ニ於テハ不動産ヲ毀損セシメテ其物ヲ分離スルヲ得ルコトヲ要ス

第百五十八條 賣主ノ先取特權ハ財産取得編第四十七條及ヒ第八十二條ニ規定シタル留置及ヒ解除ノ權利ヲ妨ケズ

第六則 旅店主人ノ先取特權

第百五十九條 旅店ノ主人ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料、食料ノ爲メ其旅客ノ携帶シテ尙ホ旅店ニ存スル手荷物ニ付キ先取特權ヲ有ス

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第百六十條 舟車運送營業人ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃ノ爲メ及ヒ關稅其他正當ナル附從ノ費用ノ爲メ自己ノ手ニ存スル運送物ニ付キ先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時以内ニ債務者又ハ其名ヲ以テ其物ヲ受取リタル者ニ對シ其物ヲ返還スルカ又ハ運送賃其他ノ費用ヲ辨濟スルカノ催告ヲ爲シ且其效果ヲ生シシムル爲メ成ル可ク短キ時間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ其先取特權ハ物ノ引渡後ト雖モ存續ス如何ナル場合ニ於テモ第三取得者ニ對シテ物ヲ回復スルコトヲ得ス但第百四十八條ニ規定シタル如ク詐害アル場合ハ此限ニ在ラズ且第百三十三條ノ適用ヲ妨ケズ

第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權

第百六十一條 保證ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ過失又ハ職權ノ濫用ヨリ生スル債權ハ其保證金ニ付キ先取特權アリ

第九則 保證金貸主ノ先取特權

第百六十二條 前條ノ保證金ヲ貸付タル第三者ハ職務上ノ所爲ヨリ害ヲ受ケタル者ニ辨濟アリシ後第二位ニテ此保證金ニ付キ先取特權ヲ有ス但第三者カ貸付ノ當時又ハ他ノ債權者ヨリ何等ノ故障ヲモ述ヘサル前規則ニ從ヒテ其權利ヲ證シタルトキニ限ル

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第百六十三條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト競合スルトキハ優先ノ順序ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訟事費用ハ其費用ノ有益グリシ總債權者ノ債權ニ先ツツ但有益ノ限度又ハ割合ニ從フ
第二 其他四箇ノ一般ノ先取特權ハ第百三十七條ニ定メタル順序ヲ以テ總テノ特別ノ先取特權ニ先ツツ但特別ノ先取特權ニ屬セサル動産ノ不足ナル場合ニ限ル

第百六十四條 一箇ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權ヲ有スル諸種ノ債權競合スルトキハ其相互ノ優先權ハ下ノ順序及ヒ區別ニ從ヒテ之ヲ定ム

第一ノ順位ハ先取特權ノ目的物ヲ保存シタル者ニ屬ス
若シ數人ノ債權者漸次ニ保存ヲ爲シタルトキハ優先權ハ其間ニテ最後ノ保存者ニ屬ス
第二ノ順位ハ合意上ノ動産質ニ因リ或ハ不動産ノ貸貸人、旅店主人又ハ運送營業人ノ如ク顯示ノ動産質ニ因リテ物ヲ質ニ取リタル債權者ニ屬ス
第三ノ順位ハ物ノ賣主ニ屬ス
然レトモ質取債權者ハ動産質設定ノ時其物ノ保存費用ノ未タ支拂アラサルコトヲ知ラザリント

キハ第一ノ順位ヲ得
 之ニ反シテ質取債權者カ賣却代價ノ未タ支拂アラサルコトヲ知リタルトキハ賣主之ニ先タツ
 收穫物ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ稼人ニ第二ノ順位ハ種子及ヒ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位
 ハ土地ノ貸貸人ニ屬ス
 工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品コ付キ貸貸人ニ先タツ
 公賣ノ保證金ニ關シテハ職務上ノ所爲ニ對スル各債權者ハ相共ニ債權ノ割合ニ應シ其債權ノ日
 附ニ關ヒス他ノ債權者ニ先タツ又保證金ヲ貸付タル債權者ニモ先タツ其保證金ヲ貸付タル債權
 者ハ保證金ノ殘額ニ付キ第二位ニテ先取特權ヲ有ス
 第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第一百六十五條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ爲メ其條件ニ從ヒ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス
 第一 買賣、交換其他有價ノ行爲ニ因リ又無價ナルモ負擔ヲ帶フル行爲ニ因リテ不動産ヲ讓
 渡シタル者ハ其讓渡シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割者ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第三 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因リテ不動産ニ生シタル増價ニ付キ先取特權ヲ有
 ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行爲ノ當時讓渡人、共同分割者、工事請負人ニ支拂ヒタル金銭ノ
 貸主ハ右同一ノ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一則 讓渡人ノ先取特權

第一百六十六條 讓渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ屬ス

第一 買賣ノ代價及ヒ利息其他ノ負擔ニ付テハ賣主

第二 交換ノ補足額、負擔及ヒ交換物ノ追索擔保ニ付テハ交換者

第三 贈與ノ負擔ニ付テハ贈與者又ハ其承繼人

此他ノ不動産讓渡人ハ一般ニ其對價及ヒ負擔ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一百六十七條 買賣代價、交換補足額ノ外買賣、交換、贈與ノ負擔及ヒ交換其他有價ノ合意ニ於テ
 ル追索擔保ノ未定ノ賠償ハ讓渡ノ證書又ハ日後ノ證書ヲ以テ金銭コテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

此他右ノ證書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要ス

第一百六十八條 交換其他不動産ノ讓渡ノ對價トシテ受取リタル不動産ノ追索擔保ノ爲メノ先取特
 權ハ其追索カ讓渡ノ時ヨリ十年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一年内ニ擔保ノ請求
 ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

對價トシテ受取リタル動産ニ關シテハ擔保ノ爲メノ先取特權ハ追索カ一年内ニ生シ且廢罷ス
 可カラサル判決ヨリ一月内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

第一百六十九條 不動産ノ讓渡人ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以
 テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ及ハス

第二則 共同分割者ノ先取特權

第一百七十條 社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法或ハ合意上ノ指定或ハ不分割物競賣ニ因レル分割
 ヲリ生スル左ノ債權ノ爲メ其分割ニ於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互ニ先取特權ヲ有ス

第一 補足額ノ爲メ即チ配當過分ノ返還ノ爲メニハ之ヲ負擔セル分割者ニ歸シタル不動産ニ
 付キ先取特權アリ

第二 不分割物競賣ノ代價ノ爲メニハ其競賣シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第三 分割者ノ一人カ其配當部分ノ動産又ハ不動産ニ於テ受ケタル追索ノ擔保ノ爲メニハ他
 ノ分割者ニ歸シタル總不動産ニ付キ先取特權アリ但各分割者ノ債務ノ部分ニ限ル

第一百七十一條 右ノ擔保ハ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 社員ニシテ他ノ社員ニ對シ補足額又ハ不分割物競賣ノ代價ヲ負擔シタル者ノ無資力

○第二編民法○第四卷債權擔保編

四百九十三

第二 分割者ノ一人ノ配當部分ニ債權ヲ充テタルトキ其債務者ノ無資力但其債務者ハ分割者

タルト外人タルトモ問ハス分割ノ當時無資力アリシコトヲ要ス
第四百九十四

第百七十二條 第百六十八條ハ分割者間ノ追索擔保ノ先取特權ニ之ヲ適用ス
分割者タルト否トモ問ハス債務者ノ無資力ニ關シテハ其擔保ハ元本ニ於ケル債務ノ滿期ヨリ一
年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ當事者ノ間ニテモ第三者ニ對シテモ之ヲ負
擔セシムルコトヲ得ス

債務カ無期又ハ終身ノ年金權タルトキ債務者ノ無資力カ分割ノ日ヨリ十個年後ニ生スルニ於テ
ハ其擔保ノ負擔ハ止ム

債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其滿期カ十個年以上ニ及フトキモ亦同シ
第百七十三條 第百六十九條ノ規定ハ分割者ノ先取特權ニモ亦之ヲ適用ス

第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權

第百七十四條 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、土手若シハ掘削ノ築造若クハ修繕又ハ地上ニ爲
シタル排泄、灌溉、開墾、置土其他之ニ類似スル工事ヨリ生スル債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス
右ノ先取特權ハ鐵坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖、又ハ廢止ニ關スル地下又ハ外部ノ工事ノ爲メ
工匠、技師及ヒ工事請負人ニ屬ス

第百七十五條 右ノ工事ヨリ生スル先取特權ハ其工事ニ因リ土地又ハ建物ニ加ヘタル増價ニシテ
先取特權行使ノ當時猶ホ存スルモノニ付キ存在ス

右ノ増價ハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ作レル三箇ノ調書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス
此第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作りテ場所ノ現狀ヲ明定シ且目録見タル工事ノ概略ヲ指示
スルコトヲ要ス

此第二調書ハ工事ノ受取ニ付キ爭アルモ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因ノ如何ヲ問ハス其工事ノ絶止
ヨリ三個月内ニ之ヲ作り且其工事ヨリ現ニ生スル増價ヲ證スルコトヲ要ス

此第三調書ハ配當加入ノ請求ノ當時之ヲ作り且右増價ノ存スルモノヲ證スルコトヲ要ス

第四則 金錢貸主ノ先取特權

第百七十六條 前數條ニ掲ケタル先取特權ハ讓渡若クハ分割ノ當時又ハ工匠、技師若クハ工事請
負人トノ契約ノ當時ニ於テ賣買若クハ不分割物競買ノ代價、交換若クハ分割ノ補足額又ハ工事ノ
代金ノ辨濟ノ爲メ金錢ヲ貸付タル者ニ法律ニ依リテ直接ニ屬ス但其金錢ノ貸付及ヒ使用ハ此等
ノ行爲ノ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

若シ讓渡人、分割者又ハ工事ノ爲メノ債權者ノ利益ニ於テ先取特權ノ生セシ後ニ金錢ヲ貸付ク
ルトキハ貸主ハ財產編第四百八十條及ヒ第四百八十一條ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ債權者
又ハ債務者ヨリ合意上ノ代位ヲ得タルトキニ非サレハ先取特權ヲ取得セズ
孰レノ場合ニ於テモ金錢ノ貸主カ債務ノ一分ノミヲ拂ヒタルトキハ貸主ハ其拂ヒタルモノノ割
合ニ應シ財產編第四百八十六條ニ從ヒ原債權者ト共ニ先取特權ヲ行フ

第二款 債權者間ニ於ケル不動產ノ特別先取特權ノ效力及ヒ順位

第百七十七條 前款ニ掲ケタル先取特權ハ下ニ定メタル方法、條件及ヒ期間ヲ以テ公示シ且保存
シタルトキニ非サレハ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百七十八條 賣買代價ノ爲メノ賣主ノ先取特權及ヒ補足額ノ爲メノ交換者ノ先取特權ハ代價又
ハ補足額ノ全部又ハ一分ヲ未ダ辨濟セサル旨ヲ記シタル所有權移轉證書ニ依リ登記ヲ以テ之ヲ
保存ス

又交換ニ於ケル追索擔保ノ爲メ及ヒ賣買、交換其他所有權移轉契約ノ附從負擔ノ爲メノ先取特
權ハ證書ニ依リ登記ヲ以テ之ヲ保存ス但擔保及ヒ負擔ノ評價ヲ證書中ニ記載シタルトキニ限ル
第百七十九條 分割者ノ先取特權ハ分割證書ニ依リ登記ヲ以テ之ヲ保存ス但其證書ニ不分割物競買
代價又ハ補足額即チ配當過分ノ返還及ヒ追索擔保ノ評價其他各配當部分ノ負擔ノ評價ヲ記載シ
タルトキニ限ル

第四百九十六條

第四百九十六條 右讓渡又ハ分割ノ附書ニ依ル登記ナキ間ハ取得者又ハ分割者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ得タル債權者ハ其擔保ヲ登記シタルトキト雖モ其登記ヲ以テ先取特權アル讓渡人又ハ分割者ニ對抗スルコトヲ得ス但工事ヨリ生スル先取特權アル債權ハ此限ニ在ラス然レトモ利害關係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ常ニ右讓渡又ハ分割ノ登記ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百九十一條

第四百九十一條 讓渡又ハ分割ノ附書ニ其對價物ノ全部若シハ一分ノ未ダ辨濟アラサルコト又ハ債權ノ付シ有ルコトヲ記載セサルトキハ日後ノ附書ヲ以テ此脫漏ヲ補フコトヲ得且其補脫ハ債權者ノ注意ヲ以テ讓渡又ハ分割ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得右ノ補脫ヲ讓渡又ハ分割ノ登記ト共ニ公示セサルトキハ債權者ハ何時ニテモ其補脫ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵當ニ變性ス右ノ抵當ハ二箇ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第四百八十二條

第四百八十二條 讓渡人又ハ分割者ハ其先取特權カ法律上ノ抵當ニ變性シタルトキハ此抵當ノ登記前ニ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ保存シタル債權者ヲ害シテ義務不履行ノ爲メノ解除訴權ヲ行フコトヲ得ス

第四百八十三條

第四百八十三條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第四百七十五條ニ定メタル第一第二ノ附書ニ依リ登記スルヲ以テ之ヲ保存ス

第四百八十一條

第四百八十一條 此第一附書ニ依ル登記ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス第二附書ニ依ル登記ハ其調製ヨリ一个月内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス第二附書ニ依ル登記ノ效力ハ第一附書ノ日附ニ適及シ且工事ノ前又ハ後ニ債務者ト契約シタル

各人ニ對シ其増價ニ付テノ優先權ヲ先取特權アル債權者ニ保有セシム

第四百八十四條

第四百八十四條 前條ニ指定シタル期間ニ二箇ノ附書ニ依ル登記ノ一ヲ爲ササリシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵當ニ變性シ其順位ハ左ノ日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ竣成又ハ絶止ノ時ヨリ三个月内ニ第二附書ヲ調製シ且次月内ニ之ヲ登記シタルトキハ第一附書ノ遲延登記ノ日附

第二 右ノ三个月内ニ第二附書ヲ調製セス又ハ三个月内ニ之ヲ調製シタルモ次月内ニ之ヲ登記セサルトキハ其第二附書ニ依ル登記ノ日附

第四百八十五條

第四百八十五條 取得、分割又ハ工事ノ爲メ初ニ金錢ヲ貸付タル者ノ第四百七十六條第一項ニ從ヒテ有スル先取特權ハ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存ス右貸主カ日後代位ニ因リテ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ承繼シタルトキ未ダ先取特權ノ公示アラサルニ於テハ其貸主ハ主タル附書及ヒ代位證書ニ依ル登記ニ因リテ其公示ヲ爲サシム若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記ニ代位ノ附記ヲ請求ス可シ又先取特權アル債權ヲ讓受ケタル者ハ讓渡ノ附記ヲ請求ス可シ此末ノ二箇ノ場合ニ於テ附記ヲ爲サシムルコトヲ遲延シタル代位者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承繼人ト原債權者トノ間ニ爲シタル辨濟其他ノ免責ノ行爲ヲ駁撃スルコトヲ得

第四百八十六條

第四百八十六條 上ニ記載シタル如クニ保存シタル先取特權又ハ抵當アル債權ニシテ利息又ハ年金ノ附キタルモノハ利息又ハ年金ノ滿期ト爲リタル最終ノ二個年分ニ非サレハ元本ト同一ノ順位ニテ配當ニ加入スルコトヲ得ス但滿期ノ利息又ハ年金ノ中ニテ二個年以外ノモノノ爲メ漸次

○第三編民法○第四章債權擔保編

特別ノ抵當登記ヲ爲ス可キ債權者ノ權利ヲ妨ケス

第百八十七條 不動産ニ付キ先取特權アル債權者間ノ相互ノ優先權ハ左ノ順序ニ從フ
第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ他ノ債權ヨリ後ニ生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス

此工事ヨリ生スル増價額カ右ノ各人ニ全ク辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ應ジ同一ノ順位ニテ其配當加入ヲ定ム
第二 讓渡人又ハ分割者
逐次ノ讓渡又ハ分割ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ舊キ者ニ屬ス
金錢ノ貸主ハ或ハ初ヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ貸付タル其金錢ニテ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ト同一ノ順位ヲ有ス

第百八十八條 先取特權ノ登記及ヒ其更新、抹消、減少ニ關スル規則ハ先取特權及ヒ抵當權ニ共通ニシテ之ヲ次章ニ規定ス
第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ效力
第百八十九條 合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ付キ第三所持者ニマテ追及ス
第三所持者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リテ先取特權アル債權者ニ辨濟セサルトキハ其債權者ハ
第百九十條 一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得ノ登記前ニ之ヲ登記シタルトキニ非サレハ其第三所持者ニ移轉シタル不動産ニ付キ追及權ヲ與ヘス
第百九十一條 轉得者ノ取得ノ登記前ニ登記セサル讓渡又ハ分割ニ因リテ先取特權ヲ有スル債權者ハ其先取特權ノ生シタル權原ヲ登記スルコトニ付キ轉得者ヨリ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ其登記ヲ爲サザリントキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一个月ニハ距離ニ應ジテ法律上ノ期間ヲ加フ

然レトモ轉得者ハ其讓渡人カ十年以上不動産ニ付キ法定ノ占有ヲ爲シタルトキハ右ノ催告ヲ爲ス責ナシ且舊所有者ノ總テノ先取特權ヲ免カル
第百九十二條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成又ハ其絶止ノ前ニ讓渡ノ登記アリタルモ第一調書ニ依ル登記ニ因リテ追及權ヲ行フコトヲ得
工事ノ竣成シ又ハ絶止シタルトキ第二調書ノ調製及ヒ之ニ依ル登記ノ二箇ノ期間カ未ダ経過セサルニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了後又ハ第二調書ヲ調製シ且之ニ依リテ登記ス可キ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ之ニ應ヒサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス
第百九十三條 先取特權アル債權者ハ追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行フ爲メニ必要ナル公示ヲ爲ササルモ第三所持者ノ負擔シタル讓渡代價ニ付キ辨濟ヲ受クル權ヲ失ハス但代價ノ辨濟前又ハ順序配當手續ノ閉鎖前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ證シタルトキニ限ル
第百九十四條 先取特權ニ關スル追及權、其條件、效力並ニ第三所持者カ所有權徵收ヲ避クル方法及ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第三節第三節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ反スルモノハ此限ニ在ラズ

第五章 抵當

第一節 抵當ノ性質及ヒ目的

第百九十五條 抵當ハ法律又ハ人意ニ因リテ或ル義務ヲ他ノ義務ニ先クテ辨償スル爲メニ充テタル不動産ノ上ノ物權ナリ

第百九十六條 抵當ハ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラズ

第百九十七條 抵當ハ不動産ノ完全所有權ノ上ノミナラス用益權、賃借權、永借權及ヒ地上權ノ上ニモ此等ノ權利ヲ支分シタル所有權ノ上ニモ之ヲ設定スルコトヲ得
然レトモ完全ノ所有權ヲ有スル者ハ虛有權又ハ用益權ノミヲ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得

○第三編民法○第四卷債權擔保編

之ニ反シテ所有者ハ其不動産ノ境界ニ因リテ定マリタル部分又ハ其不分ノ幾部分ヲ抵當ト爲ス
コトヲ得

地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得又用方ニ因ル不動産ハ其附著スル不動産
ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第九十八條 左ニ掲ケルモノハ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス
第一 使用权、住居權其他讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サル財産

第二 財産編第十條第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル如キ不動産債權

第三 同條第四號ニ掲ケタル如キ不動産ト爲シタル債權但之ヲ不動産ト爲スコトヲ許可スル
其抵當ヲ許ササルトキニ限ル

船舶ノ抵當ニ付テハ商法ノ規定ニ從フ

第九十九條 此章ノ規定ハ商法其他特別法ニ於テ異例ヲ設ケサル限りハ此等ノ法律ヲ以テ設定
シタル抵當ニ之ヲ適用ス

第二百條 抵當ハ意外及ヒ無償ノ原因ニ由リ或ハ債務者ノ所爲及ヒ費用ニ因リテ不動産ニ生スル
コト有ル可キ増加又ハ改良ニ當然及フモノトス但他ノ債權者ニ對シテ詐害ナキコトヲ要シ且前
章ニ規定シタル如キ工匠、技術及ヒ工事請負人ノ先取特權ヲ妨ケス

抵當ハ債務者カ總令無償ニテ取得シタルモノナルモ其隣接地ニ及ハサルモノトス但新圍障ノ設
立又ハ舊圍障ノ廢棄ニ因リテ隣接地ヲ抵當不動産ニ合體シタルトキモ亦同シ

第二百一條 意外若シハ不可抗ノ原因又ハ第三者ノ所爲ニ由テタル抵當財産ノ滅失、減少又ハ毀
損ハ債權者ノ損失タリ但先取特權ニ關シ第三百二十三條ニ記載シタル如ク債權者ノ賠償ヲ受ク可
キ場合ニ於テハ其權利ヲ妨ケス

若シ抵當財産カ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ保持ヲ爲ササルニ因リテ減少又ハ毀損ヲ受ク此カ爲メ

債權者ノ擔保カ不十分ト爲リタルトキハ債務者ハ抵當ノ補充ヲ與フル責ニ任ス

此補充ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ擔保ノ不十分ト爲リタル限度ニ應シ滿期前
ト雖モ債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百二條 抵當財産ノ差押ナキ間ハ債務者ハ財産編第九十九條及ヒ第二百十條ニ定メタル期間
其不動産ヲ貸貸スルコトヲ得又其果實及ヒ產出物ヲ讓渡シ及ヒ管理ノ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ
得

第二節 抵當ノ種類

第二百三條 抵當ハ法律上、合意上又ハ遺言上ノモノナリ

第一款 法律上ノ抵當

第二百四條 左ノ抵當ハ總テノ要約ニ關セス當然成立ス

第一 婦カ其夫ニ對シテ有スルコト有ル可キ總債權ノ爲メ婚姻ノ日現ニ夫ニ屬スルト日後之
ニ屬ス可キトナ間ハ其夫ノ總不動産ニ付キ婦ノ有スル抵當但夫ノ未成年タルトキモ亦同
シ

第二 未成年者及ヒ禁治產者カ其後見人ニ對シテ有スル總債權ノ爲メ現在ニ屬スルト將來ニ
得ルトナ間ハ其後見人ノ總不動産ニ付キ有スル抵當

第三 國、府縣、市町村及ヒ公設所カ行政法ノ定メタル限度ト條件トニ從ヒ會計吏員ノ管理ノ
爲メ其不動産ニ付キ有スル抵當

又第九十一條及ヒ第九十四條ニ從ヒテ變性シタル先取特權ヨリ生スル抵當ハ之ヲ法律上ノ
抵當ト看做ス

第二款 合意上ノ抵當

第二百五條 合意上ノ抵當ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルトキハ委任ノ要旨ヲ抵當ノ設定證書ニ示スコトヲ要ス

○第三編民法○第四卷債權擔保編

第二百六條 本邦ニ存在スル財産ニ付キ外國ニ於テ爲シタル抵當ノ合意ハ此種類ノ行爲ノ爲メ結
國ニ於テ用ユル方式ニ從ヒ之ヲ爲シタルトキハ其效ヲ生ス然レトモ特別法ニ規定シタル條件ニ
從フニ非サレハ此合意ニ依リ本邦ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二百七條 抵當ノ設定證書ニハ義務ノ擔保ニ充テタル不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示
スルコトヲ要ス

若シ抵當ノ設定カ債務者ノ現在ノ各不動産ヲ特ニ指示セシメテ其全部又ハ一分ヲ包含スルトキ
ハ債務者ノ請求ニ因リ債務ノ擔保ニ必要ナル限度ニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得
債務者ノ將來ノ財産ニ付テノ一般又ハ特別ノ抵當ノ設定ハ無効ナリ

第二百八條 抵當ノ設定證書ニハ右ノ外義務ノ原因、體裁及ヒ其主從ノ目的ヲ明カニ指示スルコ
トヲ要ス

義務ノ目的カ金錢ヲサルトキハ之ヲ評價ス可シ然レトモ其評價ハ登記ノ時ニ於テモ猶ホ之ヲ
爲スコトヲ得

第二百九條 抵當ハ抵當ニ充テント欲スル物ノ所有權又ハ收益權ヲ有シ且有償又ハ無償ニテ其物
ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス但第三者ノ抵當設定ニ關スル第
二百一一條ノ規定ヲ妨ケス

若シ有期ノ物權ヲ抵當ト爲シタルトキハ其抵當ハ此權利ノ時期外ニ效力ヲ生スルコトヲ得ス然
レトモ抵當ト爲リタル權利カ此時期ノ滿了前或ル出來事ニ因リ物ノ價額ヲ代表スル償金ニ移リ
タルトキハ債權者此償金ニ付キ其權利ヲ行フ

第二百十條 未成年者、禁治產者及ヒ失踪者ノ財産ハ法律ニ定メタル原因及ヒ方式ニ依ルニ非サレ
ハ其代人ニ於テ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第二百一一條 合意上ノ抵當ハ第九十八條及ヒ第一百十七條ニ於テ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載
シタル如ク債務者ノ債務ヲ擔保スル爲メ第三者ヨリ之ヲ設定スルコトヲ得

右ノ抵當ハ之ヲ設定セシムル爲メ債務者カ何等ノ出捐モ爲ササルトキハ債務者ニ對シテハ恩惠
ナリトス

又抵當ハ債權カ無償ナルトキ又ハ有償ナルモ諾約ナシテ主タル合意以後ニ之ヲ設定シタルト
キハ債權者ニ對シテモ恩惠ナリトス

第三款 遺言上ノ抵當

第二百十二條 抵當ハ遺贈ノ擔保ノ爲メ又ハ第三者ノ債務ノ擔保ノ爲メニ遺言ヲ以テ之ヲ設
定スルコトヲ得

第三節 抵當ノ公示

第一款 登記ノ條件及ヒ期間

第二百十三條 凡ソ法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ハ下ニ定メタル條件ニ從ヒ其不動産所在地
ノ登記所ニ於テ登記ヲ爲シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

數箇ノ登記所ノ管轄ニ跨カル不動産ノ全部ヲ抵當ト爲シタルトキハ其主タル部分ノ所在地ヲ管
轄スル登記所ニ於テ登記ヲ爲シ他ノ登記所ニ於テハ其登記及ヒ日附ノ記載ノミヲ爲ス

第二百十四條 抵當ハ其設定ノ後債務者ノ無資力カ正當ニ宣告セラレ又ハ其財産ノ全部若クハ過
半ノ差押ニ因リ顯然ト爲リタルトキハ有效ニ之ヲ登記スルコトヲ得ス但破産ノ場合ニ於ケル登
記ノ權利ニ付テノ商法ノ制限ヲ妨ケス

抵當財産ノ讓渡アリタルトキ其讓受人ニ對シテ債權者ノ登記スル權利ノ制限ハ第五節ニ於テ之
ヲ規定ス

第二百十五條 債權者カ財産ノ管理權ヲ有セサルトキハ抵當ノ登記ハ法律上又ハ裁判上ノ代人之
ヲ爲ス

抵當ノ登記ハ總理代理人及ヒ法律上又ハ合意上ノ抵當ノ附著シタル行爲ヲ爲ス委任ヲ受ケタル
部理代理人ノ權利及ヒ義務ニ屬ス

又登記ハ債權者ノ委任ヲシテ事務管理者之ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條 婦ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ニ對シ契約其他ノ方法ニテ條件附ナルト否トシ問ハス
債務者ト爲リタル時ヨリ夫又ハ裁判所ノ許可ヲ要セス婦ノ請求ニ因リテ之ヲ登記スルコトヲ得
又其登記ハ婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得但第二百二十六
條ニ記載スル如ク夫ノ有スル抵當減少ノ權利ヲ妨ケス

婦カ登記ヲ爲ササルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ付キ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
婦又ハ夫カ登記ヲ爲ササルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ付キ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
ノ故障又ハ拋棄ナキコトヲ要ス

第二百十七條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法律上ノ抵當ヲ登記スルト同一ノ場合ニ於テ
同一ノ條件ニ從ヒ後見人之ヲ登記スルコトヲ要ス
後見人登記ヲ爲ササルトキハ後見監督人又ハ親族會員其登記ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲ササ
ルトキハ未成年者ニ對シ連帶シテ損害賠償ヲ負擔ス

第二百十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁止產者ノ法律上ノ抵當ニ之ヲ適用ス
處刑言渡ニ因レル禁止產ノ場合ニ於テハ禁止產者ノ特別ノ代理人ニテモ登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百十九條 債權者ノ相續人又ハ讓受人ハ原債權者ノミノ名ヲ以テ或ハ自己ト原債權者トノ連
名ヲ以テ登記ヲ求ムルコトヲ得
債權者ノ代理人又ハ事務管理者ヨリ登記ヲ求ムルトキハ其名及ヒ分限ヲ本人ノ名及ヒ分限ト共
ニ記載ス可シ

第二百二十條 債務者カ死亡シタルトキハ登記ハ債權者ノ選擇ニ因リテ其債務者ニ對シ又ハ其相
續人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
第二百二十三條 登記ニ關シテハ設定者ニ對シテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十一條 法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ノ登記ハ三十個年其効力ヲ有ス三十個年終
ハ債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタルトキト雖モ其登記ノ効力ヲ失フ

右抵當ノ時効ハ無能力者ニ對シテ停止セズ但其代人ニ對スル求償ヲ妨ケス
然レトモ三十個年ノ期間滿了前ニ登記ヲ更新シ舊登記ノ日附ヲ精確ニ記載シタルトキハ抵當ノ
順位ハ舊登記ト同一ノ日附ニテ存ス

登記ノ効力ヲ失ヒシ後ノ更新ハ新登記ニ同シク其更新ノ日附ニ於テノミ効力ヲ生ス
第二百二十二條 三十個年ノ期間ニ於ケル登記ノ更新ハ舊登記後ニ起リタル債務者ノ破産、無登
力又ハ死亡ニ拘ハラヌ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 登記ニ關スル爭ハ抵當財產所在地ノ裁判所ニ之ヲ訴フ可シ
第二款 登記ノ抹消、減少及ヒ正誤

第二百二十四條 登記ノ抹消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
第一 債權カ無効タリ若クハ銷除ス可キモノナルトキ又ハ其全部ノ消滅シタルトキ
第二 抵當カ有効ニ設セラレサルトキ

右ハ第二百三十條ニ記載シタル如ク或ル不動産ニ付テノ登記ヲ抹消スルコトヲ妨ケス
第二百二十五條 登記ノ抹消ハ債務者又ハ其承繼人ノ請求ニ因リテ之ヲ宣告スルコトヲ要ス但玉
ニ規定シタル方式ニ於テ債權者ヨリ抹消ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十六條 婦ノ法律上ノ抵當ニ付キ或ル不動産ニ制限セサル場合ニ於テ其債權ノ擔保ニ必要ナ
ルヨリ多キ不動産ニ付キ登記アリタルトキ又ハ婚姻契約若クハ配偶者間ノ特別合意ニ因リテ婦
ノ債權額ヲ評價セサル場合ニ於テ其債權ノ正當ナル評價ヨリ更ニ多キ金額ノ爲メニ登記アリタ
ルトキハ夫又ハ其承繼人ハ不動産又ハ金額ニ關シ裁判上ニテ此登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十七條 右ニ同シク後見人又ハ其承繼人ハ未成年者又ハ禁止產者ノ擔保ニ必要ナルモノ
ノ外ニ爲シタル登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但親族會議ノ決議ニ因リテ抵當ヲ或ル不動産ニ

制限セズ又ハ債權額ヲ評價セサルトキニ限ル

第二百二十八條 合意上ノ抵當ハ債務者ノ現在ノ總財産ニ關シ過度ナルトキニ非サレハ第二百七

條ニ記載シタル如ク債務者其減少ヲ請求スルコトヲ得ス
債務者ハ債務者ノ登記シタル債權ノ評價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但設定證書又ハ別證書ヲ以

テ評價ヲ爲サ、ルトキニ限ル
第二百二十九條 遺言上ノ抵當ハ和續ノ不動産ニ付キ遺言者其制限ヲ爲サス又ハ債權ヲ評價セズ

シテ之ヲ設定シタルトキハ相續人其減少ヲ請求スルコトヲ得
第二百三十條 債務カ半額以上消滅シタルトキハ債權者ハ債務者ノ要求ニ因リ三種ノ抵當ニ付キ

金額ノミノ登記ヲ減少ス可シ
債務者ハ一分ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ常ニ自費ニテ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ得

第二百三十一條 債務者ノ請求ヲ正當トスル判決ニハ抵當ヲ免カレタル不動産又ハ評價ヲ改メタ

ル金額ヲ指示ス
右第一ノ場合ニ於テハ抵當ノ登記ヲ抹消シ第二ノ場合ニ於テハ之ヲ減少ス

第二百三十二條 前數條ニ從ヒ或ル不動産ニ抵當ノ登記ヲ減少シタル場合ニ於テ其不動産カ債權

者ノ擔保ニ不十分ト爲リタルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト雖モ債權者ハ抵當ノ補充ヲ

請求スルコトヲ得
第二百三十三條 登記ノ抹消又ハ減少ハ確定判決ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又證書ヲ

以テスルニ非サレハ債權者之ヲ承諾スルコトヲ得ス
第二百三十四條 任意ノ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルニハ

債權者其債務ノ辨濟ヲ受ケ又ハ之ヲ追認スル能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス
抹消カ右ノ外第二百二十四條ニ記載シタル原因ノ一ニ基クトキハ債權者和解スルノ能力ヲ有ス

ルコトヲ要ス
又抹消又ハ減少カ抵當ヲ無價ニテ拋棄スル性質ヲ有スルトキハ債權者無價ニテ債權ヲ處分スル

能力ヲ有スルコトヲ要ス
第二百三十五條 登記ノ抹消又ハ減少ヲ承諾スル爲メノ委任ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

然レトモ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ債務者ノ免責ヲ承諾スル權限ヲ有シタル代理

人ニ於テ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルコトヲ得
和解又ハ無價ノ拋棄ニ付テハ委任ハ明示タルコトヲ要ス

第二百三十六條 抹消又ハ減少ヲ爲スニハ其合意又ハ判決ヲ登記ニ附記スルコトヲ要ス
第二百三十七條 抹消若クハ減少後日ノ判決又ハ債務者トノ合意ニテ銷除シタルト

キハ其判決又ハ合意ヲ正ニ登記シ又ハ前登記ニ附記ス此場合ニ於テハ前登記ハ前債權者ノ爲メ

其效力ヲ回復ス然レトモ抹消若クハ減少ノ後ニ於テ不動産ニ付キ權利ヲ取得シ抵當ノ復舊ノ公

示前ニ其權利ヲ登記シタル第三者ニハ此登記ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス
第二百三十八條 登記、正新、抹消又ハ減少ニ訛誤又ハ脱漏アルモ此カ爲メ銷除ヲ爲スニ足ラサル

トキハ當事者ノ協議又ハ判決ヲ以テ正誤ヲ爲ス
第四節 債權者間ノ抵當ノ效力及ヒ順位

第二百三十九條 凡ソ不動産ニ付キ登記シタル抵當債權者ハ無特權債權者ニ先クテ其不動産ノ代

價ノ配當ニ加入スルコトヲ得
法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ヲ有スル數人ノ債權者間ニ於テハ其配當加入ノ順位ハ數箇ノ

登記ヲ同日ニ爲シタルトキト雖モ其登記ノ前後ニ因リテ之ヲ定ム
第二百四十條 登記ハ掲載シタル利息及ヒ定期ノ附從物ニ其經過シタル最後ノ二個年分ニ限リ注

タル債權ト同一ノ順位ヲ得セシム但二個年以外ノ利息及ヒ附從物ノ爲メ債權者ノ日後登記ヲ爲

スノ權利ヲ妨ケス然レトモ此登記ハ其日附後ニ非サレハ效力ヲ生ゼス
第二百四十一條 抵當ノ順位ハ債權カ條件附ナルトキ又ハ信用ヲ關キテ爲ス貸付ノ如ク漸次ノ支

擲ヨリ生スルトキト雖モ亦登記ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十二條

債權者カ數個ノ不動産ニ付キ抵當ヲ有シ其各個ノ代價カ同時ニ清算アリシトキハ其債權ハ總不動産ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ分配ス可シ

漸次ノ清算ノ場合ニ於テ右ノ債權者カ不動産中ノ一箇ノ代價ニ因リテ全ク辨濟ヲ受ケ此一個ノ

不動産ニ付キ其債權者ノ次ニ抵當ヲ有スル一人又ハ數人ノ債權者カ爲メニ辨濟ヲ受クルコトヲ

得サルトキハ其一人又ハ數人ノ債權者ハ他ノ各不動産ニ付テハ其相互ノ順位ヲ以テ右辨濟ヲ受

第二百四十三條

前條ノ代位ハ原債權者ニ次テ右各不動産ニ付キ登記ヲ爲シタル債權者ニ對シテ

其効ヲ生ス

右ノ代位者カ登記ニ其代位ヲ附記シタルトキハ其代位者ヲ順序配當手續中ニ加ハラシムルコト

第二百四十四條

凡ソ債權者カ處分スル能力アル抵當債權者ハ同一債務者ノ他ノ債權者ノ利益ニ於

テ自己ノ抵當又ハ其順位ノミチ拋棄スルコトヲ得但財產編第五百條及ヒ第五百三條ニ於テ更改

ニ關シ規定シタルモノヲ妨ケス

若シ抵當債權者數次ニ數人ニ對シ讓渡、拋棄又ハ代位ノ目的ト爲セントキハ優先權ハ承繼人中

登記ニ自己ノ權利ノ設定權原ヲ附記シ又ハ登記ノ有テカリシトキハ之ヲ爲シテ其取得ヲ第一ニ

公示シタル者ニ屬ス

第二百四十五條

右ノ外第八十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二百四十六條

抵當債權者又ハ無特權債權者ハ他ノ抵當ノ登記ナキヲ知リタルコトヲ自認スト

第二百四十七條

不動産ノ賣却代價ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受ケサル抵當債權者ハ其殘額ニ付テハ無

特權債權者ナリ

若シ不動産ノ賣却ニ先クテ不動産有價物ノ抵當ヲ爲ストキハ抵當債權者ハ其債權全額ノ爲メ無

特權債權者トシテ假ニ其配當ニ加入ス

其後ニ至リ抵當不動産ノ代價ノ配當アルトキハ抵當債權者ハ不動産有價物ニ付キ何等ノ辨濟ヲモ

受ケカリシカ如ク其配當ニ加入ス然レトモ此配當ニ於テ全ク辨濟ヲ受ク可キ者ハ不動産ノ配當ニ

テ受取リタル金額ヲ控除スルニ非サレハ其抵當ノ配當額ヲ受取ルコトヲ得ス其控除シタル金額

ハ不動産財團中ニ之ヲ返還ス

不動産ノ代價ノ配當ニ於テ一分ノミノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ付テハ其殘額ニ從ヒ其動

產財團ニ對スル權利ヲ定ム但此割合外ニ受取リタルモノハ之ヲ不動産財團中ニ返還ス

右ノ返還金額ハ純粹ノ無特權債權者ト有益ニ配當ニ加入スルヲ得サル抵當債權者及ヒ債權者一

分ノミニ付キ之ニ加入シタル抵當債權者トノ間ニ於テ更ニ之ヲ配當ス

第五節 第三所轄者ニ對スル抵當ノ效力

總則

第二百四十八條

抵當不動産カ讓渡サレ又ハ用益權其他ノ物權ヲ負擔シタルトキハ其權原ノ登記

前ニ登記ヲ爲シタル抵當債權者ハ第三取得者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ請求スル權利ヲ保有シ又此不

動產ノ賣却代價ヲ以テ辨濟ヲ受クル爲メ其不動産ノ徵收ヲ訴追スル權利ヲ附隨ニテ保有ス

然レトモ財產編第十九條及ヒ第二百十條ニ規定シタル期間ヲ以テ爲シ又ハ更新シタル貸借

ハ抵當債權者之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百四十九條

所有權ノ支分權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ債務者其權利ヲ拋棄シタルトキハ

其拋棄ノ登記前ニ抵當登記ヲ爲シタル債權者ハ其拋棄ニ拘ハラヌ追及權ヲ保有ス

第二百五十條

公正證書ヲ以テ設定シタル抵當ハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメタル無特權債

權者ニハ競落ノ登記前ニ其抵當登記ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得但第二百十四

條ニ掲ケタル場合ニ於テ爲セル登記ノ無効タルコトヲ妨ケス

○第三編民法○第四章債權擔保編

第二百五十一條

六

第三所持者ノ破産又ハ無資力ハ其取得ノ登記アルマテハ抵當登記ノ妨碍ト爲ラ

五百十

第二百五十二條

第一

抵當債務ヲ辨濟スルコト

第二 滌除スルコト

第三 財産檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコト

第四 不動産ヲ委棄スルコト

第五 所有權徵收ヲ受クルコト

第一款 抵當債務ノ辨濟

第二百五十三條

第三所持者ハ抵當債務ノ滿期ト爲ルニ從ヒ之ヲ辨濟スルニ於テハ所有權徵收又ハ妨碍ヲ受クルコト無シ

第二百五十四條

第三所持者ハ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨濟シタルトキハ財産編第四百八十二條第一號、第四百八十三條第四號及ヒ第五號ニ從ヒ其辨濟ヲ得タル債權者ニ屬スル他ノ抵當、擔保及ヒ利益ニ代位ス

又第三所持者ハ其辨濟ヲ得カリシ債權者ヨリ所有權徵收ノ訴追ヲ受クルコト有ル可キ場合ノ爲メ其所持セル不動産ノ負擔スル抵當ニ付キ辨濟ヲ得タル債權者ニ未定ニテ代位ス

第二款 滌除

第二百五十五條

第三所持者ハ登記シタル總テノ抵當債務ヲ辨濟セサルモ債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒ不動産ノ取得代價、其評價若クハ之ニ超ユル金額ヲ拂渡シ又ハ債權者ノ爲メニ之ヲ供託シテ不動産ノ負擔ヲ免カレシムルコトヲ得但下ニ規定セル如キ提供及ヒ滌除ノ手續ヲ爲シタル後債權者ノ明示又ハ黙示ノ承諾アリタルコトヲ要ス

第二百五十六條

停止條件附ニテ不動産ヲ取得シタル者ハ條件ノ成就ニ因リテ其權利ノ定マラサ

ル間ハ滌除スルコトヲ得ス

解除條件附ニテ取得シタル者ハ條件ノ到來セサルニ因リテ其權利ノ定マル前ト雖モ滌除スルコトヲ得

此場合ニ於テ第三所持者ノ提供カ承諾セラレタルモ其金額ハ抵當債務ヲ全ク辨濟スルニ足ラヌシテ其抵當ヲ抹消シタル後第三所持者ノ取得カ條件ノ到來ニ因リテ解除スルニ於テハ抹消ヲ受ケタル抵當債權者ノ登記ハ第二百三十七條ニ從ヒテ之ヲ回復ス

又右ノ場合ニ於テ提供カ承諾セラレヌシテ下ニ規定セル如ク不動産ヲ競賣ニ付シタルトキハ競落ハ第三所持者ノ爲メ宣告アリタルト其他ノ者ノ爲メ宣告アリタルト其間ハ以後解除條件ヲ免カレシム

第二百五十七條

抵當ヲ滌除スル權利ハ主タル債務者ト爲リ又ハ保證人ト爲リテ自身ニテ抵當債務ノ責ニ任スル第三所持者ニ屬セス

又右ノ權利ハ他人ノ債務ノ爲メ自己ノ財産ヲ抵當ト爲シタル者ニ屬セス

第二百五十八條

抵當債權者ヲ參加セシメタル總テノ競賣ニ付テハ滌除ヲ爲スノ限ニ在ラヌ

公用徵收ニ付テモ亦同シ

右ハ抵當債權者ノ其順位ヲ以テ競落代價又ハ徵收價金ノ配當ニ加入スル權利ヲ妨ケス

第二百五十九條

賃借權、使用權、住居權及ヒ地役權ハ滌除ヲ爲ス限ニ在ラヌ
此等ノ權利ヲ抵當前ニ設定シタルトキハ其附屬ノ儘ニ非サレハ不動産ヲ賣却スルコトヲ得ス
抵當後ニ此等ノ權利ヲ設定シタルトキハ之ヲ斟酌セシメテ不動産ノ賣却ヲ訴追スルコトヲ得
然レトモ此末ノ場合ニ於テ第三所持者ハ第二百四十八條第二項ニ記載シタル制限ニ從ヒ賃借權ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百六十條

第三所持者ハ債權者ヨリ訴追ヲ受テサル間ハ何時コトモ滌除スルコトヲ得又辨濟ヲ爲スカ又ハ不動産ヲ委棄スルカノ催告ヲ受ケタル後一个月内ニ滌除スルコトヲ得但此ニ違フ

○第二編民法○第四章債權擔保編

五百十一

トキハ其權ヲ失フ
然レトモ右ノ失權ハ當然生セズ之ヲ請求スルコトヲ要ス但裁判所ハ第三所持者カ正當ノ障礙アリシコトヲ證シ且債權者カ其遲延ノ爲メニ現實ノ損害ヲ受ケサル可キニ於テハ失權ヲ宣告セサルコトヲ得

又債權者ヨリ第二百六十五條第二號ニ規定シタル一個月ノ期間ニ失權ヲ請求セサルニ於テハ失權ヲ宣告スルコトヲ得ス

第二百六十一條 第三所持者ハ滌除ノ準備トシテ第三者ニ對スル自己ノ權利ヲ固定スル爲メ其取得ヲ登記スルコトヲ要ス

右ノ後第三所持者ハ其不動産ノ負擔セル先取特權又ハ抵當ノ目錄ヲ登記官吏ニ要求ス

第二百六十二條 上ニ記載シタル一個月ノ期間ニ第三所持者ハ登記シタル各債權者ト第百十九條第百七十八條及ヒ第百七十九條ニ從ヒ登記カ抵當ノ登記ニ同シキ效力ヲ有スル債權者トニ左ノ諸件ヲ告知スルコトヲ要ス

第一 取得證書ノ旨趣、其日附及ヒ登記ノ日附、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、職業、住所、讓受ケタル不動産ノ性質、其所在地、讓渡ノ代價及ヒ其負擔ヲ指示スル要領書但交換、贈與若シハ遺贈ニ因リテ權利ヲ取得シタルトキハ其評價ヲ指示ス可シ

第二 各抵當登記ノ日附、其帳簿ノ乘數、其債權者ノ氏名、住所及ヒ主タル債權トシテ登記シタル金額ヲ明示スル登記表

第三 第三所持者ハ右ノ債權者カ法律ニ從ヒ且一個月ノ期間ニ増價競買ヲ求メサルニ於テハ滿期、未滿期又ハ條件附ノ債權ヲ區別セシテ各債權者ノ抵當登記ノ順序ニ從ヒ之ニ不動産ノ代價、其評價若シハ之ニ超ユル金額ノ辨濟又ハ其債權者ノ爲メニ金額ノ供託ヲ爲サントスルノ陳述

第二百六十三條 抵當ヲ登記シタル債權者ノ中ニ先取特權ヲ有スル讓渡人又ハ分割者アルトキハ

前條第三號ニ定メタル陳述ニハ此債權者チシテ右一個月ノ期間ニ其解除訴權チ行ハント欲スル旨ヲ述ヘシムル爲メノ催告ヲ添フルコトヲ要ス但第百八十一條及ヒ第百八十二條ノ明文ニ因リ法律上ノ抵當ニ變性シタル先取特權ヲ有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百六十四條 讓渡證書中ニ抵當ト爲シ及ヒ爲ササル財產アルトキハ取得者ハ抵當財產ノ爲メニ提供ヲ爲スコトヲ得又増價競買ハ此ニ提供ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十五條 凡ソ抵當ヲ登記シタル債權者ニシテ上ニ定メタル提供ヲ受諾セサル者ハ左ノ方式、期間及ヒ條件ヲ以テ抵當財產ノ競買ヲ要求スルコトヲ要ス

第一 其要求ニハ提供金額ノ上少ナクトモ十分一ノ増價ニテ買受クルコトト其増額シタル代價ノ全部及ヒ費用ノ爲メ十分ナル保證人又ハ擔保ヲ供スル旨ノ陳述トヲ添フルコトヲ要ス

若シ此ニ違フトキハ其要求ハ無効ナリ但此場合ニ於テハ總テノ正本ニ要求者又ハ其特別代理人ノ署名アルコトヲ要ス

第二 右ノ要求ハ提供告知ヨリ一个月内ニ第三所持者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ其要求ハ亦無効ナリ

第三 右ノ期間ニ於テ債務者タルト否トハ問ハス前所有者ニ右ニ同シキ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第四 主タル債務者ニ非サル者カ抵當ヲ設定シタルトキモ亦同一ノ期間ニ於テ其債務者ニ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十六條 讓渡人又ハ分割者コシテ其解除訴權ノ行使ヲ留保セシテ前條ニ規定シタル如ク増價競買ヲ要求シタル者ハ其訴權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

若シ讓渡人又ハ分割者カ右ノ訴權ヲ保存セント欲スルトキハ増價競買ノ爲メ許與セラレタル期間ト同一ノ期間ニ第三所持者ニ其旨ヲ告知スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ無効ナリ但主タル債務者ナル前所有者ニ對シテ此ニ同シキ告知ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條

四百十四

定マリタル方式及ヒ期間ヲ以テ増價競買ノ告知ヲ爲シタルトキハ其競買ノ要求者ハ抵當ノ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ナクシテ競買ヲ言消スコトヲ得ス其債權者ハ此増價競買ノ實行ヲ要求スルコトヲ得

第二百六十八條

孰レノ債權者ヨリモ有效ニ競買ヲ求メカリシトキハ不動産ノ滌除ハ債權者間ノ熟議上若クハ裁判上ノ順序配當ニ依ル辨濟ヲ以テ又ハ債權者ノ名ニ於テスル供託ヲ以テ不動産ヲ滌除ス但此供託ニ付テハ豫メ實物提供ヲ爲スコトヲ要セス

第二百六十九條

右ノ如ク滌除ヲ實行シタル後第三所持者ハ左ノ區別ニ從ヒ其讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第一 賣買ノ場合ニ於テハ其賣買代價外ニ提供シ及ヒ辨濟シタルモノノ爲メ

第二 交換其他ノ有價契約ノ場合ニ於テハ讓渡人ニ對スル自己ノ義務外ニ辨濟シタルモノノ爲メ但自己ノ供給シタル對價物ノ返還ヲ受ケサルトキニ限ル

第三 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ遺言者ノ免責ニ付キ辨濟シタルモノノ爲メ

第四 總テノ場合ニ於テ自己ノ負擔シタル滌除手續ノ費用ノ爲メ

第二百七十條

抵當ト爲リタル他ノ不動産ヲ豫メ檢索シテ之ヲ賣却セシメント求ムルコトヲ得但此カ爲メニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 其不動産ノ義務ヲ履行ス可キ場所ノ控訴院ノ管轄内ニ在ルコト

第二 其不動産ヲ檢索シタル債權者ニ屬スルコト

第四 其不動産カ債權者ノ登記ノ順位ト其價額トヲ斟酌シテ之ニ全部ノ辨濟ヲ得セシムルコト不十分ナルコトノ明白ナラサルコト

第二百七十一條

第三所持者ハ第二十条乃至第二十三條ニ從ヒ保證人ノ分限ヲ以テ己レニ屬スル檢索ノ利益ヲ拋棄シタルトキト雖モ抵當財産檢索ノ抗辯ノ利益ヲ失ハス

第二百七十二條

他人ノ債務ノ爲メ自己ノ不動産ヲ抵當ト爲シタル者ハ檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連合債務者ノ中ニテ訴追前ニ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタル者ニ付テモ亦同シ

第四款 委棄

第二百七十三條 第三所持者ハ所有權徵收ノ手續中何時ニテモ訴追ノ目的タル不動産ヲ委棄スルコトヲ得其委棄ニ因リ第三所持者ハ訴追債權者ニ所持ノミチ委付シ不動産ノ所有權ト其法定ノ占有トヲ保存シテ其危險ヲ擔任ス

第二百七十四條 主タル債務者又ハ保證人トシテ自身ニ債務ヲ負擔シタルモノニ非サル第三所持者ノミチ委棄ヲ爲スコトヲ得

連合債務者ノ中ニテ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタル者及ヒ供物保證人ハ訴追中ト雖モ委棄ヲ爲スコトヲ得

第二百七十五條 有效ニ委棄ヲ爲スニハ自身ナルト代人ノ資格ナルトモ同ハス所有權徵收ノ訴追ニ被告トシテ出頭スル能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス

第二百七十六條 委棄ハ委棄者又ハ其部理代理人抵當財産所在地ノ裁判所ノ書記課ニ於テ之ヲ陳述シ其陳述書ニ署名シテ訴追債權者ニ告知スルコトヲ要ス

裁判所ハ訴追債權者又ハ第三所持者其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リテ委棄ニ付テノ管財人ヲ選任ス但所有權徵收ノ訴追ハ此管財人ニ對シテ繼續ス

○第二編民法○第四章債權擔保編

第二百七十七條

第三所持者又ハ其代人ハ競落アルマテハ何時ニテモ委棄ヲ爲シタルト同一ノ方式ヲ以テ其委棄ヲ消スコトヲ得此場合ニ於テハ訴追債權者ニ對スル總債務ト其時マテノ費用トシ一ヶ月内ニ辨濟シ又ハ供託スルコトヲ要ス但他ノ債權者ノ訴追ノ權利ヲ妨ケ又滌除ノ期間カ經過セサルニ於テハ其債權者ニ對スル滌除ノ權利ヲモ妨ケス

五百十六

第五款

第二百七十八條

第三所持者カ辨濟ヲ爲サズ委棄ヲ爲サズ又滌除ヲ提出セサルトキハ抵當債權者ハ民事訴訟法ニ規定シタル方式ト公示トシ以テ不動產ヲ競買ニ付ス

第二百七十九條

讓渡人又ハ分割者カ第二百六十六條ノ明文ニ從ヒ其先取特權又ハ法律上ノ抵當權ヲ開キテ其解除訴權ヲ行ハント欲スル旨ヲ陳述シタルトキハ競買前ニ其訴ヲ爲スコトヲ要ス但第三所持者ノ請求ニ因リテ裁判所カ此事ニ付キ定メタル期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百八十條

總テノ場合ニ於テ解除ノ請求ナシ又ハ其認許ナキトキハ第三所持者ハ競買ノ際競買人ト爲ルコトヲ得

第二百八十一條

第三所持者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シタルトキハ其判決ハ原證書確認ノ證據トシテ其原證書ニ依ル登記ニ之ヲ附記スルノミ

第二百八十二條

前條ノ場合ニ於テハ競落ノ不動產ト第三所持者ニ屬スル他ノ不動產トノ間ニ存在セシ地役權ハ一旦混同シタルモ働方及ヒ受方ニテ再生シ其混同ハ解除セラレ

第二百八十三條

競落ノ執レノ場合ニ於テモ第三所持者カ競落ノ不動產ニ付キ登記シタル抵當ヲ有セシトキハ其順位ニテ配當ニ加入ス

第二百八十四條

各債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒテ競落代價ヲ辨濟シ尙ホ剩餘アルトキハ其剩餘ハ競落人タルト否トシ問ハズ第三所持者ニ屬ス

第二百八十五條

第三所持者カ抵當不動產ノ占有中其所爲ニ因リテ之ヲ毀損シ又ハ之ニ必要若シハ有益ノ出費ヲ爲シタルトキハ第三所持者ト抵當債權者トノ間ニ於テ其計算ヲ爲ス

第二百八十六條

第三所持者ハ委棄スルカ又ハ辨濟スルカノ催告ヲ受ケタル後ニ非サレハ債權者ニ對シテ果實ノ計算ヲ爲スコトヲ要セス

第二百八十七條

如何ナル場合ニ於テモ競落代價ノ辨濟又ハ其供託ノ後ハ登記シタル總抵當ハ之ヲ抹消シ不動產ハ滌除セラレ其元資ノ不足シタル抵當モ亦同シ

第二百八十八條

競落ノ後第三所持者ハ左ノ如ク讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第二百八十九條

第三所持者カ競落人ト爲リタルトキハ第二百六十九條ニ記載シタル如ク賠償ヲ受ク

第二百九十條

外人ノ利益ニ於テ競落ノ宣告アリタルトキハ第三所持者ハ普通法ニ依リテ追奪擔保ニ付テノ權利ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第六節

登記官吏ノ責任

第二百八十九條

登記官吏ノ民事上ノ責任ニ關スル財產編第三百五十五條ハ抵當登記ノ脫漏又ハ錯誤ニ之ヲ適用ス

第二百九十條

五百十八

登記官吏が第三所持者ノ爲メ登記ヲ爲シタル後之ニ交付シタル認證書中一箇又ハ數箇ノ抵當登記ヲ脱漏シ此脱漏ノ爲メ登記債權者カ除除ノ提供又ハ競落ノ手續ニ加ハラサリシトキト雖モ猶ホ不動産ノ抵當ハ除除セラル

第二百九十一條

除除ノ提供ニ對スル増價競買ノ爲メ第二百六十五條ニ定メタル期間ノ満了セサル間ハ脱漏セラレタル債權者ハ其脱漏ヲ第三所持者ニ告知シ之ニ提供ノ通示ヲ求メ増價競買ヲ要求シ又所有權徵收ノ手續ヲ終了セサルトキハ之ニ加ハルコトヲ得然レトモ此カ爲メ其手續ヲ遅延スルコトヲ得ス

如何ナル場合ニ於テモ右ノ債權者ハ協議上又ハ裁判上ニテ發開シタル順序配當手續ノ閉鎖セサル間ハ之ニ加ハルコトヲ得

右ハ前記ノ債權者カ脱漏ニ因リテ損害ヲ受ケタルコトヲ証明スルニ於テハ登記官吏ニ對スル求償權ヲ妨ケス

登記官吏ハ主タル債務者又ハ其保證人ノ免責ノ爲メ右ノ求償ニ因リテ辨濟シタルモノニ付キ之ニ對シテ求償權ヲ有ス

第七節 抵當ノ消滅

第二百九十二條

抵當ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 主タル義務全部ノ確定ノ消滅但更改ノ場合ニ付キ財産編第五百三條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第二 債權者ノ抵當ノ拋棄

第三 時效

第四 除除但債權者提供ヲ受諾シ且第二百六十八條ニ從ヒテ提供金額ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第五 競落但第二百五十八條及ヒ第二百八十七條ニ從ヒテ競落代價ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第六 抵當不動産ノ全部ノ滅失但第二百一一條ニ從ヒテ債權者ノ權利カ其滅失ヨリ生ス可キ賠償ニ移轉スルコトヲ妨ケス

第二百九十三條

義務ノ消滅カ裁判上ニテ認メラレタル原因ニ由リテ取消サレタルトキハ登記ヲ抹消シタリト雖モ抵當ハ其原順位ニ復ス

然レトモ其抵當ハ抹消ノ後新登記ヲ爲ス前又ハ登記ヲ復シタル判決ヲ原登記ニ附記スル前ニ登記ヲ爲シタル債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第二百九十四條

抵當ノ場合ニ從ヒ有償又ハ無償ニテ債權ヲ處分スル能力ヲ有スル債權者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

債權者其抵當順位ノミノ拋棄ヲ爲ストキモ亦同シ

抵當又ハ順位ノ拋棄ハ默示タルコトヲ得

債權者カ讓渡人ト共ニ抵當不動産ノ讓渡ニ參加シタルトキハ追及權ノミニ關シテ其抵當ヲ拋棄シタリト看做ス但法律上特別ニ其參加ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二百九十五條

抵當ノ時效ハ不動産カ債務者ノ資産中ニ存スル場合ニ於テハ債權ノ時效ト同時ニ非サレハ成就セス

右ノ場合ニ於テ債權ニ關シ時效ノ進行ヲ中斷スル行為及ヒ之ヲ停止スル原因ハ抵當ニ關シテ同一ノ效力ヲ生ス

第二百九十六條

抵當不動産ノ所有者タル債務者カ其不動産ヲ讓渡シテ取得者又ハ其承繼人カ之ヲ占有スルトキハ登記シタル抵當ハ抵當上ノ訴訟ヨリ生スル妨礙ナキニ於テハ取得者カ其取得ヲ登記シタル日ヨリ起算シ三十個年ノ時效ニ因リテ消滅ス但債權カ免責時效ニ因リテ其前ニ消滅ス可キ場合ヲ妨ケス

○第二編民法○第四章債權擔保編

第二百九十七條 眞ノ所有者ニ非サル者カ不動産ヲ讓渡シタルトキハ占有者ハ其善意ナルト認
ナルトニ從ヒ所有者ニ對シテ時効ヲ得ル爲メニ必要ナル時間ノ經過ニ因リ抵當債權者ニ對シテ
時効ヲ取不得ス
無權原ニテ不動産ヲ占有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百九十八條 第三所持者ノ爲メノ抵當消滅ノ時効ハ登記ノ更新ニ因リテ中斷セラレス然レト
モ其時効ハ占有者ノ任意ニテ爲シタル抵當ノ追認及ヒ第二百六十條ニ規定シタル如ク其占有者
ニ爲シタル催告ニ因リ其他證據編第九條以下ニ規定シタル如ク總テ抵當權ニ效力ヲ與フル行
爲ニ因リテ中斷セラル
右ノ時効ハ債權ニ附著スル期限又ハ條件ニ因リテ停止セラレス但債權者ハ證據編第二百二十八條
ニ規定シタル如ク其權利ヲ保存スルコトヲ得
此他證據編第二百二十一條乃至第三百三十六條ニ規定シタル停止ノ原因ハ抵當ニ之ヲ適用ス

第一節 增價競賣法

明治廿三年十月法律第九十二號
朕增價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ
命ス

御名 御璽

增價競賣法

- 第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ增價競賣ヲ要求スル債權者ハ第三所
持者及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競
賣ノ申立ヲ爲シ且保證人又ハ擔保ノ認許ヲ求ム可シ
前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス
- 第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲ケル諸件ノ外第三所持
者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ
具備シ且民事訴訟法第六百四十三條第三號乃至第五號ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者、第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ擔保ノ許否ニ付テノ決
定ヲ爲ス可シ
否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求ヲ爲ス權利アル他ノ債
權者カ要求ニ參加スルノ申立ヲ爲シ又ハ期間ニ自ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知リタルヨ
リ三日内ニ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス
- 第四條 左ニ掲ケル者ヲ增價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス
第一 競賣要求者
第二 債務者

○第二編民法○第四章債權擔保編附錄○第一節

- 第三 第三所持者
- 第四 抵當債權者
- 第五 抵當財產ノ前所有者ヲ債務者ニ非サルトキハ其前所有者
- 第六 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保ヲ十分ナリトスルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ公告ス可シ
- 第七 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號乃至第十號ニ掲グル諸件ノ外増價競賣ノ要求ニ因リ競賣ヲ爲ス旨及ヒ最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタル増額ヲ具備スルコトヲ要ス
- 第八 此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條、第六百七十二條第二號及ヒ第四號乃至第八號、第六百七十三條、第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第九 第七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求者ヲ競落人ナリト言渡ス可シ
- 第十 第八條 競落人ナリト言渡サレタル者カ要求者ナルト否トヲ問ハズ競落代價ノ全額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カルコト無シ
- 第十一 第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命ス可シ
- 第十二 前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七百五條ノ規定ヲ適用ス
- 第十三 第十條 増價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ増價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ許サス

○第二節 登記法

明治十九年八月法律第一號
朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

登記法

第一章 總則

- 第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ヲ請ントスル者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フヘシ
- 第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督ス可シ
- 第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ者トシ治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム
- 第四條 登記所ノ位置及ヒ其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム
- 第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受ルモノトス
- 第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス
- 第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記ス可キ概目左ノ如シ
- 第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若シハ坪數、地券面ノ價格
- 第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪、造作ノ有無
- 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、汽機及汽船ノ種類
- 第四 船其他必要ノ所屬品
- 第五 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必要ノ所屬品
- 第六 登記ノ事由
- 第七 金額
- 第八 質入書入ハ其期限及利息
- 第九 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

○第三編民法ノ第四卷債權擔保編附錄○第二節

第九

五百二十四

一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シタルモノヲ書入

ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏直ニ前條ノ概目ヲ審査シテ登記簿ニ登記シ本火ニ之ヲ

示シ又ハ讀開セタル上本人ヲシテ署名捺印セシメ且之ニ署名捺印ス可シ

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判

所ノ命令書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ

前項ノ記入ハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第十條 登記ハ第十五條第二項及第十六條第十七條第十八條ヲ除ク外契約者雙方ノ請求若クハ

裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

第十一條 登記ノ原本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ出頭シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

前項ノ場合ニ於テ其物件質入書入中ニ係ルトキハ買受人讓受人ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出

記入ヲ附フ可シ

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

死亡者失踪者若クハ離縁戶主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬又

親屬ナキトキハ近隣ノ戶主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札違

書及其代金完納ノ證書ヲ示ス可シ

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若ク

ハ違書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求

ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ競賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判

所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶賣買讓與ノ登記ヲ受ケ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請ントスル者ハ登記所ヨ

リ登記簿ノ附ヲ受ケシヘシ

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可

シ

貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ

者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申

出其記入ヲ附フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲スト

キ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方

出頭シ其證書ヲ示ス可シ

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數箇ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ

登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

○第三編民法○第四章債權擔保編附錄○第二節

第二十五條 地所建物船舶買賣ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ買賣代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

買賣代價	登記料
五圓未滿	五錢
五圓以上十圓未滿	十錢
十圓以上二十五圓未滿	二十五錢
二十五圓以上五十圓未滿	五十錢
五十圓以上百圓未滿	一圓
百圓以上二百圓未滿	二圓
二百圓以上三百圓未滿	三圓
三百圓以上四百圓未滿	四圓
四百圓以上五百圓未滿	五圓
五百圓以上七百五十圓未滿	六圓
七百五十圓以上千圓未滿	七圓
千圓以上千五百圓未滿	八圓
千五百圓以上二千圓未滿	九圓
二千圓以上五千圓未滿	十圓
五千圓以上一萬圓未滿	十一圓
一萬圓以上一萬五千圓未滿	十二圓

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶賃入書入ノ登記ニ付テハ其賃入人書入人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下ヌコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第二十九條 第十五條ノ登記ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下ヌコトヲ得ス

第三十條 左ニ掲クル者ハ手數料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若シハ返書ヲ請フ者ハ每一件

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クル者ハ登記料及手數料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路溜池敷、堤敷、非溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ビ之ヲ評價人トナシテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金二十錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶買賣書入質手續同十三年第五十二號布告土地買賣讓渡規則同十四年第三十號布告地券印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所買賣讓與荒地起返開墾鐵下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記所ノ登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ登記ヲ請フ者ハ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ戶長ノ證書ヲ以テ其所有者タルコト及其物件ニ故障ナキコトヲ示ス可シ

第四十一條 本法ハ明治二十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三節 登記法改正追加

明治二十三年九月法律第七十八號

朕登記法中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治十九年法律第一號登記法中左ノ通改正追加ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省特許局ニ於テ登錄シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ

第九條 第一項ノ「命令書」ノ下ニ「又ハ官廳ノ照會書」ヲ八字ヲ加フ

第二項ヲ削除シ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ

第十一條中「出頭シテ」ヲ四字ヲ削除ス

第十四條 地所建物船舶ノ買賣讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應ジ請求者ヨリ之ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得

第十五條 第二項中「親屬」ノ下「又」ノ上ニ「二名以上」ヲ四字ヲ加フ

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第二十一條 第一項

○第三編民法○第四章附屬保續附錄○第三節

地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス
第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス
第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルコトハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ
第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲ケル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下ストコトヲ得ス

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム
第四十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得
右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證明スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金一錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金一錢ヲ納メシム
第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ
土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ
第四節 登記法取扱規則
○明治二十三年十月司法省令第七號
本年法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正追加セラレタルコト付明治十九年省令第五號ヲ廢シ登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム (書式雛形ハ別ニ頒ツ) (雛形略ス)
登記法取扱規則

第一章 地所建物船舶ノ登記
第一節 登記簿
第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分テ別冊ト爲ス可シ
登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出ヲ付ス可シ
市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ分冊スルコトヲ得
第二條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題
登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下準之
及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分テ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス
其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ商法第八百二十六條ノ第一號第二號第三號第四號ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス
其甲區ハ賣買讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記スルノ所トス
其乙區ハ質入書入及ヒ商法第八百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登記スルノ所トス
其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス
船舶登記簿ハ第一號書式ニ準シ地所建物ノ登記簿ハ從前ノ例ニ依ル可シ

○第二編民法○第四卷債權擔保編附錄○第四節

第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ス可シ
第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シテ之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺シ且毎葉ニ契印ス可シ

第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ
前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シタル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二節 登記手續

第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名稱ヲ登記所ニ差出ス可シ但商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ受クルモノハ明治二十三年省令第八號第五條ニ從ヒ陳述書ヲ差出スヘシ

登記簿ノ原本若クハ拔書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ
第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出ス可シ
代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ

第八條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第三號書式ニ準シ書類ノ受取證ヲ下付ス可シ
第九條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ
第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ

出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ本條前項ニ準シ物件及所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シテ仍ホ地所建船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ
同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合條ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲サル川紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ未抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ
數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入若クハ差押等ト爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ登記事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ
數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ其質入又ハ書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

○第三編民法○第四章債權擔保編附錄○第四節

第十六條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入質入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號ニ番號ノ物件ト連帶シテ書入若クハ質入トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其書入若クハ質入ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ抹ス可シ

第十七條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ相續ノ場合同除ク又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等權利ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

質入書入ノ債主債主ト協議ノ上質入書入トナシタル物件ヲ引取リ所有者ト爲リタル場合ニ於テハ乙區取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十八條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

商法第八百五十四條ノ裏書讓渡モ亦乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

第十九條 登記法第十五條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財産ナルトキハ請求者ノ申出ニ依リ世襲財産タル旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第二十條 登記法第四十條ノ場合ニ於テハ甲區登記事由欄内ニ從來保有スル所有權ヲ明確ナラシメシカ爲メ登記出願ニ付何々ノ證明書類ニ依リ登記スル旨ヲ記載シ價格及權利移付者ノ欄ヲ抹ス可シ

第二十一條 從前ノ公證簿ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出シタルトキハ手数料ヲ徵收セシ舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出シタルトキハ第十一條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徵收ス可キモノトス

第二十二條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲シタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件質入書入又ハ差押等ニ係ルトキハ債主又ハ差押等ノ權利者ノ連印ヲ要ス

地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第二十三條 前條ニ依リ毀壞燒失流亡等ノ届出アリタルトキハ表題部中取消欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十三條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中記載シタル地目更正シ其旨ヲ付記ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徵收ス

登記法第四十一條ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ變換ノ通知ヲ受タルトキモ亦表題部ノ物件ニ付テ訂正ヲ爲ス可シ

第二十四條 船舶ノ登記ニ付テハ明治廿三年勅令第二百十九號船舶規則第一條ニ依リ定メタル船舶籍管轄スル登記所ヲ以テ定繫場ノ登記所トス

第二十五條 商法ニ依リ爲スヘキ船舶ノ登記ハ明治二十三年省令第八號第六條第七條及ヒ第十條ニ適用ス

第二十六條 鑑札アル船舶ニ付始メテ登記ヲ請フモノハ其鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限リニ在ラス

商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ請フモノハ船舶籍證書其他商法ノ規定ニ從ヒ必要ナル證明書類ヲ示ス可シ

第二十七條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫場ヲ更改シタルトキハ登記ノ變更ヲ請フ可シ其登記所ハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ書入質入又ハ差押等トナリタルモノナルトキハ其旨

シモ付記ス可シ轉山セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉山ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ未抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ抜書ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ

前項ノ抜書ニハ現存セル所有權、書入質、差押其他ノ負擔ヲ摘載シ且轉出ノ旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其抜書ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知ヲ原登記所ニ送致ス可シ原登記所ハ其通知ニ依リ前項ノ例ニ準シ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

第二十八條 建物コ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ

建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數、(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ未引墨字ト爲ス可シ

第二十九條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ帳簿ニ編入ス可シ

第三十條 登記ノ爲メ差山シタル原簿ニハ登記簿ノ上登記官吏之ニ登記物件ノ番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ年月日ヲ附シ且登記所ノ印ヲ捺シテ受取證持參人ニ其受取證ト引換ニテ還付ス可シ

前項ノ記載ヲ以テ登記法第二十條ニ定メタル登記簿ノ證トス但此記載ヲ爲スヘキ證書ナキトキハ物件ヲ記シタル書面ヲ差出サシメ前項ニ準シ登記簿ノ旨ヲ記入シテ本人ニ下付スヘシ

第三十一條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲ス可キ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ續ク設クルトキ亦此例ニ準ス

第三十二條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字畫ハ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ數量ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用フ可シ

第三十三條 帳簿及ヒ謄本拔書
登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ
文字ハ之ヲ改竄ス可カラズ若シ削除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
町正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ登記官吏之ニ認印ス可シ
本條ノ規定ハ受付帳ニモ亦之ヲ適用ス

- 一 登記見出帳
- 二 謄書謄本綴込帳
- 三 謄本下付帳
- 四 登記簿證下付帳
- 五 圖面綴込帳
- 六 請求書綴込帳 裁判所又ハ行政廳ノ登記請求書ヲ綴込ミタルモノ
- 七 登記願書綴込帳 登記法第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ
- 八 證明書綴込帳 登記法第四十條ノ證明書類ヲ綴込タルモノ

○第二編民法○第四章債權擔保附錄○第四節

九 名刺綴込帳

五百三十八

十 代理及ヒ後見ノ證書綴込帳

商法ニ依リ船舶登記ヲ受クル爲メ差出タル書類ハ明治二十三年省令第八號第八條ニ從ヒ之ヲ保存ス可シ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ十五噸以上及ヒ百五十石以上ハ其船名ニ依リ其以下ノモノハ鑑札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノニ付テハ其分筆ノ爲メニ付シタル符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可シ

同番地ニアル建物コシテ棟ヲ異コシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ

番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ建物ニ係ル賣買

前二項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ヲ請フ爲メ登記法第十四條第二十一條第一項及ヒ第二十三條ニ依リ差出シタル

證書ノ謄本ハ甲部乙部ニ別テ綴込ニ各個ニ番號ヲ付シ且登記簿ノ市町村名冊號及ヒ丁數ヲ記ス

可シ其登記簿コハ相當欄内ニ何部謄本綴込帳第何號ト記入スヘシ

甲部謄本綴込帳ハ登記簿中甲區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

乙部謄本綴込帳ハ登記簿中乙區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

謄本綴込帳ハ一箇年ヲ以テ一冊ト爲シ其表紙ニ明治何年分ト記ス可シ但事件夥多ナル登記所ニ在リテハ第一第二ノ符號ヲ以テ一箇年分ヲ分冊シテ綴込ムコトヲ得

第三十六條 登記簿ノ既ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記

簿ノ旨ヲ米記シ登記簿下付帳ト割印シテ之ヲ下付スヘシ

第三十七條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴コシ非常持退ノ準備ヲ爲シ他ヲ紛亂

毀損ヲ豫防ス可シ

登記ニ關スル帳簿ハ之ヲ保存スル爲メノ外登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十八條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルノ外吏員ノ面前ニ於テ

之ヲ閱覽セシム可シ

第三十九條 登記簿ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ

之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下付スルコトヲ得ス

第四十條 謄本ハ登記簿用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ

拔書ハ請求アル部分ニ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第四十一條 登記所ニ出頭セシメシテ謄本又ハ拔書ヲ請フ者アルトキハ手数料ノ外郵送料ヲ前納ス

ルニ於テハ之ヲ送付ス可シ

第四節 登記料手数料及ヒ評價費用

第四十二條 登記印紙ハ名刺又ハ陳述書ニ之ヲ貼用ス可シ但登記官吏ハ貼用印紙ノ過不足ヲ調査シタル後之ヲ消印セシムルコトヲ得

第四十三條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記料ヲ納ムル者ヨリ登記所ノ見積タル費用金額ヲ豫納ス可シ

第四十四條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可シ若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ撰定ス可シ

第四十五條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之

○第二編民法○第四卷債權擔保編附錄○第四節

五百三十九

ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可シ不足スルトキハ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラズ

第二章 特許、意匠及ヒ商標ノ登記

第四十六條 特許、意匠及ヒ商標ノ登記ハ農商務省特許局ノ通知ニ依リ第四號書式ニ準シ之ヲ爲スモノトス

第四十七條 明治二十三年十一月一日以後ニ特許、意匠及ヒ商標ノ登録ヲ受ケ又ハ賣與、讓與、共有、書入ヲ爲シタル者其居住地ヲ轉スルトキハ從前ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ自身ニテ又ハ郵便ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ謄本ヲ作り之ヲ轉住地ノ登記所ニ送付シ登記簿ニ其送付ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲シ且轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ附記ス可シ

第四十八條 第三條第四條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十條ハ本章ノ登記ニモ之ヲ適用ス

附則

第四十九條 既ニ登記簿ニ登記シアル船舶ニ付商法第八百二十五條及ヒ商法施行條例第二十九條ニ依リ登記ヲ請フモノアルトキハ登記官吏ハ其登記簿ノ物件欄内ノ餘白ニ商法第八百二十六條

ニ規定シタル事項ヲ追記シ年月日ヲ付シ署名捺印ス可シ

(參照) 明治十九年(十二月三日) 司法省令甲第五號ハ登記請求手續ナリ

第五節 登記印紙規則

○明治二十一年十月勅令第六十六號

除登記印紙規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

登記印紙規則

第一條 明治十九年(八月)法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ納付ス

第二條 登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ請求人記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第三條 登記印紙ノ種類定價及其賣下ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 登記印紙ハ官廳ノ許可シタル賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌クコトヲ得ス若其賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌キタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知

テ登記印紙ヲ買取シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 前條ノ規則ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不倫罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 本規則ハ明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

第六節 抗告手續

明治十九年十一月司法省令第三號

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム

抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出ス可シ

第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致スヘシ

第三條 登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルトキ又ハ

○第三編民法○第四章債權擔保編附錄○第五節○第六節

急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直ニ管轄始審裁判所ノ抗告狀ヲ差出スコトヲ得
始審裁判所ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求
ムルコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲スコシ
始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辨セシムルコト
ヲ得

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告
者ニ送附セシム可シ

始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ其公證人ハ其判定ニ依リ處
分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル
管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコシ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ点ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト
認ムルトキハ第二條ノ期日内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添へ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致スコシ

第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告コ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲スコシ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ

控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處
分ヲ更正ス可シ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○第四章 證據編

明治三十三年三月法律第二十八號ノ内
民法證據編目錄

第一部 證據

總則

第一章 判事ノ考察

第一節 當事者申述ノ聽取、係争物並ニ證書外ノ書類ノ調査及ヒ法律

全
全
五百四十五丁
全
全
五百四十六丁

ノ解釋

第二節 臨檢

全

第三節 鑑定

全

第二章 直接證據

第一節 私書

全

第一款 私署證書

全

第二款 署名、捺印セサル證書

全

第二節 口頭自白

五百五十一丁

第一款 裁判上ノ自白

全

第二款 裁判外ノ自白

全

第三節 公正證書

全

第四節 反對證書

全

第五節 追認證書

五百五十二丁

第六節 證書ノ原本

全

第七節 證人ノ陳述

五百五十三丁

○第三編民法○第五卷證據編目錄

五百五十四丁

全

五百五十六丁

全

五百四十三

第八節 世評	五百四十四
第三章 間接證據	五百五十八
第一節 法律上ノ推定	全
第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定	全
第二款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定	五百五十九
第三款 輕易ナル法律上ノ推定	五百六十
第二節 事實ノ推定	五百六十一
第二部 時効	全
第一章 時効ノ性質及ヒ適用	全
第二章 時効ノ拋棄	全
第三章 時効ノ中斷	五百六十三
第四章 時効ノ停止	全
第五章 不動産ノ取得時効	五百六十六
第六章 動産ノ取得時効	五百六十八
第七章 免責時効	五百六十九
第八章 特別ノ時効	五百七十
附則	五百七十一
	五百七十二
	五百七十三

第一部 證據

總則

第一條 有前又ハ無前ノ事實ヨリ利益ヲ得ンカ爲メ裁判上ニテ之ヲ主張スル者ハ其事實ヲ證スル責アリ	
相手方ハ亦自己ニ對シテ證セラレタル事實ノ反對ヲ證シ或ハ其事實ノ效力ヲ減却セシムル事實トシテ主張スルモノヲ證スル責アリ	
第二條 自己ノ主張ノ全部又ハ一分ヲ法律ニ從ヒテ證セズ又ハ其事實カ證據ヲ查定スル權ノ自由ナル場合ニ於テ判事ニ此主張ノ必證ヲ起サシメサリシ原告若クハ被告ハ其證セサリシ點ニ付キ請求又ハ抗辯ニ於テ敗訴ス	
第三條 當事者ノ一方ハ或ル事實ノ證據カ將來己レノ爲メニ利益アルトキハ其利益ト證據喪失ノ危險トシテ疏明シテ訴訟ノ起ラサル前ト雖モ其事實ノ證據ヲ舉クルコトヲ裁判上ニテ請求スルコトヲ得	
第四條 下ニ定メタル規則ハ物權、人權及ヒ人ノ身分ニ關スル證據ニ共通ノモノトス但特別ノ規定ヲ妨ケズ	
第五條 證據ハ左ノ諸件ヨリ成ル	
第一 判事ノ考覈	
第二 直接證據	
第三 間接證據	
第一章 判事ノ考覈	
第六條 判事ハ左ノ諸件ニ依リ主張セラレタル事實ノ確實ヲ得ヌルトキハ自己ノ考覈ニ依リテ論	

○第三編民法○第五章證據編

判決スルコトヲ得

第一 當事者又ハ其代人ノ申述ノ聽取、係争物並ニ證據外ノ書類ノ調査及ヒ法律ノ解釋
第二 臨檢
第三 鑑定

第七條 當事者ノ自白アル場合ノ外當事者又ハ其代人ノ申述及ヒ說明ヨリ請求若クハ抗辯ノ證セ
ラレサルコト又ハ尙ホ早キコトノ顯ハル、コト於テハ判事ハ其請求若クハ抗辯ヲ棄却シ又ハ他日
本案ノ判決ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡ス

第八條 受ケタル損害若クハ失ヒタル利益其他原因ニ争ナク供給ス可キ價額ニ付キ爲ス可キ評價
ノミニ争ノ存スル場合ニ於テ判事ハ當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ此評價ニ必要ナル元素ヲ得
タルトキハ自ラ其評價ヲ爲スコトヲ得

第九條 事實ニ争ナク法律ノ點ノミニ争ノ存スルトキハ判事ハ當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ法
律ノ規定ヲ其精神ト明致トニ依リテ解釋シ且條理ト公道トノ普通原則ニ依リテ之ヲ補充シ自己
ノ恊證ヲ取ル

第二節 臨檢

第十條 境界、地役、占有、財産ノ損害及ヒ不動産工事ノ執行ニ關スル争其他此ニ類似ノ争ニ付テ
ハ勿論裁判所ニ移送スルコトヲ得サル動産ノ形狀ヲ證スルニ關スルトキト雖モ判事ハ主張セラ
レタル事實ヲ直接ニ知ルコトヲ以テ訴訟事件ヲ明カナラシムルニ有益ナリト思考スルトキハ或
ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ係争物又ハ争ヲ決定ス可キ元素ノ存在スル場所ニ臨檢
スルコトヲ得

第三節 鑑定

第十一條 法律ニ於テ鑑定ニ依ル可キ旨ヲ定メタル場合ノ外判事ハ争ノ判決ニ付キ特別ノ知識ヲ
要スルトキハ何時ニテモ或ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ自己ノ考察ヲ助ケシムル爲
メ鑑定人ノ報告ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得
判事ハ鑑定人總員一致ノ説ト雖モ之ニ從フ義務ナシ

第二章 直接證據

第十二條 左ノ諸件ニ於テハ人ノ證言ヨリ生スル直接ノ證據アリトス

- 第一 私書
- 第二 口頭自白
- 第三 公正證書
- 第四 證人ノ陳述

第一節 私書

第十三條 私書ノ證據力ハ其私書ノ對抗ヲ受クル當事者ノ之ニ署名シ又ハ捺印シタルト否トニ從
ヒテ輕重アリ

第一款 私署證書

第十四條 私署證書ハ之ヲ以テ對抗セラルル者ニ不利ナル事實ノ陳述又ハ追認ヲ記載シ且其署名
及ヒ印章又ハ其一アルトキハ署名者、捺印者ノ裁判外ノ自白即チ證言ヲ成スモノトス
右同一ノ條件ヲ有スル書狀ハ私署證書ト同一ノ證據力ヲ有ス

第十五條 自己ノ利益ニ於テ私署證書ヲ有スル者カ或ル者ヲ其署名者ナリト主張シ又ハ思考スル
場合ニ於テハ争ノ生スル前ト雖モ 其者ニ對シ手跡、署名及ヒ印章ノ追認ヲ請求スルコトヲ得
署名者ナリト主張セラレタル者ハ其手跡、署名及ヒ印章ノ真正ナルコト又ハ其一ノ真正ナルコ
トヲ明確ニ追認シ又ハ否認スルコトヲ得ルノミ
裁判所ヨリ本條ノ規定ノ日驗ヲ受ケタル者否認ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其否認セサルモノニ

○第二編民法○第五卷證據編

付テハ之ヲ追認シタリト認定スルコトヲ得

第十六條 印章ニ關シテハ其印章ヲ提示セラレタル者ハ其印章ノ自己ノ印章ニ相違ナキコトヲ追認スルモ抑捺ハ自身又ハ自己ノ許諾ニテ之ヲ爲シタルヲ否認スルコトヲ得但總テノ方法ヲ以テ其證據ヲ供スルコトヲ要ス

此追認證書ヲ與フル前ニ右ノ異議ヲ留メカリシトキハ其後ニ至リ右ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ス又其署名又ハ印章ヲ追認シタルトキハ其署名又ハ印章ノ獲ラレシ手段タル強暴、錯誤又ハ詐欺等ノ最早主張スルコトヲ得ス但強暴カ既ニ止ミ又ハ錯誤若クハ詐欺ヲ既ニ發見シ且此事ニ付キ何等ノ異議ヲ留メタルトキハ追認ヲ爲シタルトキニ限ル

第十七條 署名者ナリト主張セラレタル者ノ和續人、承繼人又ハ代人ニ對シテ追認ノ請求アリシルトキハ被告ハ或ハ自己ノ代表スル者ノ署名若クハ印章ヲ知ラサル旨或ハ其使用ノ不確實ナル旨ヲ陳述スルニ止マルコトヲ得

右ノ和續人、承繼人又ハ代人ハ印章ノ不正當ナル抑捺又ハ承諾ノ瑕疵ヨリ生スル無効ノ方法ヲ申立ツル權利ヲ失ハス但此事ニ關シ異議ヲ留ムルコトヲ忘リタルトキト雖モ亦同シ

第十八條 被告ハ異議ヲ留メシテ署名又ハ印章ヲ追認シタリト雖モ後ニ捺印白紙ノ濫用又ハ署名若クハ印章ノ偽造アリタルコトヲ知リ其證書ニ依リ善意ニテ約定シタル第三者ニ證書無効ノ方法トシテ捺印白紙ノ濫用ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ右ノ追認アリタルコトヲ知リ其證書ニ依リ善意ニテ約定シタル第三者ニ證書無効ノ方法トシテ捺印白紙ノ濫用ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 一人又ハ數人ノ證人ハ私署證書ニ加署シ又ハ加印シタルトキハ其證人ヲ手跡驗具ニ召喚ス

第二十條 手跡、印章又ハ署名ノ驗具ノ請求ニ關スル方式並ニ期間及ヒ被告又ハ其代人ノ出席セザルニ因リ此等ノ者ニ於テ印章又ハ署名ヲ追認シタリト爲スコトヲ得ヘキ場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ定ム

署名者ナリト主張セラレタル者ノ明確ニ否認シ又ハ其相續人若クハ承繼人ノ追認ヲ爲ササル場合ニ於ケル手跡驗具手續ノ規則ニ付テモ亦同シ

第二十一條 雙務契約ヲ證スル私署證書ハ反對ノ利益ヲ有スル當事者間ニ正本二通ヲ作り且之ニ署名又ハ捺印スルコトヲ要ス

又各正本ニハ二通ヲ作りタル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

然レトモ當事者ハ一通ノ證書ヲ作ルコトヲ得但其證書中指定シタル第三者ニ之ヲ寄託スルコトヲ合意シタルトキニ限ル

右ノ場合ニ於テ第三者ハ各當事者ノ求ニ應シテ其證書ヲ示サ、ル可カラズ但當事者雙方ノ承諾ナクシテ之ヲ交付スルコトヲ得ス

第二十二條 證書ノ調製及ヒ其數ノ附記又ハ證書ノ寄託ハ當事者カ合意ノ組成ヲ繋ラシメタル條件ト看做ス

然レトモ前條ニ從ヒテ證書ノ調製アラサリシ契約ノ全部又ハ一分ヲ履行シタル當事者ハ最早條件ノ不履行ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十三條 片務契約ヲ證スル私署證書ニ金錢其他ノ定量物ヲ供與シ辨濟シ又ハ返還スル證約ヲ包有スル場合ニ於テ債務者カ證書ノ本文ヲ自書セサルトキハ債務者ハ其署名若クハ捺印ノ外尙

金錢若クハ數量ノ文字ニ捺印スルコトヲ要ス但數人ノ債務者アルトキハ其中ノ一人此捺印ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第二十四條 二通ノ正本及ヒ前條ノ方式ハ商事ニ付テハ之ヲ要セズ

第二十五條 前數條ノ方式ニ從ヒ調製シタル私署證書ニシテ其對抗ヲ受クル者カ追認シ又ハ裁判上ニテ其者カ追認シタリト爲シタルモノハ其主又及ヒ之ト直接ノ關係ヲ有シ且之ヲ補完スル文言ニ付テハ其者ニ對シテ完全ナル證據トス

此他ノ文言ハ書面ニ因ル證據端緒ノミニ之ヲ用ニルコトヲ得

第三十八條ニ記載シタル自白不可分ナル原則ハ證據ノ各部分ニ之ヲ適用ス

第二十六條 證書第十八條ニ規定シタル如ク捺印白紙ノ濫用又ハ偽造ノ攻撃ヲ受ケタルトキハ其證據力ハ刑事裁判所ニ被告ノ送致アルニ因リテ停止セラレ其裁判所ノ判決ノ確定ト爲ルマテ民事ノ判決ヲ中止ス

嫌疑アル人ノ死亡其他ノ原因ニ由リテ刑事審問ノ開カレサリシトキハ民事裁判所ハ刑事不受理ノ理由ニ付キ裁判アルマテ本案ノ判決ヲ中止ス
又刑事審問中ナルトキハ民事裁判所ハ當事者ノ要求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其判決ヲ中止スルコトヲ得

第二款 署名、捺印セサル證書

第二十七條 商人ノ帳簿ハ總テノ人ノ爲メ其商人ニ對シテ證據ヲ爲ス然レトモ其帳簿ヲ援用スル者ハ此ヨリ生スル自白ヲ分ツコトヲ得ス
此他右帳簿ノ證據力ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二十八條 非商人ノ帳簿及ヒ覺書ハ其者ノ爲メ證據ヲ爲サス
右ノ帳簿及ヒ覺書ハ其者ニ對シテ區別ニ從ヒテ證據ヲ爲ス

第二十九條 債權者ノ書面ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ爲メ其債權者ニ對シテ證據ヲ爲ス
第一 債務者ノ辨濟其他ノ免責ヲ明カニ掲クルトキ但債權者ニ於テ債務者ニ交付スル爲メ準備セル受取證書タルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第二 債務者ノ證書又ハ從來ノ受取證書ニ免責ヲ書込ニ目其書類カ債務者ノ手ニ存スルトキ

第三十條 債務者ノ書面ニ其義務ヲ掲ケ且之ヲ以テ債權者ノ證書ノ用ニ供スルモノタルコトヲ記載スルトキハ其書面ハ債務者ニ對シテ證據ヲ爲ス

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テ抹殺シタル書面ハ之ヲ斟酌セス但其抹殺カ能害又ハ錯誤ニ出テタルコトノ證アルトキハ此限ニ在ラス

第三十二條 非商人ハ裁判上ニテ帳簿及ヒ覺書ヲ差出ダス義務ナシ然レトモ任意ニテ之ヲ差出ダシタルトキハ爭ニ關スルモノヲ抄録シタル後ニ非サレハ之ヲ取戻スコトヲ得ス但抄録ヲ爲スニハ其者ノ出席ノ上又ハ之ヲ合式ニ召喚シタルトキニ限ル

第二節 口頭自白

第三十三條 口頭自白ハ一方ノ當事者カ己レニ不利ナル權利上ノ結果ヲ生スルコト有ル可キ事實ニ付キ爲スモノナリ其自白ハ裁判上ノモノ有リ裁判外ノモノ有リ

第一款 裁判上ノ自白

第三十四條 裁判上ノ自白ハ自發ノモノ有リ又ハ民事訴訟法ニ規定シタル本人訊問ニ因リテ爲スモノ有リ

第三十五條 自白ハ其自白ニ關ル權利ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ爲スコトヲ得ス但法律上自白ノ證據ヲ禁シタル事實ニ非サルトキニ限ル

代理人ノ爲シタル自白ハ其管理行為ニ關スル外特別ノ委任ニ依リタルトキニ非サレハ有效ナラズ但裁判上ノ代人ノ自白ト其陳述取消ノ方式及ヒ條件トニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ妨ケス

第三十六條 前條ニ從ヒテ爲シタル自白ヲ相手方ノ受諾シ又ハ之ヲ裁判所ニ於テ認メタルトキハ其自白ハ之ヲ爲シタル者ニ對シテ完全ノ證據ヲ爲ス

然レトモ其自白ハ事實ノ錯誤ノ爲メニ之ヲ言消スコトヲ得
第三十七條 自白ハ法律ノ錯誤ノ爲メニ之ヲ言消スコトヲ得ス
然レトモ相手方ノ權利ヲ直接又ハ間接ニ追認シタル者ハ其權利ノ原因及ヒ存續ヲ爭フ權能ヲ失ハス

第三十八條 複雜ナル自白ヲ援用セント欲スル者ハ陳述セラレタル數箇ノ事實ニ關シ其自白ヲ分ツコトヲ得ス但此等ノ事實カ相牽連シタルトキニ限ル

然レトモ主タル事實ヲ變更スル事實ノ主張ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三十九條

裁判上ノ自白ノ效力ハ裁判所ノ管轄違カ公ノ秩序ニ關セサルモノタルトキハ其管轄

五百五十二

違ニ因リテ無効ト爲ラス

反對ノ場合ニ於テハ自白ハ裁判外ノモノトシテノミ有效ナリ

第四十條 一方ノ當事者カ訴訟事件ノ或ル事實ノ存在ニ付キ陳述ス可キノ求テ受ケテ其事實ヲ爭

ハサルニ因リテ追認シタリト看做ス場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十一條 一方ノ當事者カ癡疾其他ノ原因ニ由リテ語ルコトヲ得スト雖モ書面又ハ容態ヲ以テ

裁判所ニ答フルコトヲ得ルニ於テハ裁判上ノ自白ノ規則ヲ之ニ適用ス

第二款 裁判外ノ自白

第四十二條 裁判外ノ自白ハ相手方又ハ其代人ノ面前ニ於テ口頭ニテ又ハ此等ノ者ニ送付シタル

信書若シハ書類ニテ之ヲ爲シタルニ非サレハ其效力有セズ

此末ノ場合ノ外口頭ノ自白ヲ受ケ及ヒ證スル資格ヲ有スル官廳ニ於テ更ニ其自白ヲ爲ササリシ

トキハ人證ヲ許ス場合ニ非サレハ證人ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ズ

第四十三條 裁判上ノ自白ノ有效ナル爲メ要スル能力、其證據力、其言消及ヒ其不可分ニ關スル前

數條ノ規定ハ裁判外ノ自白ニ之ヲ適用ス

然レトモ判事ハ確實ニシテ明白ナル自白ニ非サレハ之ヲ採用スルコトヲ得ズ

第四十四條 上ノ規定ハ義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ法律上ニテ賦示ノ自白ト看做ス可キ場合ヲ

妨ケズ

第四十五條 裁判外ノ自白ハ有效ニ之ヲ言消シタリト雖モ相手方ノ利益ニ於テ時効ノ中斷ヲ生ス

然レトモ自白ノ日以後ニ經過ス可キ時効ハ言消ノ日ヨリ再ヒ行進ス

第三節 公正證書

第四十六條 公正證書ハ公吏カ當事者ヨリ證スルコトヲ託セラレタル事實ニ付テノ證言ナリ

又官廳ノ代人トシテ事ヲ行フ官吏ノ調製シタル證書ハ公正ナリ

證書ハ公吏カ場所、證書ノ性質及ヒ其證據ニ關係スル人ニ付キ管轄ヲ有シ且法律ニ定メラル方

式ニ從ヒテ之ヲ作リタルニ非サレハ公正ナラス

公證人其他當事者ノ囑託ニ應ス可キ公吏ノ管轄及ヒ其證據ノ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 前條ニ從ヒテ作リタル證書ハ偽造ノ中立アルマテハ公吏自身ニテ又ハ其面前ニテ爲

シタル行爲及ヒ申述ニ付キ其更員ノ陳述ノ證據ヲ爲ス

此證書ハ之ニ記載シタル日附ニ付キ右同一ノ證據ヲ爲ス

公吏ノ名ニテ作り且其署名及ヒ印章ヲ具ヘタル證書ハ偽造ノ中立アルマテハ其更員ヨリ出テタ

ルモノト推定ス

偽造申立手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 公正證書ノ證據力ハ偽造ノ申立ニ因リテ之ヲ停止ス其執行力ニ付テモ亦同シ

主文ト直接又ハ間接ノ關係アル文言ニ關シテハ第二十五條ノ規定ヲ適用ス

第四十九條 證書ニ公正證書トシテ有效ナル爲メ上ニ定メタル條件ノ一ヲ缺クコト有ルモ出捐ヲ

爲ス總テノ當事者カ現實ニ之ニ署名シ又ハ捺印シタルトキハ其證書ハ第二十一條及ヒ第二十三

條ニ定メタル條件ヲ履行セスト雖モ私署證書トシテ有效ナリ

第四節 反對證書

第五十條 當事者ハ秘密ニ存シ置ク可キ反對證書ヲ以テ公正證書又ハ私署證書ノ效力ノ全部又ハ

一分ヲ變更シ又ハ滅却スルコトヲ得然レトモ其反對證書ハ公正證書タルトキト雖モ署名者及ヒ

其相續人ニ對スルニ非サレハ效力ヲ有セズ

然レトモ當事者ノ債權者及ヒ特定承繼人カ當事者ト約定スルニ當リ反對證書アルヲ知リタルコ

トヲ證スルニ於テハ之ヲ以テ其債權者及ヒ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

第五十一條 不動產權利ニ關スル反對證書カ或ハ登記ニ因リ或ハ其附記ニ因リテ公ニ爲サレタル

トキハ其反對證書ハ通常證書ノ効力ヲ取得ス但總テ遡及ノ効力ヲ有セズ

第五十二條 孰レノ場合ニ於テモ一方ノ當事者ノ總テノ承繼人ハ他ノ當事者及ヒ其相續人ニ反對
證書ヲ以テ對抗スレヲ得

第五節 追認證書

第五十三條 追認證書ハ當事者ノ一方カ己レニ不利ナル公正又ハ私署ノ原證書ノ成立ヲ追認スル
證書ナリ

右ノ證書ハ下ノ二箇ノ場合ヲ除キ原告ヲシテ原證書ヲ差出タス義務ヲ免カレシメス又其證書中
ニ原證書ヨリ更ニ多ク又ハ更ニ少キ事項ヲ記シ又ハ之ト異ナリタル事項ヲ記スルモノハ其效ナ
シ但追認證書中ニ之ヲ原證書ニ代用ス可キ旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 左ノ二箇ノ場合ニ於テハ追認證書ハ原證書滅失ノ證アルトキ之ニ代ハルモノトス

第一 追認證書ニ原證書ノ事項ヲ再掲シタル旨ヲ記載スルトキ

第二 追認證書ノ日附ヨリ二十個年ヲ經過シ且之ヲ援用スル者カ其證書ノミチ既ニ權利ノ行
使ニ用ザルトキ

第五十五條 前條ノ場合ノ外原告カ原證書ヲ差出タスコトヲ得ザルトキハ追認證書ハ其利益ニ於
テハ書面ニ因ル證據端緒トシテ有效ナリ
總テノ場合ニ於テ追認證書ハ時效ヲ中斷ス

第六節 證書ノ廢本

第五十六條 裁判所又ハ當事者ヨリ正本ノ差出ヲ求ムルニ於テハ證書ノ廢本ハ之ヲ援用スル者ヲ
シテ其正本ヲ差出タス義務ヲ免カレシメス但其者カ正本ノ滅失ヲ證シタルトキハ此限ニ在ラス
然レトモ公正ノ正本又ハ裁判上追認アリタル私署ノ正本カ原本トシテ公吏ノ許ニ藏メラレタル
場合ニ於テ裁判所ニ其正本ヲ差出タスコトハ裁判所ノ命令ニ依リ民事訴訟法及ヒ公吏ノ規則ニ
從ヒテ之ヲ爲ス

第五十七條 正本ノ滅失シタルトキ其廢本ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テハ正本ト同一ノ證據力ヲ有ス

第一 公吏ノ作リシ公正證書ノ正式廢本タルトキ

第二 公正證書ノ廢本又ハ裁判上追認アリ且原本トシテ公吏ノ許ニ藏メラタル私署證書ノ廢本
ヲ當事者ノ要求ニ因リ其相手方ノ面前ニテ其公吏ノ作リタルトキ

第三 當事者出席ノ上又ハ合式ニ之ヲ召喚シタル上ニテ公吏カ裁判所ノ命ニ依リテ其廢本ヲ
作リタルトキ

第四 右三箇ノ場合ノ外滴法ニ正本ヲ預リタル公吏ノ作リシ廢本カ異議ヲ受ケヌシテ其日附
ヨリ二十個年ヲ經過シ且當事者間ニ於テ主張セラレタル權利ニ關シ裁判上又ハ裁判外ニテ
既ニ援用セラレタルトキ

廢本ニハ左ノ諸件ヲ附記スルコトヲ要ス

右第一ノ場合ニ於テハ其廢本ハ正式廢本タルコト

第二ノ場合ニ於テハ當事者ノ面前ニテ作リタルコト

第三ノ場合ニ於テハ裁判所ノ命ニ依リテ作リタルコト

總テノ場合ニ於テ其廢本ヲ正本ト校合シタル旨又ハ其廢本ノ正本ニ符合スル旨ヲ之ニ附記スル
コトヲ要ス

第五十八條 前條ニ記載シタル四箇ノ場合ノ外ハ公吏ノ作リタル證書ノ廢本ハ書面ニ因ル證據端
緒ノ用ヲ爲ス

第五十九條 公吏ノ作リタル廢本ノ復寫ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ限り單純ナル參考書ノ用ヲ爲ス
ノミ

然レトモ公正證書ノ廢本ヲ登記ノ公簿ニ隱寫シタルトキハ其廢寫ハ書面ニ因ル證據端緒ナリ
裁判上追認アリタル私署證書ノ正本ノ右ニ同シキ廢寫ハ亦書面ニ因ル證據端緒ノ効力ヲ有ス
廢寫カ其日附ヨリ二十個年ヲ經過シ且異議ヲ受クルコト無ク既ニ行使セラレタルトキハ其廢寫
ハ第五十七條第四號ニ從ヒテ完全ノ證據トス

第七節 證人ノ陳述

五百五十六

第六十條 物權又ハ人權ヲ創設シ、移轉シ、變更シ又ハ消滅セシムル性質アル總テノ所爲ニ付テハ其所爲ヨリ各當事者又ハ其一方ノ爲メニ生スル利益カ當時五十圓ノ價額ヲ超過スルトキハ公正證書又ハ私署證書ヲ作ルコトヲ要ス

人證ハ右ノ價額ヲ超過スルニ於テハ法律上明示若クハ默示ニテ例外ト爲シタルトキニ非サレハ裁判所之ヲ受理セズ

第六十一條 雙務契約ニ於ケル證書ノ必要ハ權利ノ最高ナル價額ニ依ル

第六十二條 請求又ハ抗辯ノ目的カ金錢ニ非サル場合ニ於テ相手方カ爭ノ價額五十圓ヲ超過スル旨ヲ陳述シテ人證ニ異議ヲ申立ツルトキハ裁判所ハ訴訟ノ元素ニ從ヒ又ハ鑑定ニ從ヒテ豫メ價額ノ評價ヲ爲ス

第六十三條 書面ヲ作りタル場合ニ於テハ書面ニ反スル事項若クハ書面外ノ事項ヲ證スル爲メ又ハ書面ノ意義ヲ變更ス可キ様其調製ノ際若クハ其前後ニ申述シタルモノヲ證スル爲メニハ縱令五十圓ヨリ少ナキ利益ニ關スルモ人證ヲ許サズ

此禁止ハ辨濟、免除、更改其他ノ義務消滅ノ原因ヲ證スル爲メ又ハ書面ヲ以テ證シタル物權ノ消滅又ハ變更ヲ證スル爲メ上ニ定メタル制限内ニ於ケル人證ヲ妨ケズ

總テノ場合ニ於テ主張セラレタル事實ノ日附及ヒ場所又ハ履行ノ爲メ口頭ニ定メタル時期及ヒ場所ノ脱漏ハ人證ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ得但此事ヨリ生スル利益ヲ主タル利益ニ加ヘテ價額五十圓ヲ超過セサルトキニ限ル

第六十四條 爭ノ利益カ五十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ原告又ハ被告ハ縱令其以下ノ數額ニ請求又ハ抗辯ヲ減スルモ人證ヲ許サズ

第五十圓ヲ超過セサル請求又ハ抗辯カ此數額ヲ超過シタル價額ノ殘餘ナルトキ亦同シ

第六十五條 前條ニ規定シタル二箇ノ場合ニ於テ證人訊問ニ因リ五十圓ヲ超過シタル利益ナルロ

トキ發見シタルトキハ人證ヲ許シタル裁判所ハ之ヲ取消ス可トキ要ス

第六十六條 上ノ規定ハ填補利息、過怠約款又ハ契約ニ從ヒテ返還ヲ受ク可キ果實ノ計額ヲ加フルカ爲メニ五十圓ノ額ヲ超過スル場合ニ於テ原告又ハ被告カ證人ヲ以テ其主タル債權ヲ證スル爲メ此從タル債權ヲ拋棄シ得ル妨ト爲ラズ

右ノ超過カ遅延利息又ハ要約セサル損害賠償又ハ請求後ニ返還ヲ受ク可キ果實ノミヨリ生スルトキハ全部ニ付キ人證ヲ許ス

第六十七條 書面ニ依リ全ク證セラレシテ各別ニ人證ノ許サル可キ數箇ノ請求ヲ爲スコトヲ得

ヘキ者ハ其原因ノ如何ニ拘ハラズ一箇ノ訴狀ニ其數箇ノ請求ヲ併合スルコトヲ要ス但此請求カ總テ滿期ノモノニシテ同一裁判所ノ管轄ニ屬スルモノタルトキニ限ル

右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テハ最早其脱漏シタル請求ニ付キ人證ヲ許サズ

第六十八條 前條ニ記載シタル如ク併合シタル數箇ノ請求又ハ抗辯カ五十圓ノ價額ヲ超過スルトキハ人證ヲ許サズ但此請求又ハ抗辯カ相異ナル原因ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラズ

第六十九條 左ノ場合ニ於テハ爭ノ價額ノ如何ニ拘ハラズ人證ヲ許ス

第一 書面ニ因ル證據端緒ノ存スルトキ

證據端緒トハ之ヲ以テ對抗セラル、人又ハ其人ヲ代表シタル者ヨリ出テタル總テノ書面ニシテ主張シタル事柄ニ付キ事實タルノ感ヲ起サシムルモノヲ謂フ

主張シタル事柄ノ書面ニ因ル證據端緒アルトキハ書面外ノ事項又ハ書面ニ反スル事項ニ付キ人證ヲ許ス

第二 原告又ハ被告カ不可抗力ニ因リ又ハ自己ノ過失若クハ懈怠ニ歸ス可カラサル意外ノ事ニ因リテ其證書ヲ失ヒタルコトヲ證スルトキ

○第二編民法○第五卷證據編

五百五十七

第三 主張シタル事柄ノ有リタル當時利害關係人カ書證ヲ得ル能ハサリシトキ
第七十條 前條第三號ハ殊ニ左ノ場合ニ之ヲ適用ス

第一 財産取得編第二百二十條及ヒ第二百二十一條第一項ニ規定シタル急迫寄託

第二 事變、不期ノ危険又ハ急迫ナル必要ノ場合ニ於テ負擔シタル義務

第三 合意外ノ原因ヲ有スル義務但此場合ニ於テ不當ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ヨリ生シタリト主張スル義務カ書面ヲ以テ證ス可キ性質ノモノタル權利行為ヲ推量セシムル
トキハ豫メ其證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十一條 法律カ人證ヲ許ス場合ノ外人證ヲ拒ムニ利益ヲ有スル當事者カ人證ニ依リテ證據ヲ

第七十二條 判事ハ證人ノ證據ニ因リテ拘束セラレズ其心證ニ從ヒテ判決ス

第八節 世評

第七十三條

法律上特ニ世評ニ因ル證據ヲ許ス場合ノ外或ル事實カ顯著ナルトキ法律カ其規定ヲ
此事實ニ適用ス可キコトヲ定メタル各箇ノ場合ニ於テハ此證ヲ用ユルコトヲ得

世評ニ因ル證據ニ於テハ證人ハ事實ニ付キ直接ニ自ラ知ラサルモ傳聞ニ因リ又ハ公然顯著ナル
ニ因リテ知リタル所ノモノヲ陳述スルコトヲ得

第三章 間接證據

第七十四條

間接證據ナル推定ハ法律カ直接證據ナキ場合ニ於テ知レタル事實ヨリ知レサル事實
ニ自ラ推及シ又ハ裁判官ノ明識ト思慮トニ委ヌル結果ナリ

右第一ノ推定ヲ法律上ノ推定ト謂ヒ第二ノ推定ヲ事實ノ推定ト謂フ

第一節 法律上ノ推定

第七十五條

法律上ノ推定ニハ其證據力ト其原因トニ從ヒテ左ノ區別アリ
第一 完全ニシテ公益ニ關スルモノ

第二 完全ニシテ私益ニ關スルモノ

第三 輕易ナルモノ

第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

第七十六條

公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フ
ニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サズ此推定ハ之ヲ左ニ揭ク

第一 既判力

第二 取得又ハ免責ノ時効

第七十七條

既判力ハ判決注文ニ包含スルモノニ存ス

第七十八條

既判力ハ真正ト推定セラレ
然レトモ確定ト爲ラサル判決ハ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ期間ニ於テ之ヲ攻撃スルコトヲ

第七十九條

判決ノ確定ト爲リタルトキ同一ノ争ヲ再ヒ訴フルコト於テハ其争ハ下ノ區別ニ從ヒ既
判力ニ依リテ之ヲ斥ク

第八十條

判決カ全部又ハ一分ニ付キ公ノ秩序ニ關スルトキハ既判力ニ因ル不受理ノ理由ハ裁判
所ノ職權ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

第八十一條

既判力ニ於テハ利害關係人ヨリ其不受理ノ理由ヲ以テ對抗スルコトヲ要ス
此他ノ場合ニ於テハ利害關係人ヨリ其不受理ノ理由ヲ以テ新請求又ハ新答辨ニ對抗スルコトヲ得ルニハ其請

求又ハ答辨カ舊請求又ハ舊答辨ニ比較シテ左ノ諸件アルコトヲ要ス

第一 權利又ハ事實ニ關シ争ノ目的ノ同一ナルコト

第二 主張ノ原因ノ同一ナルコト

第三 原告、被告ノ權利上ノ資格ノ同一ナルコト

第八十二條

新請求又ハ新答辨ノ目的カ數量ニ付テノ舊請求又ハ舊答辨ノ目的ト異ナリタルモ

キハ新請求又ハ新答辨ノ目的ハ舊請求又ハ舊答辨ニ包含シタルモノト看做ス但舊請求又ハ舊答辨ヲ裁判セシ裁判所カ新請求又ハ新答辨ノ數量ヲ正當トスルニ於テハ之ヲ許與スル權力ヲ有セシトキニ限ル

第八十三條 舊争カ合意又ハ遺言ノ銷除、廢罷又ハ解除ヲ目的トシタルトキハ其争ノ際存在シタルモ當事者ノ知リテ申立テサリシ他ノ同性質ノ原因ハ當事者之ヲ拋棄シタリト推定セラレ更ニ之ヲ新争ノ原因トシテ用ユルコトヲ得ス
方式ノ瑕疵アル證據ヲ其瑕疵ノ爲メ無効トスル舊争中ニ申立テサリシ他ノ方式ノ瑕疵ニ付テモ亦同シ

本條ノ適用ニ於テ銷除ノ訴ノ爲メニハ承諾ノ各種ノ瑕疵及ヒ各種ノ無能力ヲ同性質ノ原因ト看做シ又解除ノ訴ノ爲メニハ合意不履行ノ各種ノ場合ヲ同性質ノ原因ト看做ス

第八十四條 當事者カ或ハ自身ニテ同一ノ資格ヲ以テ既ニ舊訴訟ニ出テタルトキ或ハ舊訴訟ニ於テ其前主若クハ代理人ニ因リテ代表セラレタルトキ或ハ利害關係人ノ結合カ略ニ相互代理シタルトキハ當事者ノ權利上ノ資格ハ同一ナリトス

第八十五條 刑事裁判所カ犯罪ノ所爲ノ爲メニ要求セシ民事上ノ賠償ニ付キ判決シタル場合ノ外尙ホ重罪、輕罪又ハ違警罪ノ判決ハ犯罪ニ附著スル民事上ノ利益ニ付キ既判力ヲ有ス但犯罪所爲ノ眞實、其犯罪ノ性質及ヒ被告人ノ罪責ニ付テノ裁判ニ關スルモノニ限ル

第八十六條 法律上ノ推定ハ左ノ場合ニ於テハ私益ニ關スル完全ノモノナリ
第一 法律カ人ノ身分ニ關スル或ル資格ヲ付與シ又ハ拒絕スルトキ
第二 法律カ或ル所爲ヲ其規定ニ背キタルモノト推定シテ取消ストキ
第三 法律カ制規ノ公示ナキニ因リ第三者ニ知レサルモノト推定シテ或ル權利ノ行使ヲ拒絕スルトキ

此法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サズ然レトモ和解ヲ許ス場合ニ於テハ此推定ハ口頭自白ヲ以テ何時ニテモ之ヲ覆ヘスコトヲ得

第三款 輕易ナル法律上ノ推定
第八十七條 上ノ法律上ノ推定ニ非サルモノハ輕易ナル法律上ノ推定ナリ此推定ニ付テハ法律上ノ反對ノ證據ヲ明證セサルトキト雖モ總テ之ヲ許ス
右反對ノ證據ハ前二章ニ規定シタル條件ヲ以テスルコト非サレハ之ヲ舉グルコトヲ得ス
又輕易ナル法律上ノ推定ハ次條ノ場合ニ於テハ事實ノ推定ヲ以テ之ヲ駁棄スルコトヲ得

第二節 事實ノ推定
第八十八條 法律カ裁判所ニ其裁判ノ元素ヲ訴訟ノ事情ニ付キ採取スルコトヲ許ス特別ナル場合ノ外尙ホ裁判所ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ於テハ何等ノ直接ノ證據ヲモ舉ケサルトキト雖モ事實ヨリ生スル心證ニ從ヒテ争ヲ決スルコトヲ得

第二章 時効
第一章 時効ノ性質及ヒ適用
第八十九條 時効ハ時ノ効力ト法律ニ定メタル其他ノ條件トヲ以テスル取得又ハ免責ノ法律上ノ推定ナリ但動産ノ瞬間時効ニ關スル第四百四十四條以下ノ規定ヲ妨ケス

第九十條 正當ナル取得又ハ免責ノ推定ハ完全コシテ公ノ秩序ニ關スルモノトス此推定ハ第九十六條及ヒ第六十一條ニ規定シタル如ク法律ノ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サズ

第九十一條 取得時効ノ効力ハ占有ノ有益ニ始マリタル日ニ遡ル
免責時効ノ効力ハ債權者カ其權利ヲ第二百二十五條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒテ行フコトヲ得ヘカリシ日ニ遡ル

第九十二條 或ル訴訟ノ行使ノ爲メ法律ニ定メタル期間ハ其訴訟ノ性質ニ因リテ取得時効又ハ免

○第二編民法○第五章附屬編
五百六十一

責時効ノ一般ノ規則ニ從フ但法律カ明示又ハ默示ニテ例外ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス
第九十三條 時効ハ總テノ人ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得
又時効ハ總テノ人ニ對シテ進行ス但法律ニ依リ時効停止ノ利益ヲ受クル人ニ對シテハ此限ニ在ラス

第九十四條 總テ融通物ハ時効ニ罹ルコトヲ得但法律上之ニ異ナル規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス
不融通物及ヒ讓渡スコトヲ得サル物ハ時効ニ罹ルコトヲ得ス
公有ノ財産ハ動産ト雖モ亦同シ

第九十五條 自己ノ財産ニ付キ又ハ他人ニ對シテ行フコトヲ得ル法律上ノ權能ハ幾許ノ期間内之ヲ行ハサルモ爲メニ喪失セズ但法律、合意又ハ遺言ニ於テ之ニ異ナル定ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第九十六條 判事ハ職權ヲ以テ時効ヨリ生スル請求又ハ抗辯ノ方法ヲ補足スルコトヲ得ス時効ハ其條件ノ成就シタルカ爲メ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ス
時効ヲ援用スル當時併セテ正當ノ取得又ハ免責ナキコトヲ追認スル者ハ時効ヲ拋棄シタリト看做ス

第九十七條 時効ヲ援用スルニ利益ヲ有スル當事者ノ總テノ承繼人ハ或ハ原告ト爲リ或ハ被告ト爲リ其當事者ノ權ニ基キテ時効ヲ援用スルコトヲ得
債權者ハ財産編第三百二十九條ニ從ヒテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第九十八條 時効ハ訴訟中何時ニテモ之ヲ援用スルコトヲ得又控訴ニ於テモ始メテ之ヲ援用スルコトヲ得然レトモ上告ニ於テハ始メテ之ヲ援用スルコトヲ得ス

第九十九條 年又ハ月ニ依リテ成就ス可キ時効ハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
日ニ依リテ成就ス可キ時効ハ午前零時ヨリ午後十二時マテテ一日ト爲シテ之ヲ算ス

時効ノ進行ノ始マリタル日又ハ其中斷若クハ停止ノ後再ヒ進行ノ始マリタル日ハ之ヲ算セズ
最後ノ日ハ全ク經過スルコトヲ要ス

第二章 時効ノ拋棄

第一百條 時効ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス但第二百十條第二項ニ記スル如ク占有者カ將來ニ向ヒテ其占有ノ容假ヲ認ムル權利ニ妨ナシ
成就シタル時効ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得又其進行中ト雖モ既ニ經過シタル時期ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第一百十八條以下ニ記載セル相手方ノ權利ヲ追認シタル場合ニ於ケルト同シク時効ハ中斷ス

第一百一條 拋棄ハ默示タルコトヲ得ルト雖モ明カニ事情ヨリ顯ハル、コトヲ要ス

第一百二條 成就シタル時効ヲ有效ニ拋棄スルニハ取得シタリト推定セラル、權利ヲ無償ニテ讓渡シ又ハ消滅シタリト推定セラル、義務ヲ無償ニテ負擔スル能力アルコトヲ要ス

第一百三條 債權者ハ其權利ヲ侵害シテ債務者ノ爲シタル時効ノ拋棄ニ對シテハ財産編第三百四十四條以下ニ定メタル條件及ヒ方法ニ從ヒ自己ノ名ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第三章 時効ノ中斷

第一百四條 經過シタル時期ノ利益カ下ニ記シタル原因ノ一ニ由リテ消滅スルトキハ時効ハ中斷ス
中斷シタル時効ハ中斷ノ原因ノ止ミシ時ヨリ更ニ進行ス

第一百五條 時効ノ中斷ハ自然ノモノ有リ法定ノモノ有リ
自然ノ中斷ハ取得時効ニ關シテノミ生ス
法定ノ中斷ハ取得及ヒ免責ノ時効ニ共通ナリ

第一百六條 動産不動産又ハ包括動産ノ占有者カ眞ノ所有者又ハ第三者ノ所爲ニ因リテ一年以上其占有ヲ失ハレタルトキハ自然ノ中斷アリ

占有ノ瑕疵シタルトキハ時効ハ更ニ進行ス

若シ不可抗力ニ因リテ占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中断ナシ

第百七條 自然ノ中断ハ各利害關係人ノ爲メニ其効ヲ生ス

第百八條 占有者カ或ル時間任意ニテ其占有ヲ止メシトキハ其占有不繼續ノ効力ハ第百三十九條ニ於テ之ヲ規定ス

第百九條 法定ノ中断ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 裁判上ノ請求

第二 勸解上ノ召喚又ハ任意出席

第三 執行文提示又ハ催告

第四 差押

第五 任意ノ追認

右ノ手續又ハ追認ノ行為カ時効ノ爲メ害ヲ受ケル者ノ權利ニ明カニ關係スルコトヲ要ス

第百十條 法定ノ中断ハ中断ノ所爲ヲ行ヒタル者及ヒ其承繼人ノ爲メニ非サレハ其効ヲ生セズ

第百十一條 本訴ト附帶訴ト反訴トハ裁判上ノ請求ハ時効ヲ中断ス但其請求カ方式ニ於テ無効タルトキ又ハ管轄違ノ裁判所ニ之ヲ爲シタルトキモ亦同シ

然レトモ右但書ノ場合ニ於テ中断ハ初ノ請求ヲ棄却セシ判決アリタル時ヨリ二个月内ニ更ニ同式ノ訴ヲ提起セサルニ於テハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十二條 中断ハ左ノ場合ニ於テモ亦之ヲ不成立ト看做ス

第一 請求カ其基本ニ於テ棄却セラレタルトキ

第二 原告カ取下ヲ爲シタルトキ

第三 訴訟手續カ民事訴訟法ニ定メタル時間休止シテ無効ト爲リタルトキ

第百十三條 裁判上ノ請求ヨリ生スル中断ハ訴訟ノ提起ヨリ其判決ノ確定ト爲ルマテ繼續ス

第百十四條 勸解上ノ召喚又ハ任意出席ニ因ル時効ノ中断ハ主タル請求ハ勿論其反對ノ請求ヨリモ生ス

召喚ノ無効ハ方式ノ瑕疵ニ因ルモ管轄違ニ因ルモ中断ヲ妨ケス但初ノ召喚ノ無効ト爲リタルヨリ一个月内ニ更ニ同式ノ召喚ヲ爲スコトヲ要ス

合式ノ召喚ノ上勸解不調ノ場合及ヒ被告ノ出席ノ場合ニ於テ中断ハ一个月内ニ裁判上ノ請求ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十五條 執行文提示ヨリ生スル中断ハ一年内ニ差押ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

右ノ中断ハ方式ノ瑕疵ニ因リテ其提示ノ無効ナルトキト雖モ尙ホ成立ス但催告ヨリ生スル中断ノ爲メ下ニ定メタル條件ヲ履行スルコトヲ要ス

第百十六條 義務履行ノ催告ハ義務ノ目的、原因及ヒ債務者ヲ明カニ指示シ且六个月内ニ裁判上又ハ勸解上ノ請求ヲ爲シタルトキニ非サレハ時効ヲ中断セズ

第百十七條 差押ヨリ生スル中断ハ其差押ノ手續カ合式ニ終結マテ繼續シタルニ非サレハ其効力ヲ存續セズ

假差押ハ裁判所ノ定メタル期間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ非サレハ時効ヲ中断セズ

時効ノ利益ヲ受ケル者ニ對シテ差押ヲ爲サ、ルトキハ其差押ハ此者ニ告知シタル後ニ非サレハ之ニ對シテ中断ノ効力ヲ有セズ

第百十八條 任意ノ追認ヨリ生スル時効ノ中断ハ裁判上ヨリ又ハ口頭タルト書面タルトハ同ハス

裁判上ノ追認ハ自發ナルコト有リ又ハ判事ノ訊問ヨリ生スルコト有リ

第百十九條 追認ハ明示又ハ默示ナルコトヲ得

占有者カ占有物ニ關スル果實又ハ賠償ノ要求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ占有者カ物ニ付キ爲シタル必要若シハ有益ノ費用ノ爲メ賠償ヲ要求スルトキハ殊ニ取得時効ニ對スル默示ノ追認

債務者ノ利息又ハ債務ノ辨濟ノ請求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ債務者ヲ提供ヲ爲シ若クハ
恩惠期限ノ請求ヲ爲ストキハ殊ニ免責時効ニ對スル默示ノ追認アリトス

第百二十條 眞ノ所有者ノ權利ヲ追認シタル占有者ハ其所有者及ヒ其承繼人ニ對シ新時効ヲ再ヒ
始ムル權利ヲ失ハス然レトモ占有者ハ最早其以前ノ善意ノ利益ヲ援用スルコトヲ得ス

若シ其占有者ノ容假ノ占有者ト爲リタルトキハ將來ニ向ヒ何人ニ對シテモ時効ノ利益ヲ失フ但
財產編第百八十五條第二項及ヒ第三項ノ場合ノ適用ヲ妨ケス

第百二十一條 追認ニ因リテ中斷シタル免責時効ハ即時更ニ進行ス然レトモ其時効ハ最初短期ノ
モノナリシトキト雖モ將來ニ向ヒテハ長期時効ノ期間ニ從フ

第百二十二條 時効ヲ中斷スル追認ハ自己ノ財產ヲ管理スル能力又ハ時効ニ罹ルコト有ル可キ財
產ヲ他人ノ爲メニ管理スル權力ヲ有スル者ニ於テ之ヲ爲シタルトキハ有效ナリ

然レトモ婦、無能力者又ハ委任者ノ利益ニ於ケル不動産ノ取得時効ヲ中斷スル爲メ夫、後見人又
ハ代理人ノ爲シタル追認ハ不動産ノ請求ニ承服スル一般又ハ特別ノ權力アルニ非サレハ有效ナ
ラズ

第百二十三條 時効ヲ中斷スル追認ノ所爲ニ付キ爭アルトキハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スル
コトヲ得

第百二十四條 保證、連帶及ヒ不可分ノ場合ニ於テ各利害關係人ニ對スル追認其他ノ方法ニ因ル
時効中斷ノ效力ハ債權擔保編第二十七條、第六十一條、第八十一條及ヒ第八十九條ニ於テ之ヲ規
定ス

第四章 時効ノ停止

第百二十五條 權利ノ行使カ權利上又ハ恩惠上ノ確定若クハ不確定ノ期間ニ服シ又ハ其發生カ停
止條件ニ繫ルトキハ其期間ノ満了又ハ條件ノ成就ノ時ニ非サレハ時効ハ進行ヲ始メス

第百二十六條 時効ハ物權又ハ人權ニシテ其成立、廣狹又ハ行使カ相續ニ繫ルモノニ對シテハ其
相續後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第百二十七條 遺言又ハ前主ノ合意ニ對シ相續人ニ屬スル銷除訴權又ハ抗辯ノ時効ハ其遺言又ハ
合意ヲ相續人ニ對シテ援用シ又ハ其相續人ヲ害スル權利行使ノ基礎トシテ用ザタル後ニ非サレ
ハ進行ヲ始メス

第百二十八條 上ノ場合ニ於テ時効ハ第三所持者ニ對シテ停止セス但所有權ノ取得時効又ハ抵當
ノ消滅時効ヲ中斷セント欲スル利害關係人ニ於テ自己ノ未定ノ權利ノ追認證書ヲ得ント請求ス
ルコト又ハ裁判上其權利ヲ單ニ追認セシムルコトヲ妨ケス

第百二十九條 時効カ其進行中ニ停止セラルルトキハ既ニ經過シタル時間ハ其時効ノ更ニ進行ヲ
始ムル時ニ之ヲ通算ス

第百三十條 時効ハ法律ニ定メタル人ノ利益ニ於ケルニ非サレハ停止セス

第百三十一條 期間五個年以下ノ時効ハ成年者ニ對スル如ク未成年者及ヒ禁治產者ニ對シテ進行
ス但後見人カ此等ノ者ノ權利ヲ行フコトヲ怠リ又ハ正當ノ原因ナクシテ此權利ヲ覺知セサル場
合ニ於テハ此等ノ者ヨリ其後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

五個年ヲ超ユル時効ニ關シテハ其期間ハ成年ニ達シタル未成年者又ハ精神ノ回復シタル禁治產
者ヲシテ常ニ其權利ヲ行フ猶豫ヲ得セシムル爲メ最後ノ一個年停止ス

第百三十二條 時効ハ婦ニ對シ第三者ノ利益ニ於テ進行ス但夫カ婦ノ爲メニ管理スル財產ニ關シ
其夫ノ方ニ懈怠アル場合ニ於テハ婦ヨリ夫ニ對スル求償權ヲ妨ケス

然レトモ法律ニ規定シタル場合ニ於テハ時効ハ婦ノ爲メ最後ノ一個年停止ス

第百三十三條 前二條ノ規定ハ無能力者自身ニテ爲シタル行爲ノ銷除訴權ノ時効停止ニ關シ財產
編第五百四十五條及ヒ第五百四十六條ニ定メタルモノヲ妨ケス

第百三十四條 配偶者ノ一人ヨリ他ノ一人ニ對シテ行フ可キ權利ニ關シテハ婚姻中ト雖モ時効ハ
○第二編民法○第五五章證據編
五百六十七

進行ス

然レトモ其時効ハ最後ノ一ノ年停止ス又一ノ年以下ノ時効ニ關シテハ其最後ノ半期間停止ス
第百四十四條ノ場合ニ於テハ動産回復ノ期間ハ三ヶ月トス

第百三十五條 時効ハ財産ノ管理人ト其管理ヲ受クル者トノ間ニ於テ其保存スルコトヲ任セラレ
タル權利ニ付テハ管理人ノ爲メニ停止ス

時効ハ管理カ止ミシ以後ニ非サレハ更ニ進行セズ又第百四十四條ノ場合ニ於ケル動産ノ時効ニ
關シテハ三ヶ月ヲ以テスルニ非サレハ成就セズ

第百三十六條 上ニ定メサル場合ニ於テ時効ノ期間ノ滿了スル時ニ當リ有權者カ交通ノ塞カリタ
ルニ因リ又ハ地方ノ裁判事務ノ停止セラレタルニ因リテ其權利ノ効力ヲ致サシメ又ハ時効ヲ中
斷スル爲メ手續ヲ爲スコト能ハカリシ時ハ有權者其妨礙ノ止ム後直チニ請求ヲ爲スニ於テハ其
失權ヲ免カルルコトヲ得

右ノ規定ハ陸海軍人カ戰亂ノ時ニ於テ服役ノ爲メ其權利ヲ行フコトヲ妨ケラレタル場合ニ於テ
ハ其利益ノ爲メ之ヲ適用ス

第百三十七條 物權又ハ人權ノ不可分ヨリ生スル時効ノ停止ハ財産編第二百九十一條、第四百四
十六條及ヒ債權擔保編第八十九條第二項ニ於テ之ヲ規定ス

第五章 不動産ノ取得時効
第百三十八條 不動産ノ取得時効ニ付テハ所有者ノ名義ニテ占有シ其占有ハ繼續シテ中斷ナシ且
平穩ニ公然ニシテ下ニ定メタル繼續期間アルコトヲ要ス

財産編第八十二條及ヒ第百八十五條ニ定メタル如キ強暴、隱密又ハ容假ノ占有ハ時効ヲ生セ
ス

第百二十九條 占有者カ時効ニ因リテ取得セントスル物ニ付キ或ル長キ時間所有者ノ行爲ヲ爲ス
コトヲ任意ニ止メシトキハ其占有ハ不繼續ニシテ時効ヲ生セズ

占有者カ再ヒ所有者ノ行爲ヲ爲ストキハ其以前ノ占有ノ時間ハ占有者ノ爲メニ之ヲ算セズ
第百四十條 占有者カ上ニ定メタル條件ノ外財産編第八十一條ニ記載シタル如キ正權原ニ基因シ
且財産編第八十二條ニ從ヒテ善意ナルトキハ占有者ハ不動産ノ所在地ト時効ノ爲メ害ヲ受ク
ル者ノ住所又ハ居所トノ間ノ距離ヲ區別セズ十五年ヲ以テ時効ヲ取得ス

占有者カ正權原ヲ證スルコトヲ得ヌ又ハ之ヲ證スルモ財産編第八十七條ニ規定シタル如ク其
善意カ證セラルトキハ取得時効ノ期間ハ三十年トス

第百四十一條 性質上登記ヲ爲スコキ正權原ニ基因シタル時効ハ其證書ニ依リ登記ヲ爲シタル後
ニ非サレハ之ヲ算セズ

第百四十二條 方式上無効ナリ又ハ裁判上取消サレタル權原ハ時効ノ爲メニ有益ナラス

第百四十三條 前主ノ占有者其相續人及ヒ包括若クハ特定ノ承繼人ノ占有ニ併合シ又ハ繼續スル
コトハ財産編第九十二條ニ於テ之ヲ規定ス

第六章 動産ノ取得時効
第百四十四條 正權原且善意ニテ有體動産物ノ占有ヲ取得スル者ハ即時ニ時効ノ利益ヲ得但第百
三十四條及ヒ第百三十五條ニ記載シタルモノヲ妨ケズ

此場合ニ於テ反對カ證セラレサルトキハ占有者ハ正權原且善意ニテ占有スルモノトノ推定ヲ受
ク

第百四十五條 動産物ノ占有者カ正權原ヲ有シ且善意ナル場合ニ於テモ其物カ所有者ノ盜取セラ
レタルモノ又ハ遺失シタルモノナルトキハ其所有者ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二ノ年間ハ占有者
ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得但占有者カ其物ヲ有償コト受ケタルトキハ其讓渡人ニ
對スル求償ヲ妨ケズ

背信ニ因リテ隱匿シ又ハ詐欺ヲ以テ得タル物ニハ本條ヲ適用セズシテ前條ノ規定ニ從フ

第百四十六條 盜取セラレ又ハ遺失シタル物ヲ競賣又ハ公ノ市場ニ於テ又ハ此類ノ物ノ商人若ク

○第二編民法○第五章附錄編

五百六十九

ハ古物商人ヨリ善意ニテ買受ケタル者アルトキハ所有者ハ其買受代價ヲ辨償スルニ非サレハ回復ヲ爲ス爲スコトヲ得ス

此場合ニ於テハ右ノ代價ニ付キ所有者ハ賣主ニ對シ又賣主ハ讓渡人ニ對シテ求償權ヲ有シ終ニ盜取者又ハ拾得者ニ遡ル

第百四十七條 無記名債權證書ヲ盜取セラレ又ハ遺失シタル場合ニ於テ其證書回復ノ期間及ヒ條件ハ特別ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第百四十八條 上ノ場合ニ於テ回復者カ占有ノ無權原タリ又ハ惡意タルコトヲ證スルトキハ時効ハ三十年ヲ經過スルニ非サレハ成就セズ

第百四十九條 上ノ規定ハ用方ニ因リテ不動産ト爲リタル動産カ其附著シタル不動産ヨリ分離セラレタル場合ニ於テハ其動産ニ之ヲ適用ス

上ノ規定ハ財産編第十二條ニ從ヒ用方ニ因ル動産ニ之ヲ適用セズ但其物カ土地ヨリ分離シタルトキハ此限ニ在ラス

又上ノ規定ハ記名債權ニモ包括動産ニモ之ヲ適用セズ但此等ノ物ニ關スル時効ノ期間ハ第百二十八條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒ不動産ニ關スルモノト同一ナリ

第七章 免責時効
第百五十條 義務ノ免責時効ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ三十年間之ヲ行ハサルニ因リテ成就ス但法律上別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權者時効ニ罹ラサルモノト定メタルトキハ此限ニ在ラス

第百五十一條 債務ノ元本カ年賦ニテ辨償ス可キモノタルトキハ利息ヲ包含スルト否トキ間ハ時効ハ各年賦ノ要求期ニ達シタル時ヨリ各別ニ之ヲ算ス

第百五十二條 債權カ無期又ハ終身ノ年金權ナルトキト雖モ其時効ハ證書ノ日附ヨリ三十年ヲ以テ成就ス

然レトモ右ノ日附ヨリ二十八年ノ後ニ至リ債權者ハ債務者ニ對シ時効ヲ中斷スル爲メ雙方ノ費用ヲ以テ其權利ノ追認證書ヲ得ント要求スルコトヲ得
若シ債務者右ノ要求ヲ拒絕シ債權者裁判上自己ノ權利ヲ追認セシムル必要アルトキハ其費用ハ全ク債務者ノ負擔タリ

第百五十三條 動産質又ハ不動産質ノ返還ヲ得ル爲メノ對人新權ハ適法ナル方法ニ因リテ債務ノ消滅シタル後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第八章 特別ノ時効
第百五十四條 人ノ身分ニ關スル訴訟ハ法律カ其行使ヲ特別ノ期間ニ繫ラシムル場合ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第百五十五條 相続人又ハ包括權原ノ受遺者若クハ受贈者ノ分限ヲシテ效用ヲ致シシムル爲メノ遺産請求ノ訴訟ハ相続人又ハ包括權原ノ受贈者若クハ受遺者ノ權原ニテ占有スル者ニ對シテハ

和續ノ時ヨリ三十年ヲ經過スルニ非サレハ時効ニ罹ラス

第百五十六條 免責時効ハ左ニ掲ケル諸件ノ辨償ノ訴訟ニ對シテハ五十年トス

第一 明確ナル金額ノ填補又ハ遲延ノ利息

第二 無期又ハ終身ノ年金權ノ年金

第三 養料又ハ恩給ノ一期ノ支拂金

第四 借家賃又ハ借地賃

第五 果實又ハ日用品ノ毎期ノ給與額

第六 教師、番頭、手代、使用人、乳母其他ノ雇人ノ謝金又ハ給料ニシテ一年毎ニ定メラレタルモノ

此他一般ニ一年毎ニ又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メタル金額又ハ有價物ニ係ル債務ニ付テモ亦同シ但其辨償ノ方法如何ニ拘ハラズ且下ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

○第二編民法○第五章附屬編

第五百五十七條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ三ヶ年トス
第五百七十二

第一 醫師、產婆、藥劑者ノ治術、世話及ヒ調劑ニ關スル其訴權

第二 前條第六號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一個年ヨリ短ク一個月ヨリ長キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第三 技師、工匠、測量師、製圖師ノ經畫、意見及ヒ工事ニ關スル訴權

第四 不動産ニ關スル築造、地均其他ノ工作ニ付テノ請負人ノ訴權

第五百五十八條 公證人、辯護士、執達吏其他ノ公吏カ職務ニ關シテ受ク可キモノニ付テノ其訴權ニ對スル時効ハ二ヶ年トス

此場合ニ於テ時効ハ右各人ノ債權ヲ生セシメタル行為又ハ訴訟ノ終了後ニ非サレハ進行ヲ始メ然レトモ終了セサル事件ニ關シテハ右各人ハ五ヶ年餘ニ遡ル行為ノ爲メニ謝金ヲ要求スルコトヲ得ス

此規定ハ右各人カ其職務ノ爲メニ爲シタル立替金及ヒ支出金ニ之ヲ適用ス

第五百五十九條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ一個年トス

第一 非商人ニ爲シタル供給ニ關スル日用品、衣服其他動產物ノ卸賣商人又ハ小賣商人ノ訴權但商人又ハ工業人ニ爲シタル供給ト雖モ其者ノ商業又ハ工業ニ關セサル場合ニ於テハ亦同シ

第二 右ノ區別ヲ以テ注文者ノ材料又ハ動產物ニ付キ仕事ヲ爲ス居職ノ職工又ハ製造人ノ訴權

第三 生徒又ハ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校長、塾主、師匠又ハ親方ノ訴權

第六十條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ六ヶ月トス

第一 第五百五十六條第六號及ヒ第五百五十七條第二號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一個月又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第二 旅店又ハ料理店ノ主人ヨリ供給シタル宿泊料、飲食料及ヒ消費物ニ關スル其訴權

第三 日雇、月雇ノ職工又ハ勞力者ノ給料及ヒ其仕事ニ際シ此等ノ者ノ爲シタル些少ノ供給ニ關スル其訴權

第六十一條 前五條ニ規定シタル時効ノ現實ニ辨濟セサリシコトヲ自白シタル債務者之ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條 裁判所書記、辯護士ハ裁判ノ時ヨリ公證人ハ證書調製ノ時ヨリ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三ヶ年後ハ其職務ノ事件ニ關シテ交付セラレタル書類ニ付キ責任ヲ免カレ其書類返還ノ證ヲ提示スル義務ヲ免除セラル

第六十三條 本章ニ規定シタル時効ハ當事者ノ間ニ明確ナル計算書、數額ヲ記載シタル債務ノ追認書又ハ債務者ニ對スル判決書アルトハ之ヲ適用スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ時効ハ三ヶ年トス

附則

第六十四條 本法實施ノ當時ニ於テ進行中ナル時効ハ上ニ定メタル條件、禁止、中斷及ヒ停止ニ從フ

其期間ニ關シテハ舊時効カ新時効ヨリ一層長キ期間ヲ要スル場合ニ於テハ占有者又ハ債務者ハ本法實施ノ時ヨリ算シテ舊時効ノ經過ス可キ殘期カ新時効ノ期間ヨリ短キトキハ舊時効ヲ利スルコトヲ得

新時効ヨリ一層短キ期間ノ舊時効ニ關シテハ其期間ハ本法ニ定メタルモノニ等シキ期間ニ違スル様之ヲ延長ス可シ